

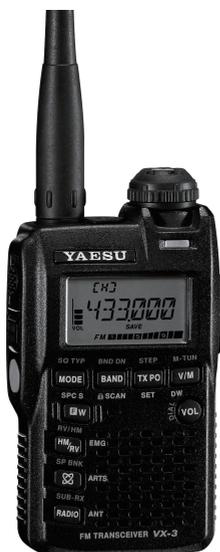
YAESU

The radio

VHF/UHF
ULTRA-COMPACT
DUAL-BAND TRANSCEIVER
WITH WIDE BAND COVERAGE

VX-3

取扱説明書



かんたん操作

お使いになる前に

各部の名称と操作

レピーター運用/WIRES運用

メモリーを使う

スキャンを使う

各種の便利な機能

特定の相手局との交信

必要に応じて使う機能

付録

当社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
正しくお使いいただくために、この「取扱説明書」をよくお読みください。
お読みになった後は、大切に保管してください。
製品の仕様・外観等は改良のため予告なく変更することがあります。
この取扱説明書に記載の社名・商品名などは、各社の商標または登録商標です。
本機を使用するためには、総務省のアマチュア無線局の免許が必要です。
また、アマチュア無線以外の通信には使用できません。

目次

かんたん操作	1	EAI機能	50
準備しよう	1	エマージェンシー機能	54
アンテナを取り付ける	1	チャンネルカフンター	55
ハンドストラップを取り付ける	1	スマートサーチ	56
電池パック「FB-82L」を取り付ける	1	盗聴器発見機能サーチ	57
電池パック「FB-82L」を充電する(約2.5時間)	2	メッセージ機能	58
乾電池ケース「FBA-37」の使いかた-オプション-	3	デュアルレシーブ(DW)機能	62
外部電源アダプター「MC-21」を接続する-オプション-	3	DTMF機能	64
送信してみよう	4	OW D機能	66
ラジオを聴いてみよう	6	ARTS機能	67
セットモードとは	7	Sメータースケルチ機能(RFスケルチ機能)	68
お使いになる前に	8	特定の相手局との交信	70
安全上の注意 -必ずお読みください-	8	トーンスケルチ機能/DCS機能	70
特長	11	ベル機能	72
電波を発射する前に	11	ページャー機能	74
各部の名称と操作	12	必要に応じて使う機能	77
各部の名称と動き	12	パスワード機能	77
ディスプレイの説明	13	照明の点灯条件を変更する	78
送信出力を切り替える	14	TX/BUSYインジケーターをライトとして使用する	78
DIAL以外にキーをロックする	14	TX/BUSYインジケーターをOFFにする	78
スケルチのレベルを調節する	14	操作音の音量を設定する	79
マニュアルでモードを切り替える	15	操作音がならないようにする	79
マニュアルでステップを切り替える	15	音量の設定方法を変更する	79
オールリセットをする	15	電源電圧表示機能	80
レピーター運用/WIRES運用	16	温度表示機能	80
レピーターで交信する	16	オンタイマー機能 -自動的に電源をオンする-	81
WIRESで交信する	17	APO機能-自動的に電源をオフする-	81
メモリーを使う	22	受信セーブ機能	82
多様なメモリー機能	22	送信セーブ機能	82
メモリーに書き込む	23	TOT機能 -連続送信時間を制限する-	82
メモリーを呼び出す	24	BCLO機能 -受信中に誤って送信しないようにする-	83
ホームチャンネルを呼び出す	24	マイクゲイン	83
メモリーチューン機能	25	ATT機能 -受信感度を下げる-	83
メモリーを消す	25	マイバンド機能	84
消したメモリーを復活する	25	インターネットキーの動作をマイキーに変更する	85
メモリータグを使う	26	メモリーオンリーモード	85
メモリーバンクを使う	28	OW学習機能	86
便利なスペシャルバンク	30	OWトレーニング機能	87
スペシャルバンクのTV専用メモリーでTV放送を聴く	31	セットモード番号順一覧表	88
スペシャルバンクを呼び出してJR鉄道無線を聴く	32	セットモード項目別一覧表	90
スペシャルバンクにプリセットされた国際V-F(マリン)無線を聴く	34	セットモードの動作一覧表	92
スペシャルバンクを呼び出して		セットモードリセット	92
世界各地の放送 AM/FMラジオ、TV放送を聴く	35	パケット通信に使う	106
スペシャルバンクにプリセットされた特定小電力無線を聴く	36	クローン操作	107
スペシャルバンクにプリセットされたワイヤレスマイクを聴く	37	付 録	108
スペシャルバンクにプリセットされた救急無線/消防無線を聴く	38	プリセットされている放送局周波数一覧表	108
スキャンを使う	40	TVチャンネル/周波数一覧表	112
VFOスキャン	40	JR鉄道無線周波数一覧表	112
メモリースキャン	42	周波数の使用区分	113
メモリーバンクスキャン	44	アマチュア無線局免許申請書類の書きかた	113
プログラムブルメモリースキャン(PMS)	46	オプション	116
各種の便利な機能	47	故障かな?と思ったら	117
ウェイクアップ機能	47	索引	118
SLB-RX機能	48	定 格	120
		キー操作早見表	表3

同梱品

梱包品をご確認ください。

本体(VX-3)	1	バッテリーチャージャー(SAD-15A)	1
アンテナ	1	取扱説明書(本書)	1
電池パック(FB-82L)	1	保証書	1

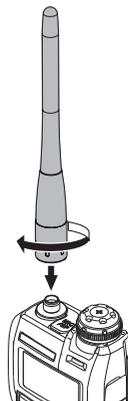
● 保証書に、お買い上げの販売店名とお買い上げ日が記入されていることを、ご確認ください。

○ 不足品がある場合には、お買い上げの販売店にお申し出ください。

準備しよう

アンテナを取り付ける

アンテナのコネクターに近い太い部分を持って、時計方向に回して取り付けます。



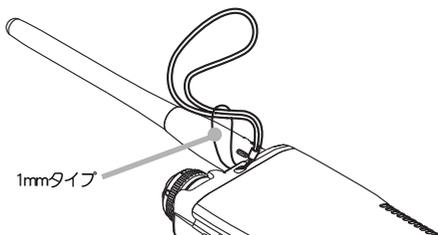
かんたん操作

- アンテナの取り付け/取り外し時には、アンテナの上部を持って回さないでください。アンテナの内部で断線する場合があります。
- アンテナを取り付けない状態で送信しないでください。送信回路が損傷する場合があります。
- 付属以外のアンテナを使用する場合や、外部のアンテナを接続する場合には、SWRが1.5以下に調整されたものを使用してください。

ハンドストラップを取り付ける (付属されていません)

取り付けひもが1mmタイプのストラップを取り付けてください。

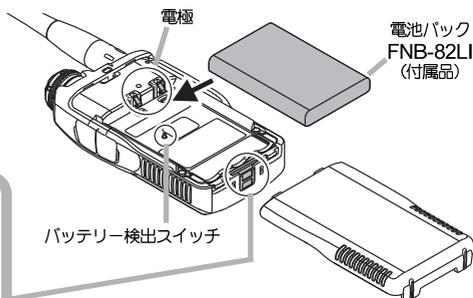
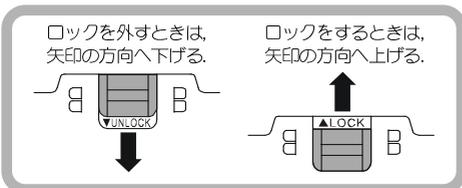
- ⚠️ **ご注意:** VX3の重量に十分耐えられる丈夫なハンドストラップを取り付けてください。
落下によるケガや破損・故障などの原因になります。



電池パック“FNB-82LI”を取り付ける

お買い上げ直後または長期間使用していない電池パックは、充電してからお使いください。

1. 本機底面のロックを下げ、カバーをスライドさせて外します。
2. 「電極」と「バッテリー検出スイッチ」を注意しながら電池パックを押し込んで入れます。
バッテリー検出スイッチは電池パックと乾電池ケースを見分けるためのスイッチです。スイッチを折らないように電池パックを上から押し込んで取り付けてください。
3. カバーをスライドさせて取り付け、ロックを「カチッ」と音がするまで上げます。



準備しよう (つづき)

電池パック(リチウムイオン電池)について

- 電池パックは、繰り返し使用できる充電可能なリチウムイオン電池(3.7V, 1100mAh)を使用しております。
- 電池パックは、正しく充電すると約300回使用できます。
- 電池パックは消耗品です。充電電を繰り返すと使用できる時間が徐々に短くなります。
- VX-3に電池パックを取り付けた状態で長期間放置すると電池パックの劣化を早める原因になります。
- 長期間放置/保管するときは、必ずVX-3から電池パックを外してください。また、過放電を防止するために、半年に1回程度の充電(50%程度)を行ってください。
- 高温の場所で保管すると、劣化の進行を早めることがあります。なるべく低温状態で保管してください。
- 電池パックを落としたり衝撃を与えると、破損の原因になります。

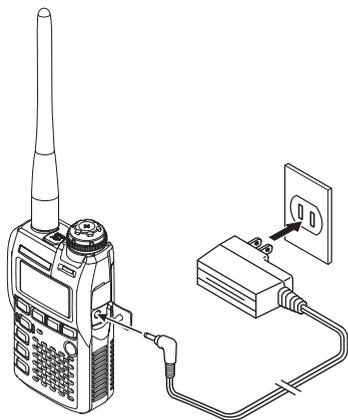
電池パック“FNB-82LI”を充電する(約2.5時間充電)

かんたん操作

1. VX-3の \odot を1秒以上押して電源を“オフ”にします。
2. 付属のバッテリーチャージャー(SAD-15A)を、VX-3のEXT DC 端子に接続して充電します。
充電中はディスプレイに充電の経過をあらわす棒グラフと“CHGNG”が表示され、BUSY/TXインジケータが赤色に点灯します。充電が終わると棒グラフはフルスケールに、表示は“CHGFUL”に変わり、BUSY/TXインジケータが緑色に点灯します。
3. 約2.5時間で充電は完了します。
4. 充電が終了したらVX-3からバッテリーチャージャーを外してください。



充電の経過を棒グラフであらわす



- 使用中にバッテリーチャージャーが発熱する場合がありますが故障ではありません。
- 充電は、周囲の温度が+5℃～+35℃の場所で行ってください。
- 電池パックが消耗すると“ \square ”が点滅します。すみやかに充電してください。
- 付属のバッテリーチャージャーは、充電専用です。受信や送信をすることはできません。
- 充電中にテレビやラジオにノイズが入ることがありますので、できるだけ離して充電してください。
- 電池パックが過放電して正常に充電できない場合は、下記のように充電してください。
 1. 電池パックをVX-3から外して再び電池パックを入れます。
 2. SAD-15Aを接続すると自動的にVX-3の電源が“オン”になりますので、電源を“オフ”にしてから充電してください。
- 3時間経過しても充電が完了しない場合は、“CHGERR”が表示され、充電を終了します。
- とくどき端子や電極を乾いた布や綿棒で拭いてください。端子や電極が汚れていると、接触不良になって正しく使用できないばかりではなく、発熱・破裂などの原因になります。

使用時間の目安と残量表示

フル充電した電池パックおよび、単三形アルカリ乾電池で使用できる時間の目安は次のとおりです。

使用バンド	電池パック	乾電池	アイコン表示	
アマチュアバンド	144MHz帯	約6.0時間	約7.0時間	なし：ほぼ一杯に充電されています。 \square ：残りわずかです。 \square ：空になりましたすぐ充電してください。(点滅)
	430MHz帯	約6.5時間	約7.5時間	
AMラジオ放送帯、短波帯、FMラジオ放送帯、TV放送帯	約20時間	約25時間		

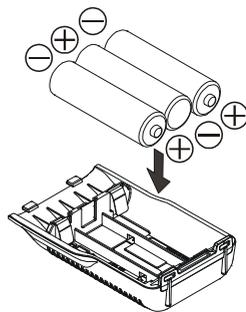
上記の目安は次の使いかたの場合です。

- アマチュアバンド：ハイパワーで送信6秒、受信6秒、待ち受け48秒の繰り返し
- その他のバンド：連続受信
- 上記の使用時間は目安です。実際に使用できる時間は、使いかたや温度などによって異なります。

準備しよう (つづき)

乾電池ケース“FBA-37”の使いかた - オプション -

オプションの乾電池ケース“FBA-37”を用意しておくこと、単三形アルカリ乾電池3本で使用することができます。なお、アルカリ乾電池を使用した場合の送信出力は、電池/パックと同様ハイパワー：1.5W(430MHz帯：1.0W)、ローパワー(**Low**)：0.1Wです。



かんたん操作

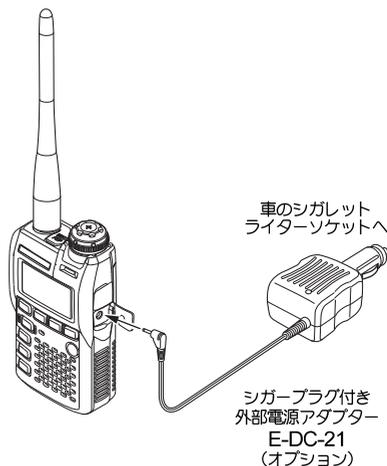
- 乾電池が消耗すると、ディスプレイの“”が点灯し、さらに消耗すると点滅します。
- 使用できる乾電池はアルカリ乾電池だけです。マンガン乾電池は使用できません。また、単三形の二次電池(充電電池)も使用できません。
- 古い電池と新しい電池を混ぜて使用すると、乾電池の寿命を短くすることがあります。
- 長時間使用しない場合は、乾電池ケース“FBA-37”から乾電池を取り外しておいてください。
- とどろき乾電池ケース“FBA-37”の端子や電極を乾いた布や綿棒で拭いてください。端子や電極が汚れていると、接触不良になって正しく使用できないばかりではなく、発熱・破裂などの原因になります。

外部電源“E-DC-21”を接続する - オプション -

オプションのシガープラグ付き外部電源アダプター(E-DC-21)を使用すると、充電しながら送受信することができます。オプションの取扱説明書もあわせてご覧ください。

1. VX-3のを1秒以上押して電源を“オフ”にします。
2. オプションのシガープラグ付き外部電源アダプター(E-DC-21)の無線機側のプラグを、VX-3のEXT DC端子に接続します。
3. シガープラグ付き外部電源アダプター のシガープラグを、車のシガレットライターソケットに接続します。

E-DC-21のLEDインジケーターが赤色に点灯します。

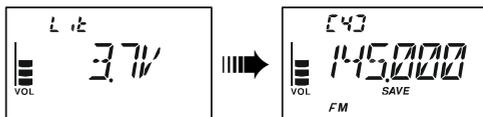


- VX-3の電源をオフにした状態での充電時間は約2.5時間です。なおVX-3の電源をオンにして充電すると、充電時間は多少長くなります。
- E-DC-21はDC12VとDC24Vのシガレットライターソケットに対応しています。
- 電池/パックが満充電になると、過充電保護回路が働き充電は終了します。
- 乾電池ケースを装着した場合でも、外部電源を使用することができます。
- 周囲の温度が+5℃～+35℃の場所で充電を行なってください。
- とどろき端子や電極を乾いた布や綿棒で拭いてください。端子や電極が汚れていると、接触不良になって正しく充電できないばかりではなく、発熱・破裂などの原因になります。

交信してみよう (基本操作)

1. 電源を入れる

⏻を1秒以上押しと電源がオンになります。
電源をオンにすると右図のように電源電圧を
表示した後、周波数を表示し受信します。
工場出荷時には、145.000MHzの周波数が
設定されています。



もう一度、⏻を1秒以上押しと電源がオフになります。

セットモードの『59 CPNMSG』により、電源を入れたときに表示する電源電圧をコールサインなどを表示するオープニングメッセージに変更することができます。また、電源電圧やオープニングメッセージを表示せずに、すぐに受信周波数を表示することもできます(※p. 100)。



2. DIALロックを外す

DIALツマミを上引張りロックを外します。



3. 音量を調節する

VOLを押しながらDIALツマミまわして、受信音を調節します。
VOLを離すと音量調節は解除されます。



音量のインジケータです。音量調節時にVOLアイコンが点滅します

- [BW]を押してから[VOL]を押しDIALツマミをまわすと、受信音を調節することもできます。もう一度[BW]を押してから[VOL]を押すと音量調節は解除されます。
この状態で、[TXPO]を1秒以上押ししてセットモードの選択操作をしたり、[BW]を押してからDIALツマミをまわしたりすると、DIALツマミの操作が音量調節以外の操作になります。この場合は、VOLを押しながらDIALツマミをまわすと音量調節ができるようになります。
- 側面のEAR端子に市販のステレオイヤホンと接続すると個別に音量調節をすることができます(ディスプレイに“HP”表示)。
- 音量を調節するときスピーカから何も聞こえていない場合は、MONI(モニター)スイッチを押して「ザー」という雑音を聞きながら音量を調節してください。



4. 周波数帯 (BAND) を選ぶ

[BAND] を押して周波数帯を選びます。

[REV] を押した後 **[BAND]** を押すと、反対方向に切り替わります (BND DN)。

144MHz帯 [4] ⇨ TV-VHF放送帯 [5] ⇨ 情報無線帯(1) [6] ⇨ 430MHz帯 [7] ⇨ TV-UHF放送帯 [8] ⇨
⇨ 情報無線帯(2) [9] ⇨ 短波帯 [1] ⇨ 60MHz帯 [2] ⇨ 航空無線帯 [3] ⇨ (144MHz帯に戻る)

- 現在、どの周波数帯を選択しているかディスプレイの左上に [1]~[9] の番号が表示されます (各周波数帯の番号は上記参照)。
- 周波数帯と受信周波数の関係表は 108ページを参照してください。
- **[REV]** を押すと、周波数帯のホームチャンネルが呼び出されます (※p.24)。
- 自動的に周波数帯に適したモードに切り替わる“AUTO (オートモード)”に設定されていますが、**[MODE]** を押すたびにマニュアルで AUTO、FM、AM、WFM に設定することができます (※p.15)。

選択している周波数帯を番号で表示

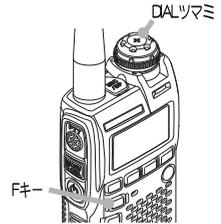


5. 周波数をあわせる

DIAL ツマミ で周波数をあわせませす。

DIAL ツマミ を右にまわすと周波数は高くなり、左にまわすと低くなります。

また、**[REV]** を押した後 **DIAL ツマミ** をまわすと、
1MHz単位で変化します。



- **DIAL ツマミ** で周波数を直接選択できる状態を VFOモードといいます。
- 自動的に受信周波数に応じた最適なステップに切り替わる“AUTO (オートステップ)”に設定されていますが、**[REV]** を押した後 **[TXP]** を押すと、**DIAL ツマミ** をまわして周波数ステップを切り替えることができます (※p.15)。
- セットモードの『90 VFO MD』により、周波数帯のエッジに達してさらに **DIAL ツマミ** をまわすと、現在の周波数帯の他端になるように設定することもできます。
- 下記の周波数帯は受信することができません。
253~276MHz、380~383MHz、412~416MHz、810~846MHz、860~901MHz、915~961MHz

6. 送信する

1. PTTスイッチを押しながら、マイクに向かって話します。

マイクと口元の間隔は、5cm位が適当で、普通の声で話します。

2. PTTスイッチを離すと受信に戻ります。

必要最小限の送信出力で運用してください (※p.14)。

長時間の連続送信はできるだけ避けてください。故障ややけどの原因になります。



- 144MHz帯と430MHz帯のアマチュア無線バンドで送信することができます。送信できるモードはFMモードのみです。WFMモードおよびAMモードで受信していても、PTTを押すとFMモードで送信します。
- 144MHz帯と430MHz帯のアマチュア無線バンド以外や、WFMおよびAMのモードでPTTを押したときは、ディスプレイに“ERROR”が表示され送信できません。
- セットモードの『73 SAVETX』により、相手局の信号強度に合わせて送信出力が自動的に下がったりバッテリーをセーブすることができます。
- セットモードの『8 BCLQ』により、信号を受信中に送信しようとするとき送信を禁止することができます。
- 長時間送信し続けると過熱防止保護機能が働き、送信出力が自動的にローパワーになります。また、過熱防止保護機能が働いているときにさらに送信を続けると、強制的に受信状態に戻ります。セット内部の温度が下がるまで本機をよく休ませてから送信してください。
- アンテナを取り付けない状態で送信しないでください。送信回路が損傷する場合があります。

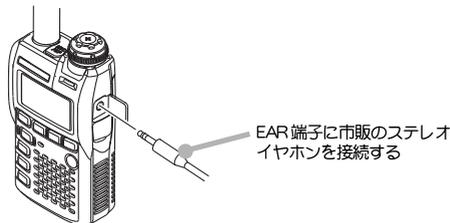
ラジオをきいてみよう

AM放送, FM放送, TV放送(1チャンネル~3チャンネル)を聴いてみる

VX-3は、ラジオ専用キー(**RADIO**)を押すと簡単にAM放送(中波帯), FM放送またはTV放送(1チャンネル~3チャンネル)を受信することができます。

AM放送(中波帯)は専用のバーアンテナが内蔵されていますのでVX-3の向きを変えて、一番電波の強くなる方向へ向けて受信してください。

FM放送は側面のEAR端子に市販のステレオイヤホンを接続すると、ステレオ放送を聴くことができます。アンテナの設定は49ページの「FMアンテナの切り替え」を参照してください。



EAR端子に市販のステレオイヤホンを接続する



F(ファンクション)キー

RADIOキー

1. **RADIO**を押すとラジオ機能になります。
2. **BAND**を押すたびにラジオ放送が切り替わります。
REWを押してから**BAND**を押すと、反対方向に切り替わります。

AM放送(中波帯) [A] ⇄ FM放送 [F] ⇄ TV放送 [T] ⇄ (AM放送に戻る)

3. **DIAL**ツマミをまわして放送局の周波数に合わせます。

ラジオ機能を終了するには**RADIO**を押します。

ラジオ機能に入る前の状態に戻ります。

AM 放送(中波帯)は[A]を表示
FM 放送は[F]を表示
TV 放送は[T]を表示



- TV放送はチャンネル表示ではなく、周波数を表示します。音声周波数は下記を参照してください。
1チャンネル：95.75MHz、2チャンネル：101.75MHz、3チャンネル：107.75MHz

本機で受信できるTV放送(音声)は、アナログテレビ放送の音声で、デジタル放送の音声を聴くことはできません。アナログテレビ放送は2011年7月24日に終了しましたので、テレビ音声を聴くことはできません。

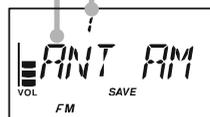
- よく聴く放送局の周波数をメモリーすることができます(**13** p. 23)。
- **BAND**を1秒以上押すと、ディスプレイに“RADIO”と表示されてからラジオバンド内をスキャンします。スキャン中に信号を受信するとビープ音が鳴り停止して受信し、5秒間停止した後、再びスキャンを開始します。スキャンが停止しているときには、デジタルポイントが点滅し、ディスプレイの照明が点灯します。
- ラジオを常時聴きながらアマチュアバンドの周波数またはメモリーチャンネルを常に監視(モニター)し、信号が入ったときだけラジオの音が消えて交信することができる“SUB-RX機能”で待ち受けすることができます(**13** p. 48)。
- ラジオを受信中にスペシャルバンク機能へ移行することはできません。スペシャルバンク機能へ移行する場合は、ラジオ機能を終了してからスペシャルバンク機能へ移行してください(**13** p. 30)。

セットモードとは

セットモード（SET）とは、一度設定してしまえばその後変更する機会の少ない機能や動作などの設定を行なう状態をいい、93種類の設定を行なうことができます。
なお、セットモードの詳細は88ページを参照してください。

1. **TXPO**を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. **DIAL**ツマミをまわして設定したいセットモードを選択します。
3. **TXPO**を押します。
4. **DIAL**ツマミをまわして設定する項目を選択します。
5. **TXPO**を1秒以上押してセットモードを終了します。

セットモードの項目
セットモード番号



設定項目



TXPOキー（TXPOキーを1秒以上押し）

お使いになる前に

安全上のご注意 ー必ずお読みくださいー

本機を安全に正しくお使いいただくために、必ずお読みください。

お客様または第三者の方が、この製品の誤使用・使用中に生じた故障・その他の不具合あるいはこの製品の使用によって受けられた障害については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

マークの種類と意味



危険

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が障害を負う可能性が想定される内容および物的障害のみの発生が想定される内容を示しています。

図記号の種類と意味



本機を安全にお使いになるために、行ってはならない禁止事項です。



本機を安全にお使いになるために、必ず守っていただきたい注意事項です。

危険



航空機内や病院内などの“使用を禁止された区域”では使用しないでください。電子機器や医療機器に影響を与える場合があります。



自動車やバイク等を運転しながら使用しないでください。事故の原因になります。運転者が使用するときは、必ず安全な場所に車を止めてから使用してください。



心臓ペースメーカー等の医療機器を装着されている方は、携行した状態では送信しないでください。送信する場合は、外部アンテナを使用し、できるだけアンテナから離れて送信してください。本機からの電波が医療機器に影響を及ぼし、誤動作による事故の原因になることがあります。



引火性ガスの発生する場所での運用やバッテリーチャージャーを使用しないでください。火災、爆発の原因になります。



心臓ペースメーカー等の医療機器を装着している方に配慮し、混雑した場所では送信しないでください。本機からの電波が医療機器に影響を及ぼし、誤動作による事故の原因になることがあります。



電池パックから漏れている液などに素手で触れないでください。皮膚に付着したり、目に入ると化学火傷を起こすおそれがあります。この場合、直ちに医師の診断を受けてください。



電池パックの端子をハンダ付けしたり、ショートさせたりしないでください。火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。また、ネックレスやヘアピンなどと一緒には持ち運ばないでください。ショートするおそれがあります。



外部アンテナを接続しているときに雷が鳴り出したら、速やかに本機の電源を切り、外部アンテナを本機から外してください。火災・感電・故障などの原因になります。

安全上のご注意 —必ずお読みください— (つづき)

警告



指定された電源電圧以外の電圧では使用しないでください。
火災や感電の原因になります。



電池パックを指定機器以外の用途に使用しないでください。
火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。



水のかかる場所では使用しないでください。故障の原因になります。もしケース等が濡れた場合は電源をすぐオフにし、乾いた布などで拭いてください。
濡れたまま放置すると、故障や感電などの原因になります。



長時間の連続送信はしないでください。
本体の温度が上昇し、発熱などの原因で故障ややけどの原因になることがあります。



無線機、電池パックおよびバッテリーチャージャーから煙が出ていたり、変な臭いがするときは、電源をオフにして、電池パックを取り外し、電源コードをコンセントから抜いてください。

火災・漏液・発熱・破損・発火・故障の原因になります。お買い上げの販売店または、当社カスタマーサポートにご連絡ください。



分解や改造をしないでください。
ケガ・漏液・感電・火災・故障の原因になります。



外傷、変形の著しい電池パックを使用しないでください。
火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。



当社指定以外のバッテリーチャージャーを使用しないでください。
火災や故障の原因になります。



電池パックの端子はいつもきれいにしておいてください。
火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。



電池パックの充電が所定の時間を超えても完了しない場合には、直ちにバッテリーチャージャーをコンセントから抜いてください。

火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。

注意



アンテナを持って、本体を振り回したり投げたりしないでください。
本人や他人に当たり、ケガの原因になります。また、本体の故障や破損の原因にもなります。



人の多い場所では使用しないでください。
アンテナが他人に当たり、ケガの原因になります。



本機を直射日光の当たる場所や熱器具の付近に置かないでください。
変形・変色などの原因になります。



本機を湿気やホコリの多い場所に置かないでください。
火災や故障の原因になります。



送信中は、できるだけ身体からアンテナを離してください。
長時間身体に電磁波を受けると、身体に影響を及ぼす場合があります。



シンナーやベンジンなどでケースを拭かないでください。
ケースの汚れは、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。



長期間ご使用にならない場合には、安全のため電源をオフにし、電池パックを抜いてください。



強い衝撃を加えたり、投げつけたりしないでください。
故障の原因になります。



磁気カードやビデオテープなどは本機に近づけないでください。
キャッシュカードやビデオテープなどの内容が、消去される場合があります。



イヤピースマイクロホン、イヤホン、ヘッドホンなどを使用するときは、音量を小さくしないでください。
聴力障害の原因になります。



小さなお子さまの手の届かない場所に保管してください。
ケガなどの原因になります。



ハンドストラップやベルトクリップの取り付けは確実に行ってください。
間違った取り付けかたは、落下によるケガや本体の破損などの原因になります。

安全上のご注意 —必ずお読みください— (つづき)

⚠ 注意



電池パックは5℃～35℃の温度範囲内で充電してください。

この温度範囲以外で充電すると、漏液や発熱したり、電池の性能や寿命を低下させる原因になります。



付属のバッテリーチャージャーで当社指定の電池パック以外は充電しないでください。

火災や故障の原因になります。



使用済みの電池パックは、端子にテープなどを貼って絶縁してから破棄してください。



テレビやラジオの近くでは送信しないでください。

電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。



当社指定のオプション以外の製品は使用しないでください。

故障の原因になることがあります。



バッテリーチャージャーを使用しないときは、コンセントから抜いてください。



バッテリーチャージャーの電源コードの上に重い物を載せないでください。

電源コードが傷つき、火災や感電の原因になります。



バッテリーチャージャーをコンセントから外すときは、必ずバッテリーチャージャー本体を持ってください。

電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災や感電の原因になります。



ハイブリッドカーや省燃費タイプの自動車で使用する場合は、必ず自動車メーカー等に確認のうえ運用してください。

車に搭載されている電装機器（インバーター等）からノイズの影響を受けて正常に受信できないことがあります。

⚠ 注意 ⚠

本機は耐水規格の無線機ではありません。

水のかかる場所や水に濡れる環境では、絶対に使用しないでください。

わずかでも内部に水が浸入しますと、非常に重大な故障の原因になり、修理が行えなくなる場合もございますので、十分にご注意ください。

また、濡れたまま放置すると感電などの原因になりますので、十分にご注意ください。

特 長

超小型軽量、広帯域受信機能搭載 144MHz/430MHz デュアルバンドトランシーバー！

W47mm×H81mm×D23mm（突起物含まず）、重量 130g（付属アンテナ、リチウムイオン電池パックを含む）を実現。ワイシャツの胸ポケットにはもちろん、手にすっぽり入る超小型軽量ハンディーです。

また、50kHz～999.900MHzに対応した広帯域受信機能を搭載した 144MHz/430MHz バンドのデュアルバンドトランシーバーで、小型のボディでありながら送信出力 1.5W（430MHz バンド：1W）を実現しています。

WIRES アクセス機能を搭載！ 17 ページ

インターネットに接続して通信距離を飛躍的に拡大する WIRES システムを利用することができます。

世界各地の放送、AM/FM ラジオ、TV 放送、鉄道無線、特定小電力無線、

ワイヤレスマイクなどをスペシャルバンクで簡単受信！ 30 ページ

専用プリセットメモリーにより、世界各地の主な放送局、AM/FM ラジオ放送局、TV 放送局、鉄道無線、特定小電力無線、ワイヤレスマイク、国際 VHF（マリン）無線、救急/消防無線の音声を簡単に聴くことができます。

ウェイクアップ機能！ 47 ページ

電源をオフにしても、自動的に信号の有無を確認します。電池の消費を大幅に少なくしながら、相手からの呼び出しを待つことができます。

ラジオ放送を聴きながら他の周波数を同時受信する SUB-RX 機能！ 48 ページ

ラジオ放送を受信中、同時にサブで他の周波数（またはメモリーチャンネル）を待ち受け受信を行います。信号を受信したときだけラジオ受信を中断して音声が届く機能です。

EAI(エマージェンシーオートマチックID)機能/エマージェンシー機能を搭載！ 50, 54 ページ

EAI機能は仲間との登山やハイキングの時、不慮の事故で自分の意識が無くなった時や、動けなくなった時などに、自分の行方を仲間に探索してもらうための機能です。また、エマージェンシー機能は白色のストロボ発光とピーブ音で緊急を知らせることができます。

周波数を測定するチャンネルカウンターを搭載！ 55 ページ

おおよその周波数しかわからないトランシーバーの周波数を知りたいとき、送信しているトランシーバーに近づけるだけで周波数を測定することができます。

盗聴器発見機能サーチを搭載！ 57 ページ

「盗聴器が仕掛けられているかもしれない」そんなときの助け舟。盗聴で使用されていると思われる電波を自動的にさがしだし、おおよその設置場所を発見することができます。

新ページャー機能！ 74 ページ

2つのトーンを使用した新しいページャー機能で、仲間同士で運用中に、特定の局だけを呼び出すことができます。

お
使
い
こ
な
る
前
に

電波を発射する前に

アマチュア局は自局の発射する電波が、テレビやラジオの受信に障害を与えたり障害を受けているとの連絡を受けた場合はただちに電波の発射を中止して障害の有無や程度を確認してください。

《参考》無線局運用規則 第8章 アマチュア局の運用

第258条 アマチュア局は、自局の発射する電波が他の無線局の運用又は放送の受信に支障を与え、若くは、与える虞があるときは、すみやかに当該周波数による電波の発射を中止しなければならない。（以下省略）

障害が自局の電波によるものと確認された場合、無線機、アンテナ系を点検し障害に応じてお買い上げの販売店または、当社カスタマーサポートに相談するなどして、適切な処置を行ってください。

受信側に原因がある場合、障害対策は単に技術的な問題に止まらず、ご近所付き合いなどで、むずかしい場合もあります。

一般社団法人 日本アマチュア無線連盟（JARL）では、電波障害の対策と防止についての相談窓口を開設しておりますので、対策にお困りの場合はご相談ください。

一般社団法人 日本アマチュア無線連盟（JARL）

〒170-8073 東京都豊島区南大塚 3-43-1

大塚HTビル6階

TEL. 03-3988-8754

各部の名称と操作

各部の名前と働き

DIALツマミ

- ・DIALツマミを上引張るとDIALロックが外れ、下に押し込むとDIALがロックされます。
- ・周波数を変えたり、メモリーチャンネルを選択します。
- ・**[BW]**を押した後DIALツマミをまわすと1MHz単位で周波数を変化させることができます。

MIC/SP端子

オプションのスピーカーマイクやイヤピースマイクを接続します。

! 当社指定以外のマイクやイヤホンは接続しないでください。

アンテナ端子 (SMA)

付属のアンテナを接続します。

ディスプレイ

受信する周波数や各種の設定状態などが表示されます。

PTTスイッチ

押ししているあいだ送信します。LOWパワーで運用時、一時的にハイパワーで送信することができます。

モニタースイッチ

・押ししているあいだ一時的にスケルチをオフにします。

- ・**[BW]**を押した後モニタースイッチを押すとスケルチの調節ができます (esp. 14)。

(電源) スイッチ

- ・1秒以上押しで電源をオン、再度1秒以上押しで電源がオフになります。

MODE キー

・手動でモードを切り替えます。工場出荷時は自動的に周波数帯に適合したモードに切り替わるオートモード (AUTO) に設定されています。

- ・1秒以上押ししたままに、DIALツマミをまわすと、チャンネルカウンタ、スマートサーチ、盗聴器発見機能サーチなどのスペシャルサーチを選択し、キーを離すと機能が動作します。

- ・**[BW]**を押した後 **[MODE]** を押すと、トンスケルチ機能やDCS機能がオン/オフすることができます。

- ・ファンクションモードになります。ファンクション中はディスプレイの「F」が点灯します。何も操作をしないと5秒間で解除されます。
- ・1秒以上押しすると、メモリーチャンネルへの書き込みモードになり「F」が点滅します。

- ・ホームチャンネルに移行します (esp. 24)。
- ・2秒以上押しすと、エマーゼンシーモードになり、ピープ音とBUSY/TXインジケータのストロボ発光 (白色) で緊急を知らせます (esp. 54)。

- ・**[BW]**を押した後 **[FM/RF]** を押すと、シフト設定されている周波数でリバース動作になります。

- ・WiFESなどのインターネット通信を行なうときに使用します。
- ・1秒以上押しすと、ARTS機能が動作します (esp. 17)。

- ・**[BW]**を押した後 **[S]** を押すと、スペシャルバンクを呼び出すことができます。スペシャルバンクには、あらかじめプリセットされている、TVチャンネル、JRF鉄道無線、国内放送および世界の放送局、ワイヤレスマイク、国際VHF (マリン)、特定小電力無線、救急/消防無線などを選択して受信することができます (esp. 30)。

BUSY/TXインジケータ

受信時は緑色に点灯し、送信時は赤色に点灯します。また、エマーゼンシーモードの時は白色に点滅します。

EAR端子

市販のステレオイヤホンや接続して、FMステレオ放送を受信することができます。

EXT DC 端子

外部電源を使用するときに、当社指定のシガープラグ付き外部電源アダプター (E-DC-21) を接続します。電池パックを充電するときは、この端子にバッテリーチャージャー (SAD-15A) を接続します。

! 当社指定以外の製品を、接続しないでください。

[V/M] キー

・VFOモードとメモリーモードが交互に切り替わります。

- ・1秒以上押しすると、希望するメモリーチャンネルを5秒間1回優先的に受信するデュアルレシーブ (プライオリティスキャン) 機能が動作します。

- ・**[BW]**を押した後 **[V/M]** を押すと、メモリーチャンネルの内容を一時的に変えることができるメモリーチューン機能が動作します。

[VOL] キー

押しながらDIALツマミを右にまわすと、音が大きくなります。

[TXPO] キー

・送信出力を2段階に切り替えることができます (esp. 14)。

・1秒以上押しするとセットモード移行します。

- ・**[BW]**を押した後 **[TXPO]** を押すと、DIALツマミをまわして周波数ステップを切り替えることができます。工場出荷時は自動的に受信周波数に応じた最適なステップに切り替わるオートステップ (AUTO) に設定されています (esp. 15)。

[BAND] キー

・バンドをアップ方向に切り替えます。

- ・1秒以上押ししたままに、DIALツマミをまわしてスキャン幅設定、キーを離すと、設定したスキャン幅でスキャンを開始します。

・**[BW]**を押した後 **[BAND]** を押すと、バンドをダウン方向に切り替えます。

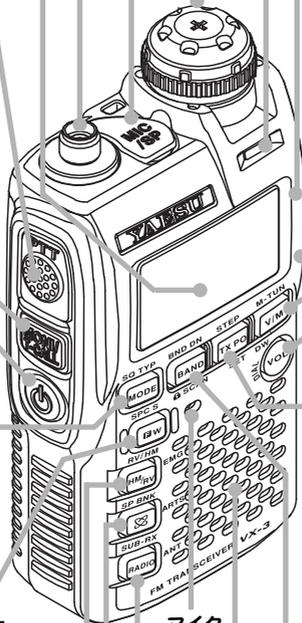
- ・**[BW]**を押した後 **[BAND]** を長押しすると、キーロックになります。

[RADIO] キー

・AM放送やFM放送のラジオやテレビ放送の音声 (1チャンネル~3チャンネル) を聴くことができます。

- ・1秒以上押ししたままに、DIALツマミをまわすとラジオを聴いているときにパーアンテナやイヤホンなど、ラジオ用のアンテナを設定することができます。

- ・**[BW]**を押した後 **[RADIO]** を押すと、ラジオを受信中に、信号が入感したときだけアマチュア無線の周波数を受信するSUB-FX機能が動作します (esp. 48)。



ディスプレイの説明

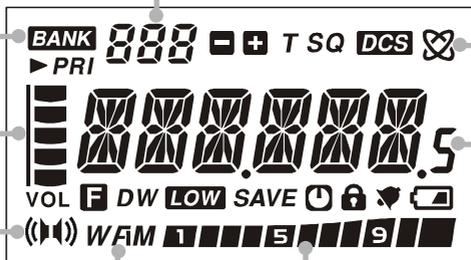
VFOモードやメモリーモードなどの動作状態を表示します。

メモリーがメモリーバンクの状態のときに表示します。

音量ボリュームの音量をインジケータで表示します。

FM放送のステレオ受信時に表示します。

運用モードを表示します。



WIRESなどのインターネット通信時に表示します。

周波数を表示します。

受信時は信号の強弱を表示します(Sメーター)。

送信時は送信出力を棒グラフで表示します(POメーター)。

アイコン部分

アイコン	動作説明	アイコン	動作説明
▶	スキップメモリーや特定メモリーが指定されたメモリーチャンネルを呼び出し中に表示します(※p. 43)。また、メモリーバンクリンク(※p. 45)の設定やセットモードの非表示設定(※p. 92)などに表示されます。 ▶ (点灯): スキップメモリー ▶ (点滅): 特定メモリー ▶ (点滅): メモリーバンクリンクの設定 ▶ (点灯): セットモードの非表示設定	🌐	WIRESなどのインターネット通信時に表示します(※p. 17)。
		F	キーがファンクションモードになっているときに点灯します。
PRI	プライオリティが指定されたメモリーチャンネルを呼び出し中に点灯します(※p. 62)。また、SUB-RX機能がサブ側を受信中に点滅します(※p. 48)。 PRI (点灯): プライオリティの設定 PRI (点滅): SUB-RX機能	DW	デュアルレシーブ時に点灯します(※p. 62)。
		LOW	送信出力を表示します(Sメーターが送信時POメーターとして動作し、送信出力を棒グラフで表示します)(※p. 14)。 なし: ハイパワー 1 5 9 LOW : ローパワー 1
- +	レピータ運用時にシフト方向を点灯します(※p. 16)。 - : マイナスシフト + : プラスシフト - + : スプリットメモリー	SAVE	バッテリーセーブ機能が動作中(セーブ中)に点滅します。
		🔌	APO機能が動作しているときに点灯します(※p. 81)。
T SQ DCS	トーンスケルチ, DCS, 空線スケルチ運用時に表示します(※p. 70)。 T : トーンエンコーダーがオンのときに点灯 T SQ : トーンスケルチがオンのときに点灯 DCS : DCSがオンのときに点灯 T SQ (点滅): リバーストーンがオンのときに表示 SQ : 空線スケルチがオンのときに点灯	🔒	LOCK機能がオンのときに点灯します(※p. 14)。
		🔊	ベル機能がオンのときに点灯します(※p. 72)。
		🔋	バッテリーの状態を表示します(※p. 2)。 なし: ほほ一杯に充電されています。 🔋: 残りわずかです。 🔋: 空になりましたすぐ充電してください(点滅) ださい。

送信出力を切り替える

VX-3の送信出力は、付属の電池/パックで1.5W(430MHz帯は1W)ですが、距離の近い相手と交信するときや、バッテリーの消耗を抑えるときには、送信出力を下げるができます。

電源の種類ごとの送信出力は下表のとおりです。

電源の種類	ハイパワー	LOW
電池/パック FNB-82LI	1.5W (430MHz帯:1.0W)	0.1W
シガープラグ付き外部電源アダプター E-DC-21(DC 6.0V)	3.0W (430MHz帯:2.0W)	0.3W



[TXPO]を押します。

[TXPO]を押すたびに、送信出力が切り替わり、送信メーターの振れが変わります。

ローパワーのときのみディスプレイに“**LOW**”が表示されます。

各バンドごとに送信出力を設定することができます。

- バッテリーの消耗を抑えるためにも、必要最低限の送信出力で使用してください。
- 送信出力を下げていなくても、**[QW]**を押した後**PTTスイッチ**を押すとハイパワーで送信できます(一時ハイパワー送信)。
- お買い上げ時の状態では「ハイパワー」に設定されています。

DIAL以外にキーをロックする

誤ってバンドやモードなどが変わってしまったりしないように、キーをロックすることができます。

[QW]を押した後**[BAND]**を1秒以上押します。

ロックされているときには、“**🔒**”がディスプレイに表示されます。

ロックを解除するときは、もう一度**[QW]**を押した後**[BAND]**を1秒以上押します。



- セットモードの『46 LOCK』により、**PTTスイッチ**をロックするように追加/設定することができます。

スケルチのレベルを調節する

信号が入感していないときに出る、耳障りなノイズを消すことができます。

FM/AM用と、WFM用の2種類のスケルチがあり、受信しているモードのスケルチを調節することができます。

スケルチレベルを上げるとノイズは消えやすくなりますが、弱い電波が入感しなくなることがありますので、必要に応じて調節してください。

1. **[QW]**を押した後**MONIスイッチ**を押します。
スケルチのレベル(LVL)を表示します。
2. **DIALツマミ**を上スライドして、**ロックを外してからまわしてレベルを調節**します。
FM/AMのときには、“LVL 0~LVL 15”まで調節できます(工場出荷時:LVL 1)。
WFMのときには、“LVL 0~LVL 8”まで調節できます(工場出荷時:LVL 2)。
3. **MONIスイッチ**を押して完了します。



- セットモード『78 SQ LVL』でも、受信しているモードのスケルチを調節することができます。

マニュアルでモードを切り替える

自動的にバンド(周波数帯)に適したモードに切り替わる“AUTO(オートモード)”に設定されていますが、マニュアルでモード(電波型式)を切り替えることができます。

[MODE]を押すたびにモードが切り替わります。

表示	動作状態
AUTO	自動的に周波数帯に適したモードに切り替えます。
FM	現在選択しているバンドのみ、FM(ステレオFM)モードに切り替えます。
WFM	現在選択しているバンドのみ、WFM(ワイドFM)モードに切り替えます。
AM	現在選択しているバンドのみ、AMモードに切り替えます。



一時“**AUTO**”が点灯しモードが表示する

通常は、AUTOに設定しておくことをおすすめします。

- セットモードの『70 FX MD』により、モードを切り替えることもできます。
- 144MHz帯、430MHz帯のアマチュアバンドでWFMやAMのモードに選択してあっても、FMモードで送信されます。

マニュアルでステップを切り替える

自動的に受信周波数に応じた最適なステップに切り替わる“**AUTO**(オートステップ)”に設定されていますが、マニュアルで周波数ステップを切り替えることができます。

1. **[BW]**を押した後に**[TXPQ]**を押します (STEP)。

現在、設定されているステップが表示されます。

2. **DIAL**ツマミをまわして希望のステップを選択します。

AUTO/5/(8.33)/(9)/10/12.5/15/20/25/50/100kHz
のステップから選択できます。

通常は、AUTOに設定しておくことをおすすめします。

3. **[BW]**を押した後に**[TXPQ]**を押すとステップが設定され、もとの状態に戻ります。



- 0.5~1.8MHzは“9kHz”または“10kHz”のみ選択できます。また“9kHz”ステップは0.5~1.8MHzのみ選択できます。
- 108MHz~136.99MHzのAir/バンド周波数は、8.33kHzステップのみ選択できます。
- 250MHz~300MHzと580MHz以上の周波数は、5kHzステップと15kHzステップの設定をすることができません。
- セットモードの『82 STEP』により、ステップを切り替えることもできます。

オールリセットをする

すべての設定やメモリーをクリアしてお買い上げ時の状態に戻すことができます。

1. **[MODE]** **[VM]**の2つのキーを押しながら**[ON]**を押して電源をオンにします。

「ピッポッパツ」とビープ音が鳴ると同時に、キーから指を離してください。

2. “**ALL RESET PUSH F KEY**”の表示が出ましたら、**[BW]**を押します。

「ピッポッパツ」とビープ音が鳴ります。

[BW]以外のキーまたはスイッチを押すと、リセットを中止することができます。



オールリセットを行うと、メモリーした内容は全て消去されます。メモリー内容は必ず紙などに控えておくようになしてください。

セットモードの設定値だけを、一度に工場出荷時の値に戻すことができます(セットモードリセット：
『p.92』)。

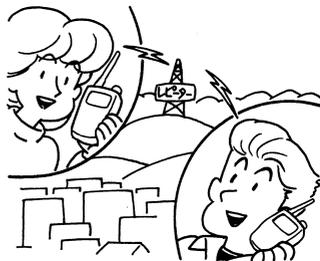
レピーター運用 / WiRES 運用

レピーターで交信する

ARS(Automatic Repeater Shift)機能により、受信周波数をレピーターの周波数(439.000~440.000MHz)に合わせるだけで、自動的にレピーターを使った交信ができます。

1. 受信周波数をレピーターの周波数に合わせます。

ディスプレイに“**RT**”が点灯します。



2. PTTスイッチを押しながら送信します。

送信時は88.5Hzのトーン信号を伴いながら受信周波数より5MHz低い周波数で電波が発射されます。

88.5Hz 以外のトーン信号を使用しているレピーターで交信する

1. 受信周波数をレピーターの周波数に合わせます。

2. [X.PQ]を1秒以上押します。

各種の設定を行なえるセットモードになります。

3. DIALツマミを上引張りDIALロックを外します。

4. DIALツマミをまわして『86 TN FRQ』を選択します。

5. [X.PQ]を短く押します。

6. DIALツマミをまわして希望のトーン周波数を選択します。

7. [X.PQ]を1秒以上押します。

トーン周波数が設定され、もとの表示に戻ります。

8. PTTスイッチを押しながら送信します。

送信時は設定したトーン信号を伴いながら受信周波数より5MHz低い周波数で電波が発射されます。

メモリーに登録することができます(メモリーに書き込む:☞p.23)。

- レピーター運用時に[GW]を押した後[RM]を押すと、一時的に送信周波数と受信周波数を入れ替えることができます(リバース:RV)。リバースが動作しているときはディスプレイの“**RV**”が点滅します。
- セットモードの『69 RPT.SFT』により、レピーターのシフト幅を変更することができます。
- セットモードの『68 RPT』により、レピーターのシフト方向を設定することができます。
- セットモードの『5 ARS』により、ARS機能の動作をオフにすることができます。

WiRESで交信する

以下の操作方法で、簡単にWiRES局を利用したインターネット通信を行なうことができます。

□ーカルQSOと同じようにVX-3を使用して、北海道から沖縄、そして海外にいるアマチュア無線仲間と、インターネットを通じて通信することができます。

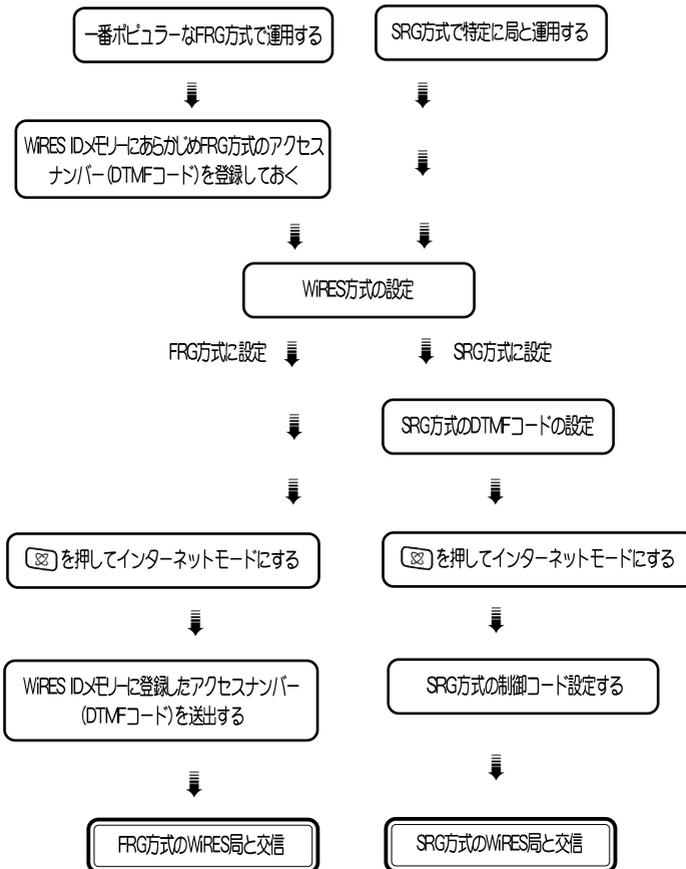
あらかじめ、お近くのWiRES局のアクセスコードや周波数を、八重洲無線のホームページ (<http://www.yaesu.com/jp/wiresinfo/index.html>) などでご確認ください。

なおWiRESには、不特定多数の相手と交信を行う“FRG方式”と、特定の相手局と通信を行う“SRG方式”があります。

WiRES-IIについて

WiRES-IIは、2017年9月30日をもってサービスを終了いたしました。

■ WiRES での交信操作の流れ



WiRESで交信する(つづき)

VX-3は以下の操作方法で、簡単にWiRES局を利用したインターネット通信を行なうことができます。あらかじめお近くのWiRES局のアクセスコードや周波数を八重洲無線のホームページ(<http://www.yaesu.com/jp/wiresinfo/index.html>)等でご確認ください。

■FRG方式のWiRES局をアクセス

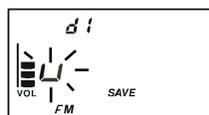
FRG方式のWiRES局をアクセスするには、ローカルのWiRES局に対して、インターネットを介して接続したいWiRES局のアクセスコード(6桁のDTMF信号)を送出することでアクセスすることができます。アクセスコード(6桁のDTMF信号)は八重洲無線のホームページ(<http://www.yaesu.com/jp/wiresinfo/index.html>)等で一般利用者向けに「WiRES ID リスト」として公開されております。あらかじめ、WiRES局に周波数とアクセスコードを確認してください。

●WiRESのFRG方式で使用するアクセスコードの登録

あらかじめアクセスコードと切断コード(F9999DまたはF99999)をWiRES IDメモリーに登録しておきます。WiRES IDメモリーは64メモリー(F0~F63)登録ことができ、メモリーできるDTMFコードは数字、英文字(A, B, C, D)、記号(* (E), # (F))です。

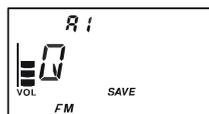
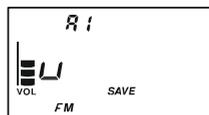
- アクセスコードのDTMFコードは最大8文字、アクセスコードの名前は最大6文字登録することができます。
- DTMFコード“*”は“E”、“#”は“F”と表示されます。
F9999Dの場合、実際のコードは# 9999Dとなります。
- DTMFコードに“-”を入れると一文字分のスペースを入れることができます。
- アクセスコードの名前に登録できる文字は59ページの“文字一覧表”を参照してください。
- アクセスコードや名前を入力中に [MEM] を1秒以上押しと、カーソルの文字とその文字以降を削除することができます。

1. [TXPO] を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. DIALツマミを上引張りDIALロックを外します。
3. DIALツマミをまわして『41 INT.SEL』を選択します。
4. [TXPO] を短く押します。
5. DIALツマミをまわして、WiRES IDメモリー番号を選択します。
ディスプレイにWiRES IDメモリー番号が点滅します。
6. [V/M] を短く押します。
ディスプレイにカーソルが点滅します。
7. DIALツマミをまわしてDTMFのアクセスコードを入力します。
8. [V/M] を短く押して次の桁へカーソルを移動します。
 [BAND] を押すとカーソルの位置を一桁前に戻すことができます
9. 手順7.~8.を繰り返し返して、アクセスコードを入力します(最大8文字)。
アクセスコードに名前を付けない場合は [TXPO] を1秒以上押しで終了します。
名前を付ける場合は手順10.に進んでください。



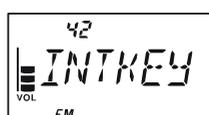
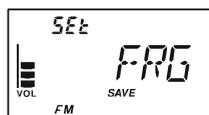
WiRESで交信する(つづき)

10. **[V/M]**を短く押します。
ディスプレイにWiRES IDメモリー番号が点滅します。
11. **[MODE]**を短く押すとアクセスコードに名前を付ける画面に変わります。
約2秒間ディスプレイに“-ALPH-”が表示されます。
もう一度**[MODE]**を押すと約2秒間ディスプレイに“-DATA-”が表示され、
アクセスコード入力画面に戻ります。
12. **[V/M]**を短く押します。
ディスプレイにカーソルが点滅します。
13. **DIAL**ツマミをまわしてアクセスコードの名前を入力します。
14. **[V/M]**を短く押して次の桁へカーソルを移動します。
[BAND]を押すとカーソルの位置を一桁前に戻すことができます
15. 手順 13.～14.を繰り返して、名前を入力します(最大6文字)。
16. **[TX PO]**を1秒以上押すと終了します。



●ローカルのWiRES局をアクセスする (FRG方式)

1. あらかじめアクセスコードと切断コードをWiRES IDメモリーに登録しておきます。
WiRES IDメモリーの登録方法は、18ページの「WiRESのFRG方式で使用するアクセスコードの登録」を参照してください。
2. **[TX PO]**を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
3. **DIAL**ツマミを上引張り**DIAL**ロックを外します。
4. **DIAL**ツマミをまわして『39 INT MD』を選択します。
5. **[TX PO]**を短く押します。
6. **DIAL**ツマミをまわして『FRG』を選択します(工場出荷時:FRG)。
7. **[TX PO]**を短く押します。
8. **DIAL**ツマミをまわして『42 INTKEY』を選択します。
9. **[TX PO]**を短く押します。
10. **DIAL**ツマミをまわして『INTNET』を選択します(工場出荷時:INTNET)。
11. **[TX PO]**を1秒以上押してセットモードを終了します。
12. **[☒]**を短く押しWiRESモードにします。
ディスプレイの右上に“☒”が表示します。
13. ローカルのWiRES局の周波数に合わせます。
14. **[☒]**を押したまま**DIAL**ツマミをまわして、送出したいアクセスコードを選択します。
 - 希望のチャンネル(F0~F63)を選択してください。
 - チャンネルに名前を付けている場合は、「コード」と「名前」を交互に表示します。
 - **[☒]**を押すと、周波数表示に戻ります。
15. **PTT**スイッチを押すと選択したアクセスコードが送出されます。
16. **PTT**スイッチを押したままマイクに向かって話します。
インターネットを介してWiRES局をアクセスすることができますので、あとは、一般の交信と同様に行ないます。
17. 交信を終了するときは、**[☒]**を押したまま**DIAL**ツマミをまわし、切断コード(#99999または#9999D)を選択した後、**PTT**スイッチを押して切断コードを送出します。



ローカルのWiRES局をアクセスする (FRG方式)

もう一つFRG方式のWiRES局をアクセスする方法があります。

工場出荷時は『42 INTKEY』の設定が「INTNET」の機能になっていますが、「INT MR」の機能に設定してアクセスすることができます。

「INTNET」と「INT MR」の大きな違いは、「INTNET」は  を押しながらDIALツマミをまわしてアクセスコードを選択しますが、「INT MR」は  を押した後にDIALツマミをまわしてアクセスコードを選択します。

1. あらかじめアクセスコードと切断コードをWiRES IDメモリーに登録しておきます。

WiRES IDメモリーの登録方法は、18ページの「WiRESのFRG方式で使用するアクセスコードの登録」を参照してください。

2. を1秒以上押します。

各種の設定を行なえるセットモードになります。

3. DIALツマミを上引張りDIALロックを外します。

4. DIALツマミをまわして『39 INT MD』を選択します。

5. を短く押します。

6. DIALツマミをまわして「FRG」を選択します(工場出荷時:FRG)。

7. を短く押します。

8. DIALツマミをまわして『42 INTKEY』を選択します。

9. を短く押します。

10. DIALツマミをまわして「INT MR」を選択します(工場出荷時:INTNET)。

11. を短く押します。

12. DIALツマミをまわして『43 INTNET』を選択します。

13. を短く押します。

14. DIALツマミをまわして「ON」を選択します(工場出荷時:OFF)。

ディスプレイの右上に“”が表示します。

15. を1秒以上押してセットモードを終了します。

16. ローカルのWiRES局の周波数に合わせます。

17. を短く押した後、アクセスコードが表示されます。

18. DIALツマミをまわして送出したいアクセスコードを選択します。

○ 希望のチャンネル(F0~F63)を選択してください。

○ チャンネルに名前を付けている場合は、「コード」と「名前」を交互に表示します。

○  を短く押すと、周波数表示に戻ります。

19. PTTスイッチを押すと選択したアクセスコードが送出されます。

20. PTTスイッチを押したままマイクに向かって話します。

インターネットを介してWiRES局をアクセスすることができますので、あとは、一般の交信と同様に行ないます。

21. 交信を終了するときは、 を短く押した後、DIALツマミをまわして、切断コード(#99999または#9999D)を選択し、PTTスイッチを押すと切断コードを送出します。



WiRESで交信する(つづき)

VX-3は以下の操作方法で、簡単にWiRES局を利用したインターネット通信を行なうことができます。あらかじめお近くのWiRES局のアクセスコードや周波数を八重洲無線のホームページ(<http://www.yaesu.com/jp/wiresinfo/index.html>)等でご確認ください。

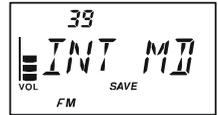
■SRG方式のWiRES局をアクセスする

SRG方式のWiRES局をアクセスするには、ローカルのWiRES局に対して、インターネットを介して接続したいWiRES局のアクセスコード(1桁のDTMF信号)を送出することでアクセスすることができます。あらかじめ、WiRES局に周波数とアクセスコードを確認してください。

●ローカルのWiRES局をアクセスする (SRG方式)

1. **[TX PO]**を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. DIALツマミを上引張りDIALロックを外します。
3. DIALツマミをまわして『39 INT MD』を選択します。
4. **[TX PO]**を短く押します。
5. DIALツマミをまわして「SRG」を選択します(工場出荷時:FRG)。
6. **[TX PO]**を短く押します。
7. DIALツマミをまわして『42 INTKEY』を選択します。
8. **[TX PO]**を短く押します。
9. DIALツマミをまわして「INTNET」を選択します(工場出荷時:INTNET)。
10. **[TX PO]**を短く押します。
11. DIALツマミで『38 INT CD』を選択します。
12. **[TX PO]**を短く押します。
13. DIALツマミで送りたいアクセスコード(DTMFコード“DTMF 0~9”, “DTMF A~F”)を表示させます。
DTMFコードの“*”は“E”, “#”は“F”と表示されます。
14. **[TX PO]**を1秒以上押してセットモードを終了します。
15. **[☒]**を短く押しWiRESモードにします。
ディスプレイの右上に“☒”が表示します。
16. ローカルのWiRES局の周波数にあわせませす。
17. PTTスイッチを押してアクセスコードを送出後、PTTスイッチを押したままマイクに向かって話します。
PTTスイッチを押すと、自動的にアクセスコードが送出されます。
18. PTTスイッチを押すたびに、手順13.でセットしたアクセスコードが送出され、インターネットを介してWiRES局をアクセスすることができます。

インターネットモードをオフにするには**[☒]**を押します。



メモリーを使う

多彩なメモリー機能

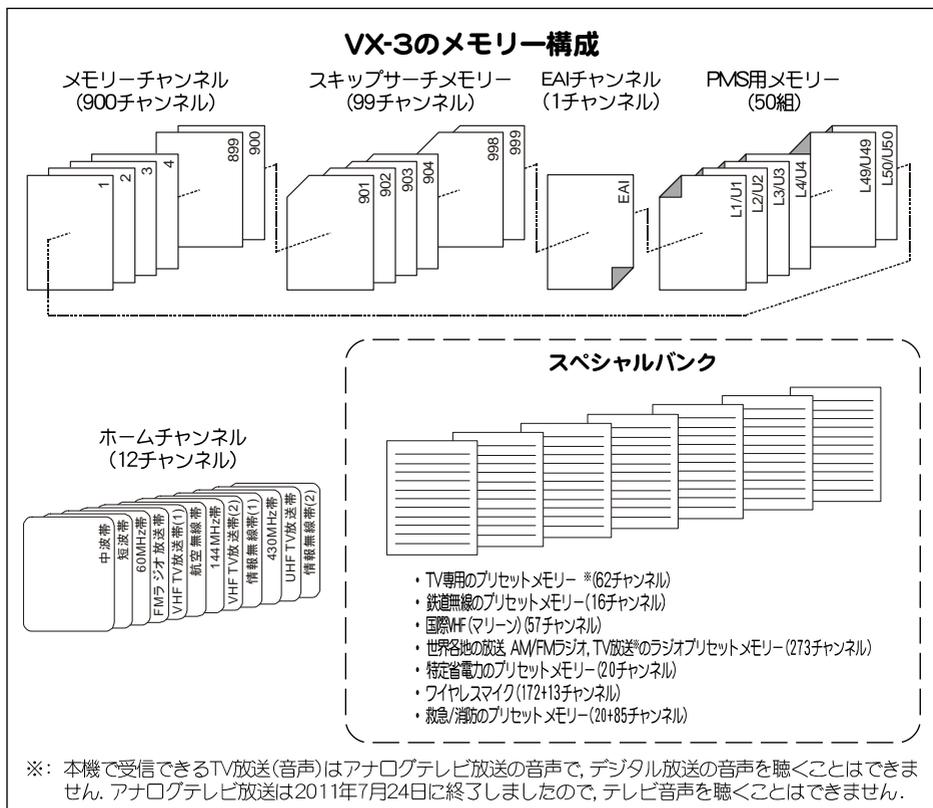
VX-3には、通常のメモリーチャンネル(メモリー番号1~900)の他に、

- ◎ 各周波数帯ごとに独立した、ワンタッチ呼び出し可能な“ホームチャンネル” (図p. 24)
 - ◎ 各地域に合わせてチャンネルを選択できるTV専用メモリー (62チャンネル)、鉄道無線 (16チャンネル)、国際VHF (マリーン) 無線 (88チャンネル)、世界各地の放送、AM/FMラジオ、TV放送 (273チャンネル) 特定小電力無線 (20チャンネル)、ワイヤレスマイク (172+13チャンネル)、救急/消防無線 (20+85チャンネル) などの“スペシャルバンク” (図p. 30 ~ p. 39)
 - ◎ 受信したくない周波数をVFOスキャン中にスキップさせる“スキップサーチメモリー” (図p. 41)
 - ◎ 50組の“プログラムブルメモリースキャン (PMS) 用メモリーチャンネル” (図p. 46)
 - ◎ 自分の行方を仲間に検索してもらうための“EAI専用メモリー” (図p. 50)
- を搭載しております。

なお、通常のメモリーチャンネルとホームチャンネルおよびPMSメモリーチャンネルには、各チャンネルごとに個別に、運用周波数の他に、運用モード(電波型式)やその他の運用情報などのデータも同時にメモリーすることができます。

- メモリースキップ情報
- 運用周波数
- メモリータグ
- トーン情報
- 空線スケルチ情報
- 送信出力
- 運用モード
- レピータ情報
- DCS情報

上記で紹介しましたメモリーを使用目的ごとのバンクに分けて整理することができます。VX-3では24種類のメモリーバンクに分けておくことができ、1つのメモリーバンクには最大100個のメモリーチャンネルを登録することができます。また、メモリーバンクに最大6文字の名前を付けることができます (図p. 29)。



※: 本機で受信できるTV放送(音声)はアナログテレビ放送の音声で、デジタル放送の音声を聴くことはできません。アナログテレビ放送は2011年7月24日に終了しましたので、テレビ音声を聴くことはできません。

メモリーに書き込む

VX-3には900チャンネル(メモリー番号1~900)のメモリーがあります。

1. VFOモードにします(メモリーモードの時は $\boxed{V/M}$ を押します)。
2. DIALツマミを上引張りDIALロックを外します。
3. メモリーする周波数をDIALツマミで選択します。
4. \boxed{M} を1秒以上押します。
 - 書き込みモードになり、以前書き込んだメモリー番号の次のメモリー番号がディスプレイに点滅します。
 - PTTスイッチを押すと、書き込みモードをキャンセルすることができます。
5. メモリーチャンネル番号を指定して書き込む場合は、DIALツマミをまわして希望するメモリーチャンネル番号を選択します。
 - すでに登録してあるメモリー番号は点灯し、まだ未登録のメモリー番号は点滅します。
 - すでに登録してあるメモリー番号を選択するとディスプレイに“M-WRT?”が表示され、上書きしてよいが警告が表示されます。よい場合は \boxed{M} 短く押してください。
 - \boxed{TXP} を押すたびに100チャンネルステップで早送りすることができます。
6. \boxed{M} を短く押してメモリー書き込みを完了します(もとの周波数表示に戻ります)。



- はじめてメモリーの書き込みをすると、あらかじめメモリーチャンネル1に145.000MHzが登録されていますので、書き込みたい周波数に書き替えてください。次回メモリーの書き込みをするときは、何も登録されていないメモリーチャンネルが呼び出されます。
- すでに登録されているメモリーチャンネルに再度書き込み操作を行うと、新しい周波数に書き替えることができます。
- \boxed{RADIO} を短く押してラジオを受信中に、ラジオの周波数をメモリーすることができます。メモリー方法は上記の手順4~手順6を行います。
- セットモードの『50 MR WMD』により、メモリー書き込み時に何もメモリーされていない最も小さい番号のメモリー番号を表示することができます。
- セットモードの『53 MPPTCT』により、すべてのメモリーを書き込み禁止にすることができます。

⚠ 注意 ⚠

メモリーした内容は、誤操作や静電気または電氣的雑音を受けたときに消失する場合があります。また、故障や修理の際にも消失する場合がありますので、メモリーした内容は、必ず紙などに控えておくようにしてください。

スプリットメモリー

1つのメモリーチャンネルに異なる受信周波数と送信周波数を登録することができます。

1. 上記の“メモリーを書き込む”に従い、受信周波数をメモリーします。
2. VFOモードで送信周波数を選択します。
3. \boxed{M} を1秒以上押します。
4. DIALツマミを上引張りDIALロックを外します。
5. DIALツマミをまわして、受信周波数をメモリーしたチャンネル番号を選択します。
6. PTTスイッチを押しながら \boxed{M} を短く押します。

異なる受信周波数と送信周波数を登録したメモリーチャンネルは、メモリーを呼び出したとき、ディスプレイに“ \boxed{M} \oplus ”が表示されます。

メモリーを呼び出す

1. メモリーモードにします (VFOモードの時は **[V/M]** を押します)。

最後に使用したメモリーチャンネルが呼び出されます。

2. DIALツマミを上引張りDIALロックを外します。

3. DIALツマミをまわして呼び出すメモリーチャンネルを選択します。

[BW] を1秒押した後に、DIALツマミをまわすと、10チャンネルづつ早送りすることができます。



[V/M] を押すと、VFOモードに戻り、メモリーモードに移行する前に選択していた周波数になります。

- DIALツマミをまわしたときは、周波数が書き込まれていないメモリーチャンネルはスキップされます。
- **[RADIO]** を短く押してラジオを受信中に、**[V/M]** を短く押すとディスプレイの **[BANK]** が点滅し、ラジオ周波数のメモリーチャンネル (AM放送、FM放送、TV (1チャンネル~3チャンネル) 放送) だけが呼び出されます。
- 工場出荷時では、メモリーチャンネル1にデュアルレシーブの優先チャンネルとして使用されるプライオリティメモリーチャンネルが設定されております。メモリー番号には“PRI”と表示されます (参考p. 62)。
- **[BW]** を1秒押した後に **[V/M]** を押すと、周波数は変わらずにVFOモードに戻ります (メモリー→VFO転送)。
- メモリーモードだけで運用することもできます。 **[V/M]** を押しながら **[PWR]** を押して電源をオンにすると、メモリーチャンネルだけを使える状態 (メモリーオンリーモード) になります。もう一度 **[V/M]** を押しながら **[PWR]** を押して電源をオンにすると、メモリーオンリーモードは解除されます (参考p. 85)。

ホームチャンネルを呼び出す

[HM/RV] を短く押します。

○ **[HM/RV]** を押したときに選択されていた周波数帯のホームチャンネル (右下表) が呼び出されます。

○ DIALツマミをまわして周波数を選択するとVFOモードに戻ります。

もう一度 **[HM/RV]** を押すと、ホームチャンネルを呼び出す前に選択していた周波数になります。



周波数帯	周波数
144MHz帯	145.000MHz
TV-VHF放送帯 (2)	175.750MHz
情報無線帯 (1)	379.000MHz
430MHz帯	433.000MHz
TV-UHF放送帯	481.750MHz
情報無線帯 (2)	859.000MHz
AMラジオ放送帯(中波)	540kHz
短波帯	1.800MHz
60MHz帯	60.000MHz
FMラジオ放送帯	76.000MHz
TV-VHF放送帯 (1)	95.750MHz
航空無線帯	108.000MHz

ホームチャンネルの周波数を変更する

ホームチャンネルの周波数を変更することができます。

1. VFOモードにします。
2. DIALツマミを上引張りDIALロックを外します。
3. 変更したい周波数をDIALツマミで選択します。
4. **[BW]** を1秒以上押し書き込みモードにします。
5. **[HM/RV]** を短く押します。

ディスプレイに“H+WRT?”が表示されます。

6. 再度 **[HM/RV]** を短く押すと書き込みが終了します。

変更した周波数の周波数帯におけるホームチャンネルが変更されます。

メモリーチューン機能 -メモリーチャンネルの内容を一時的に変える-

呼び出したメモリーチャンネルの内容を一時的に変更することができます。

1. メモリーモードで、**[B/W]**を短く押した後に**[V/M]**を短く押すと、メモリーチューン機能が動作し、ディスプレイに“とん”が表示されます。
2. DIALツマミを上引張りDIALロックを外します。
3. DIALツマミをまわして、一時的に周波数を変更することができます。
4. **[B/W]**を短く押した後に**[V/M]**を短く押すと、メモリーチューン機能が動作する前のチャンネルに戻ります。



- メモリーチューンのときに**[B/W]**を1秒以上押し、続けて**[V/M]**を短く押すと、一時的に変更している周波数をVFOに転送され、VFOモードで運用することができます。
- メモリーチューン機能はメモリーチャンネル“901~999”と“EAI”では、動作しません。

メモリーを消す

1. メモリーモードにします (VFOモードの時は**[V/M]**を押します)。
2. **[B/W]**を1秒以上押します。
3. DIALツマミを上引張りDIALロックを外します。
4. DIALツマミをまわして、消したいメモリーチャンネルを選択します。
5. **[M-DEL?]**を短く押します。



ディスプレイに“M-DEL?”の警告が表示されます。

[B/W]を押すとメモリーの消去をキャンセルすることができます。

6. 消してよければ**[M-DEL?]**を短く押します。

消去は完了します。

続けて他のメモリーを消すには、手順2から手順6を繰り返します。



消したメモリーを復活する

メモリーを選択時に、使用しないメモリーチャンネルを消さずに見えないようにすることができます。

1. メモリーモードにします (VFOモードの時は**[V/M]**を押します)。
最後に使用したメモリーチャンネルが呼び出されます。
2. DIALツマミを上引張りDIALロックを外します。
3. **[B/W]**を1秒以上押した後、DIALツマミをまわして復活したいメモリーチャンネルを選択します。
4. **[M-DEL?]**を短く押します。
メモリーチャンネルが復活します。

- メモリーチャンネル1は消去できません。

メモリータグを使う

■ メモリーに名前をつける

メモリーチャンネル、ホームチャンネルなどにコールサインや放送局名などの名前(メモリータグ)をつけることができます(最大6文字)。

入力できる文字(文字種)は、英字、数字、記号があります。

<<例>>「YAESU」を入力する場合

1. メモリーモードにします(VFOモードの時は[V/M]を押します)。
2. 名前をつけるメモリーチャンネルを呼び出します。
3. [TX/PO]を1秒以上押します。

各種の設定を行なえるセットモードになります。

4. DIALツマミを上引張りDIALロックを外します。
5. DIALツマミをまわして『52 MRNAME』を選択します。
6. [V/M]を短く押します。

ディスプレイにカーソルが点滅します。

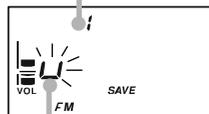
7. DIALツマミをまわして文字種を「Y」に指定します。
スペース ⇄ 記号 ⇄ 数字 ⇄ アルファベット ⇄ スペース ⇄ ...
入力できる文字は次ページの“文字一覧表”を参照してください。

8. [V/M]を押してカーソルを移動します。
9. DIALツマミをまわして文字種を「A」に指定します。
10. [V/M]を押してカーソルを移動します。
11. DIALツマミをまわして文字種を「E」に指定します。
12. [V/M]を押してカーソルを移動します。
13. DIALツマミをまわして文字種を「S」に指定します。
14. [V/M]を押してカーソルを移動します。
15. DIALツマミをまわして文字種を「U」に指定します。
16. [TX/PO]を1秒以上押して完了します。

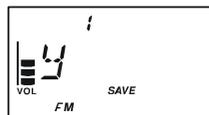
メモリーチャンネルにメモリータグが書き込まれ、セットモードを終了します。



カーソルの桁数を表示



カーソルが点滅



-
- 文字を修正したいときは、[BAND] (左方向へ移動)または[V/M] (右方向へ移動)を押して修正したい桁にあわせ、DIALツマミをまわして文字を選択します。
 - ホームチャンネルに名前をつける場合は、あらかじめ手順 1. で名前をつけたいホームチャンネルを呼び出しておきます。
 - メモリーバンク内のメモリーチャンネルに名前をつける場合は、手順 2. で“メモリーバンクを呼び出す”を参照し、メモリーチャンネルを呼び出しておきます。
-

メモリータグを使う(つづき)

■ メモリータグを表示する

- メモリーモードにします(VFOモードの時は **[V/M]** を押します)。
- 名前をつけたメモリーチャンネルを呼び出します。
各メモリーチャンネルごとにメモリータグ表示を設定することができます。
- [TX PO]** を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
- DIALツマミを上引張りDIALロックを外します。
- DIALツマミをまわして『49 MR DSP』を選択します。
- [TX PO]** を短く押します。
- DIALツマミをまわして「ALPHA」を選択します。
- [TX PO]** を1秒以上押します。
セットモードを終了し、周波数表示からメモリータグ表示にかわります。



メモリータグ表示を周波数表示に戻すには、手順7.の項目で「FREQ」を選択します。

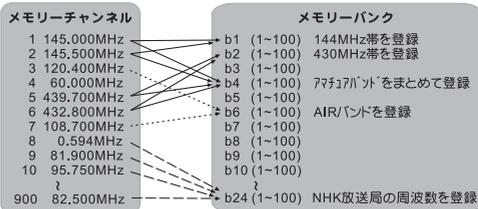
モニタースイッチを押している間、一時的に周波数を表示することができます。

○ 入力できる文字(文字種)は、下記の“文字一覧表”をご覧ください。

文字一覧表															
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P
Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	スペース	+	-	/	°	°
3	4	5	6	7	8	9	0	1	2	3	4	5	6	7	8
9	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	1	2	3	4

メモリーバンクを使う

メモリーチャンネルを使用目的ごとのバンクに分けて整理することができます。VX-3では24種類のメモリーバンクに分けることができ、1つのメモリーバンクには最大100個のメモリーチャンネルを登録できます。また、メモリーチャンネルを複数のメモリーバンクに登録することもできます。メモリーバンクに登録したメモリーチャンネルを変更または更新すると、メモリーバンク内のメモリーチャンネルの内容も変更されます。



■メモリーバンクに登録する

- メモリーモードにします (VFOモードの時は **[V/M]** を押します)。
- DIALツマミを上引張りDIALロックを外します。
- メモリーバンクに登録するメモリーチャンネルを呼び出します。
DIALツマミでメモリーチャンネルを選択します。
- [RW]** を1秒以上押すと、メモリーの書き込みモードになります。
- DIALツマミをまわしてメモリーバンクの番号 (b1~b24) を指定します。



—メモリーバンク選択時の注意—

:メモリーバンクを選択時にメモリーチャンネル、スキップサーチメモリーチャンネル、プログラマブルメモリーチャンネルも表示されます。表示される順序はDIALツマミをまわすと “1⇨2⇨3⇨…⇨L50⇨U50⇨b1⇨b2…⇨b24⇨1…” と表示され、太文字がメモリーバンクになります (メモリーチャンネルが“1”に近ければDIALツマミを左へ、またメモリーチャンネルが“U50”に近ければ右にまわすとメモリーバンクが表れます。また、**[XPO]** を押すと100桁ずつ早送りすることができます。

- [RW]** を短く押して登録が完了します。

○ スペシャルバンクのプリセットメモリーをメモリーバンクに登録する場合は23ページの「聴きたい放送局をメモリーバンクに登録する」を参照してください。

■メモリーバンクを呼び出す

- メモリーモードにします (VFOモードの時は **[V/M]** を押します)。
- [BAND]** を押し、メモリーバンクを選択します。
[BAND] を押すたびに “メモリー番号” ⇨ “BANK (番号)” が切り替わります。
- 他のメモリーバンク番号にするときは、**[RW]** を押した後 **[BAND]** を押します。
- DIALツマミを上引張りDIALロックを外します。
- DIALツマミをまわしてメモリーバンク (BANK 1~BANK 24) を選択します。
- [BAND]** を短く押して確定します。
- DIALツマミをまわしてバンク内のメモリーを選択します。
メモリーチャンネルを選択時にメモリー番号が約2秒表示した後、バンク番号に変わります。さらに、他のメモリーバンクを選択するときは、手順3~手順6を行いません。
- 通常メモリーモードに戻すときは、**[BAND]** を短く押します。
通常メモリーモードに戻ります。



メモリー番号が約2秒表示した後、バンク番号を表示



[RADIO] を短く押してラジオを受信中に、**[V/M]** を短く押してメモリーを呼び出し、**[BANK]** が点滅、さらに **[BAND]** を短く押してメモリーバンクを呼び出すと、メモリーバンク内のメモリーチャンネルに書き込んだラジオ周波数のメモリーチャンネル (AM放送、FM放送、TV (1チャンネル~3チャンネル) 放送) だけが呼び出されます。

メモリーバンクを使う(つづき)

■メモリーバンクへの登録を解除する

1. “メモリーバンクを呼び出す”を参考に、登録を解除したいメモリーチャンネルが登録されているメモリーバンクを呼び出します。
2. DIALツマミで、登録を解除したいメモリーチャンネルを選びます。
3. [B/W]を1秒以上押した後、[X]を押します。

メモリーバンクへの登録が解除され、手順1で呼び出したメモリーバンクの状態に戻ります。

なお、登録を解除したことにより、メモリーバンクが“空”になる場合は、バンク番号の最も小さなメモリーバンクに戻ります。

■メモリーバンクに名前を付ける

メモリーバンクに最大6文字の名前をつけることができます。

1. [TX/PO]を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. DIALツマミを上引張りDIALロックを外します。
3. DIALツマミをまわして『11 BNK.NAM』を選択します。
4. [TX/PO]を短く押します。
5. DIALツマミをまわして、名前を付けたいメモリーバンクを表示させます。
6. [V/M]を押します。
メモリーバンク番号が点滅します。
7. DIALツマミをまわして、メモリーバンクに付けたい名前を入力します。
8. [V/M]を押すと、次の桁の移動します。
[BAND]を押すとカーソルの位置を一桁前に戻すことができます。
9. 手順7~8を繰り返して、名前を入力します(最大6文字)。
10. [TX/PO]を1秒以上押すと終了します。



桁数を表示(1桁目)



メモリーを使う

文字一覧表

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P
Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	スペース	+	-	/	°	°
3	4	5	6	7	8	9	0	1	2	3	4	5	6	7	8
9	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	1	2	3	4
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	1	2	3	4	5

便利なスペシャルバンク

各地域に合わせてチャンネルを選択できる62チャンネルのTV専用メモリー、主要なJR鉄道無線(16チャンネル)、国際VHF(マリン)無線(57チャンネル)、世界各地の放送/AM・FMラジオ/TV放送(273チャンネル)、特定小電力無線(20チャンネル)、ワイヤレスマイク(172+13チャンネル)、救急/消防無線(20+85チャンネル)などのアクションバンドをあらかじめプリセットしてあるスペシャルバンクメモリーです。

TV専用プリセットメモリー “SP1 TV CH” 31 ページ
TV専用メモリーを呼び出すとTV放送の音声を簡単な操作で聴くことができます。また、現在いる場所で受信できるTV放送だけを選択できるようになります。

JR 鉄道無線プリセットメモリー “SP2 JR CH” 32 ページ
主要なJR鉄道無線のチャンネルがあらかじめ専用のスペシャルバンクに登録されています。また設定により、2280Hzの空線信号の音を消して、待ち受け受信をすることができます。

国際 VHF (マリン) 無線プリセットメモリー “SP3 INTVHF” 34 ページ
国際VHF(マリン)無線で使われている周波数(57チャンネル)が、あらかじめ専用のスペシャルバンクに登録されています。

世界各地の放送 /AM・FMラジオ /TV 放送プリセットメモリー “SP4 RADIO” 35 ページ
世界各地の主な放送、AM/FMラジオ放送、TV放送を聴くことができます。全部で273チャンネルで専用のスペシャルバンクに登録されています。

特定小電力無線プリセットメモリー “SP5 UHF CB” 36 ページ
特定小電力トランシーバーで使われている周波数(20チャンネル)が、あらかじめ専用のスペシャルバンクに登録されています。

ワイヤレスマイクプリセットメモリー “SP6 WLM-AB” “SP7 WLM-C” 37 ページ
主要なワイヤレスマイク周波数で使われている周波数が、あらかじめ専用のスペシャルバンクに登録されています。

救急無線プリセットメモリー “SP8 119FA” 38 ページ
救急アナログ無線(20チャンネル)で使われている周波数が、あらかじめ専用のスペシャルバンクに登録されています。

消防無線プリセットメモリー “SP9 119FD” 38 ページ
消防アナログ無線(85チャンネル)で使われている周波数が、あらかじめ専用のスペシャルバンクに登録されています。

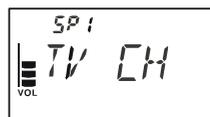
スペシャルバンクのTV専用メモリーでTV放送を聴く

TV専用メモリーを呼び出すとTV放送の音声を簡単な操作で聴くことができます。ディスプレイにはTV放送の周波数とチャンネルが同時に表示されますので簡単に選択できます。また、現在いる場所で受信できるTV放送だけを自動的にスキャンし、選択することができます。

本機で受信できるTV放送(音声)は、アナログテレビ放送の音声で、デジタル放送の音声を聴くことはできません。アナログテレビ放送は2011年7月24日に終了しましたので、テレビ音声を聴くことはできません。

■ TV放送をチャンネル番号で選択する

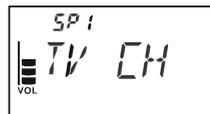
1. **[EW]**を押した後に**[CH]**を押します (SP BNK)。
スペシャルバンクになります
2. **[BAND]**を数回押して「TV CHJ」を選択します。
選択後プリセットされているTVチャンネルと周波数を表示します。
3. DIALツマミを上引張りDIALロックを外します。
4. DIALツマミをまわし、聴きたいTVチャンネルを選択します。
5. TV放送の受信を終了するときには、**[EW]**を押した後に**[CH]**を押します。



■ 現在いる場所で受信できるTVチャンネルを選択する

次の操作を行うと、現在いる場所で受信できるTV放送だけを選択できるようになります。

1. **[EW]**を押した後に**[CH]**を押します (SP BNK)。
スペシャルバンクになります
2. **[BAND]**を数回押して「TV CHJ」を選択します。
3. **[BAND]**を1秒以上押して、離すとスキャンを開始します。
TV放送のすべてのチャンネルをスキャンした後自動的にスキャンは停止し、受信信号のなかったチャンネルは表示しないように設定されます。
4. 上記の方法でTV放送の選択を行うと、受信できるTV放送だけを選択することができます。



メモリーを使う

- 全チャンネル受信できる状態(工場出荷時と同じ状態)に戻すには、**[EW]**を押した後モニタースイッチを押して、スケルチレベルを“0”にセットしてからスキャンをしてください。
- 放送のないチャンネルが表示される場合は、スケルチレベルを上げてからもう一度上記の操作を行ってください。
- 受信する地域が変わった場合は、上記の操作を繰り返して設定しなおしてください。
- TV放送のチャンネルを選択しているときに、**[EW]**を1秒以上押した後**[CH]**を押すと、そのチャンネルをスキップさせることができます。また、チャンネルを復活させる場合は、**[EW]**を1秒以上押した後、DIALツマミでスキップさせたTVチャンネルに合わせ、**[CH]**を押すとともに戻ります。
- 登録されている各TVチャンネル(62チャンネル)の音声周波数は112ページの“TVチャンネル/周波数一覧表”を参照してください。
- よく聴くTV放送局をメモリーバンクに登録することができます(「聴きたい放送局をメモリーバンクに登録する」を参照: p. 35)。

—メモリーバンク選択時の注意—

メモリーバンク以外にTVチャンネルも表示されます。

表示される順序はDIALツマミをまわすと“1⇔2⇔3⇔・・・⇔b1⇔b2・・・⇔b24⇔1・・・”と表示され、太文字がメモリーバンクになります(TVチャンネルが1に近ければDIALツマミを左へ、またTVチャンネルが62に近ければ右にまわすとメモリーバンクが表れます。また、誤ってTVチャンネル1~62に登録しようとしても、“TV ERR”メッセージが表示され登録されません。

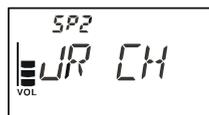
スペシャルバンクを呼び出してJR鉄道無線を聴く

主要なJR鉄道無線のチャンネルがあらかじめ専用のスペシャルバンクに登録されています。よく聴くJR鉄道無線のチャンネルを普通のメモリーに書き込むことができます。また、2280Hzの空線信号の音を消して、待ち受け受信をすることができます。

デジタル通信に移行している地域では、受信することができません。

■JR鉄道無線のチャンネルを選ぶ

1. **[BW]**を押した後に**[☒]**を押します (SP BNK)。スペシャルバンクになります。
2. **[BAND]**を数回押して「JR CH」を選択します。選択後、プリセットされているJR鉄道無線の周波数を表示します。
3. **DIALツマミ**を上引張り**DIALロック**を外します。
4. **DIALツマミ**をまわして希望のJR鉄道無線の周波数を選択します (下表参照)。
5. 鉄道無線の受信を中止するときは、**[BW]**を押してから**[☒]**を押します。



スペシャルバンクに登録されているJR鉄道無線の周波数

チャンネル番号	周波数 (MHz)						
J1	352.5375	J5	352.5625	J9	352.5875	J13	352.6125
J2	336.0375	J6	336.0625	J10	336.0875	J14	336.1125
J3	352.5500	J7	352.5750	J11	352.6000	J15	352.6250
J4	336.0500	J8	336.0750	J12	336.1000	J16	336.1250

メモリーを使う

- スペシャルバンクは、他の周波数のデータに書き換えることはできません。
- **[BAND]**を1秒以上押して離すとスペシャルバンクに登録されているJR鉄道無線のチャンネルをスキャンします。スキャン中に信号を受信するとスキャンは5秒間停止し、その周波数を受信します。スキャンが停止したときの動作を設定することができます (「スキャンストップ時の受信方法を設定する」を参照：☞p.41)。
- よく聴くJR鉄道無線をメモリーバンクに登録することができます (「聴きたい放送局をメモリーバンクに登録する」を参照：☞p.34)。

⚠ 注意 ⚠

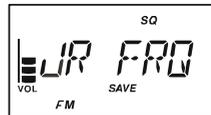
電波法第59条で「特定の相手方に対して行われる無線通信を傍受して、その存在若しくは内容を漏らし、又はこれを窃用してはならない」と定められています。他人の会話を聞いて、これを漏らしたり窃用することは法律で禁止されていますのでご注意ください。

スペシャルバンクを呼び出してJR鉄道無線を聴く(つづき)

■JRの空線信号音を消す (空線スケルチ機能)

通話が行なわれていないときに聴こえる、「ピー」という2280Hzの空線信号音を消すことができます。

1. スペシャルバンクにより、聴きたいJR鉄道無線の周波数を選択します。
2. **[W]**を短く押した後**[MODE]**を短く押します(SQ TYP)。
セットモード『79 SQ TYP』のショートカットキーです。セットモード『79 SQ TYP』を呼び出して、空線スケルチ機能(JR FRQ)を選択することもできます。
3. DIALツマミを上引張りDIALロックを外します。
4. DIALツマミをまわして「JR FRQ」を選択します。
ディスプレイの右上に「SQ」が点灯します。
5. **[W]**を短く押した後**[MODE]**を短く押して設定を終了します。
空線スケルチを解除するには、上記の操作を繰り返し、手順4.の項目で「OFF」を選択します。

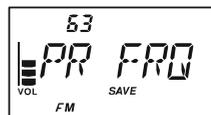
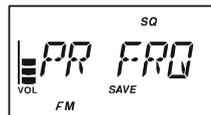


- 2280Hzの空線信号を受信すると、スケルチが動作し空線信号音を消します。
また、2280Hzの空線信号がなくなるとスケルチが解除されます。
- 信号が弱いときやノイズが多いときなどは、動作しないことがあります。

■JR以外の空線信号音を消す (可変型空線スケルチ機能)

300Hz～3000Hzの空線スケルチの周波数を100Hzステップで設定することができます。

1. VFOモードまたはメモリーモードにより、聴きたい鉄道無線の周波数を選択します。
2. スペシャルバンクにより、聴きたい鉄道無線の周波数を選択します。
3. **[W]**を短く押した後**[MODE]**を短く押します(SQ TYP)。
セットモード『79 SQ TYP』のショートカットキーです。セットモード『79 SQ TYP』を呼び出して、空線スケルチ機能(PR FRQ)を選択することもできます。
4. DIALツマミを上引張りDIALロックを外します。
5. DIALツマミをまわして「PR FRQ」を選択します。
ディスプレイの右上に「SQ」が点灯します。
6. **[W]**を短く押した後**[MODE]**を短く押して設定を終了します。
7. **[TX PO]**を1秒以上押してセットモードにします。
8. DIALツマミをまわして『63 PR FRQ』を選択します。
9. **[TX PO]**を短く押します。
10. DIALツマミをまわして空線信号が消える周波数に選択します。
300Hz～3000Hzの空線スケルチの周波数を100Hzステップで設定することができます(工場出荷時:1600Hz)。
11. **[TX PO]**を1秒以上押します。
空線スケルチを解除するには、上記の操作を繰り返し、手順5.の項目で「OFF」を選択します。

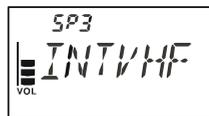


- 設定した周波数の空線信号を受信すると、スケルチが動作し空線信号音を消します。
また、設定した周波数の空線信号がなくなるとスケルチが解除されます。
- 信号が弱いときやノイズが多いときなどは、動作しないことがあります。

スペシャルバンクにプリセットされた国際VHF(マリン)無線を聴く

国際VHF(マリン)無線で使われている周波数(57チャンネル)が、あらかじめ専用のスペシャルバンクに登録されています。

1. **[SP]**を押した後に**[ENT]**を押します (SP BNK)。
スペシャルバンクになります。
2. **[BAND]**を数回押して「INTVHF」を選択します。
3. DIALツマミを上引張りDIALロックを外します。
4. DIALツマミをまわして希望のチャンネルを選択します(下表参照)。
5. 国際VHF(マリン)無線の受信を中止するときは、**[SP]**を押した後に**[ENT]**を押します。



スペシャルバンクに登録されている国際VHF(マリン)無線の周波数

チャンネル番号	周波数 (MHz)										
1	156.050	160.650*	15	156.750	60	156.025	160.625*	74	156.725		
2	156.100	160.700*	16	156.800	61	156.075	160.675*	75	156.775		
3	156.150	160.750*	17	156.850	62	156.125	160.725*	76	156.825		
4	156.200	160.800*	18	156.900	161.500*	63	156.175	160.775*	77	156.875	
5	156.250	160.850*	19	156.950	161.550*	64	156.225	160.825*	78	156.925	
6	156.300		20	157.000	161.600*	65	156.275	160.875*	79	156.975	
7	156.350	160.950*	21	157.050	161.650*	66	156.325	160.925*	80	157.025	
8	156.400		22	157.100	161.700*	67	156.375		81	157.075	
9	156.450		23	157.150	161.750*	68	156.425		82	157.125	
10	156.500		24	157.200	161.800*	69	156.475		83	157.175	
11	156.550		25	157.250	161.850*	70	156.525		84	157.225	
12	156.600		26	157.300	161.900*	71	156.575		85	157.275	
13	156.650		27	157.350	161.950*	72	156.625		86	157.325	
14	156.700		28	157.400	162.000*	73	156.675		87	157.375	
									88	157.425	
											162.025*

- スペシャルバンクは他の周波数のデータに書き換えることはできません。
- ※は基地局の周波数です。例えば1チャンネルを選択すると基地局の周波数160.650MHzが表示されて**[SP]**が点灯します。**[SP]**を短く押した後に**[ENT]**を短く押すと船舶局の周波数156.050MHzが表示されて**[SP]**が点滅します。基地局の周波数からマイナス4.6MHzの周波数が船舶局の周波数になり、複信運用となります。
- **[BAND]**を1秒以上押して離すとスペシャルバンクに登録されているチャンネルをスキャンします。スキャン中に信号を受信するとスキャンは5秒間停止し、その周波数を受信します。スキャンが停止したときの動作を設定することができます(「スキャンストップ時の受信方法を設定する」を参照: 41p)。
- 希望のチャンネルをメモリーバンクに登録することができます(メモリーバンクに登録する: 28p)。

⚠ 注意 ⚠

電波法第59条で「特定の相手方に対して行われる無線通信を傍受して、その存在若しくは内容を漏らし、又はこれを窃用してはならない」と定められています。他人の会話を聞いて、これを漏らしたり窃用することは法律で禁止されていますのでご注意ください。

スペシャルバンクを呼び出して世界各地の放送, AM/FMラジオ, TV放送を聴く

放送局専用のスペシャルバンクから世界各地の主な放送, AM/FMラジオ放送, TV放送を聴くことができます。全部で273チャンネルあります。

よく聴く放送局を普通のメモリーに書き込むことができます。周波数だけでなく放送局名もメモリーします。

スペシャルバンクに登録されている周波数は、「プリセットされている放送局周波数一覧表」を参照してください(108ページ参照)。

■ 聴きたい放送局を選択する

1. **[SP BK]**を押した後に**[OK]**を押します (SP BNK)。
スペシャルバンクになります
2. **[BAND]**を数回押して**[RADIO]**を選択します。
選択後, 登録されている放送局のリストチャンネルと放送局名を表示します。
3. **DIAL**ツマミを上引張り**DIAL**ロックを外します。
4. **DIAL**ツマミをまわして聴きたい放送局を選択します。
放送局名が表示させられているときに**モニタースイッチ**を押すと周波数表示になります。もう一度押すと周波数表示が放送局名表示に戻ります。
5. 放送局の受信を中止するときは, **[SP BK]**を押した後に**[OK]**を押します。



リストチャンネル
放送局名



- スペシャルバンクは他の周波数のデータに書き換えることはできません。
- **[BAND]**を1秒以上押し続けて離すとスペシャルバンクに登録されている放送局のチャンネルをスキャンします。スキャン中に信号を受信するとスキャンは5秒間停止し, その周波数を受信します。スキャンが停止したときの動作を設定することができます(「スキャンストップ時の受信方法を設定する」を参照: 108p. 41)。
- 短波放送のバンドを受信するときは, 市販の外部アンテナの取り付けをおすすめします。
- 受信する時間帯や電波の状態が悪いときは, 受信できない場合があります。
- 各放送局は108ページに示す一覧表以外にも受信できる周波数があります。詳しくは市販されている周波数帳などを参考にしてください。

■ 聴きたい放送局をメモリーバンクに登録する

よく聴く放送局を24種類のメモリーバンクに登録することができます。

1. **DIAL**ツマミを上引張り**DIAL**ロックを外します。
2. **DIAL**ツマミをまわして聴きたい放送局を選択します。
3. **[SP BK]**を1秒以上押します。
書き込みモードになり, ディスプレイに「**[BANK]**」とバンク番号が点滅します。
PTTスイッチを押すと, 登録をキャンセルすることができます。
4. **メモリーバンク番号**を指定して書き込む場合は, **DIAL**ツマミをまわして希望するメモリーバンク番号を選択します。
5. **[SP BK]**を短く押してメモリー書き込みを完了します。
選択していた周波数表示に戻ります。

メモリーバンク番号



スペシャルバンクにプリセットされた特定小電力無線を聴く

特定小電力トランシーバーで使われている周波数(20チャンネル)が、あらかじめ専用のスペシャルバンクに登録されています。

1. **[EWS]**を押した後に**[ENT]**を押します (SP BNK)。
スペシャルバンクになります。
2. **[BAND]**を数回押して「UHF CB」を選択します。
3. **DIAL**ツマミを上引張り**DIAL**ロックを外します。
4. **DIAL**ツマミを上引張り希望のチャンネルを選択します(下表参照)。
○ 「COM-XX」のチャンネルは、主に業務用として使用されており、「REG-XX」のチャンネルは、主にレジャー用として使用されています。
5. 特定小電力トランシーバーの受信を中止するときは、**[EWS]**を押した後に**[ENT]**を押します。



スペシャルバンクに登録されている特定小電力無線の周波数

チャンネル	周波数 (MHz)						
COM- 1	422.0500	COM- 6	422.1125	COM-11	422.1750	REG- 5	422.2500
COM- 2	422.0625	COM- 7	422.1250	REG- 1	422.2000	REG- 6	422.2625
COM- 3	422.0750	COM- 8	422.1375	REG- 2	422.2125	REG- 7	422.2750
COM- 4	422.0875	COM- 9	422.1500	REG- 3	422.2250	REG- 8	422.2875
COM- 5	422.1000	COM-10	422.1625	REG- 4	422.2375	REG- 9	422.3000

- チャンネルが表示されているときに**モニタースイッチ**を押すことにより、一時的に周波数を確認することができます(スケルチが開きます)。
- 希望のチャンネルをメモリーバンクに登録することができます(メモリーバンクに登録する：p. 28)。



⚠ 注意 ⚠

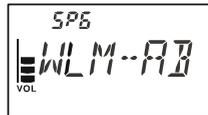
電波法第 59 条で「特定の相手方に対して行われる無線通信を傍受して、その存在若しくは内容を漏らし、又はこれを窃用してはならない」と定められています。
他人の会話を聞いて、これを漏らしたり窃用することは法律で禁止されていますのでご注意ください。

スペシャルバンクにプリセットされたワイヤレスマイクを聴く

主要なワイヤレスマイクロホンで使われている周波数が、あらかじめ専用のスペシャルバンクに登録されています。

1. **[W]**を押した後に**[M]**を押します (SP BNK).

スペシャルバンクになります。

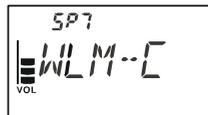


2. **[BAND]**を数回押して「WLM-AB」または「WLM-C」を選択します。

3. DIALツマミを上引張りDIALロックを外します。

4. DIALツマミをまわして希望の周波数を選択します。

- 「WLM-AB」には、779.125MHz～809.750MHzの周波数を125kHzステップで172チャンネル、
「WLM-C」には、322.025MHz～322.400MHzの周波数を25kHzステップで13チャンネル登録されています。



- 付属のアンテナは、144MHz帯と430MHz帯での使用を前提に調節されており、さらにワイヤレスマイクの電波は非常に弱いため、距離や周りの状況などにより、良好に受信できない場合があります。
良好に受信できない場合は、上記の周波数に対応した市販のアンテナを使用してください。

5. ワイヤレスマイクロホンの受信を中止するときは、**[W]**を押した後に**[M]**を押します。

○ 希望の周波数をメモリーバンクに登録することができます(メモリーバンクに登録する：☞p. 28)。

● 内部ビートの影響がでるチャンネルがありますが、故障ではありません。

内部ビートの影響により聴きづらい場合は、下記の方法で軽減することができます。

① ワイヤレスマイクの電波が強い場合

セットモード『3 ANT.ATT』をONにしてアッテネーターを入れることにより、妨害波を軽減できます。

② 内部ビートが強い場合

妨害のあるチャンネルで、セットモード『18 CLK.SFT』をONにすると、内部ビートを消去することができます。チャンネルを変更すると解除されるので、その都度設定をONにしてください。

⚠ 注意 ⚠

電波法第59条で「特定の相手方に対して行われる無線通信を傍受して、その存在若しくは内容を漏らし、又はこれを窃用してはならない」と定められています。

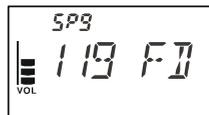
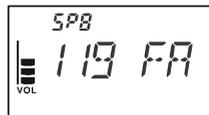
他人の会話を聞いて、これを漏らしたり窃用することは法律で禁止されていますのでご注意ください。

スペシャルバンクにプリセットされた救急無線/消防無線を聴く

救急アナログ無線(20チャンネル)や消防アナログ無線(85チャンネル)で使われている周波数が、あらかじめ専用のスペシャルバンクに登録されています。

デジタル通信に移行している地域では、受信することができません。

1. **[BAND]**を押した後に**[MEM]**を押します。
スペシャルバンクになります。
2. **[BAND]**を数回押して救急無線の場合は「119 FA」、消防無線の場合は「119 FD」を選択します。
3. DIALツマミを上引張りDIALロックを外します。
4. DIALツマミをまわして希望の周波数を選択します(周波数表は次ページ参照)。



- 救急無線の場合は、基地局の周波数が表示されます。
例えば1チャンネルを選択すると基地局の周波数146.040MHzが表示されて**[MEM]**が点灯します。
基地局の周波数からマイナス4MHzの周波数が移動局の周波数になります。
移動局の周波数を受信したい場合は、**[BAND]**を短く押した後に**[MEM]**を短く押すと、移動局の周波数142.040MHzが表示され、**[MEM]**が点滅し受信することができます。
基地局の周波数に戻りたい場合は、**[BAND]**を短く押した後に**[MEM]**を短く押します。
 - 消防無線の場合は、全国共通周波数(FC1~FC3)、都道府県内共通周波数(Ft1~Ft7)、消防団専用周波数(Fd)、消防署活系周波数(F1~F17)、市町村周波数(1~57)の周波数が表示されます。
5. 救急無線または消防無線の受信を中止するときは、**[BAND]**を押した後に**[MEM]**を押します。

希望の周波数をメモリーバンクに登録することができます(メモリーバンクに登録する：P.28)。

⚠ 注意 ⚠

電波法第59条で「特定の相手方に対して行われる無線通信を傍受して、その存在若しくは内容を漏らし、又はこれを窃用してはならない」と定められています。
他人の会話を聞いて、これを漏らしたり窃用することは法律で禁止されていますのでご注意ください。

スペシャルバンクにプリセットされた救急無線/消防無線を聴く(つづき)

救急無線の場合は(119 FA)

チャンネル番号	周波数 (MHz)		チャンネル番号	周波数 (MHz)	
	基地局*	移動局		基地局*	移動局
1	146.040	142.040	11	147.420	143.420
2	146.080	142.080	12	147.440	143.440
3	146.760	142.760	13	147.460	143.460
4	146.780	142.780	14	147.480	143.480
5	146.800	142.800	15	147.500	143.500
6	146.820	142.820	16	147.740	143.740
7	146.840	142.840	17	147.760	143.760
8	146.860	142.860	18	147.780	143.780
9	146.880	142.880	19	152.030	148.030
10	147.400	143.400	20	153.110	149.110

※は基地局の周波数です。

例えば1チャンネルを選択すると基地局の周波数 146.040MHzが表示されて が点灯します。

移動局の周波数を受信したい場合は、 を短く押した後に を短く押します。

移動局の周波数 142.040MHzが表示されて が点滅します。

基地局の周波数に戻りたい場合は、 を短く押した後に を短く押します。

消防無線の周波数(119 FD)

チャンネル番号	周波数 (MHz)	チャンネル番号	周波数 (MHz)	チャンネル番号	周波数 (MHz)	チャンネル番号	周波数 (MHz)
1	148.010	23	151.210	45	153.430	F17 ^{*2}	153.530
2	149.130	24	151.230	46	153.510	Fdq ^{*3}	153.350
3	149.150	25	151.270	47	153.550	F1 ^{*4}	466.3500
4	149.610	26	151.310	48	153.590	F2 ^{*4}	466.3625
5	149.630	27	151.430	49	153.710	F3 ^{*4}	466.3750
6	149.710	28	151.550	50	153.750	F4 ^{*4}	466.3875
7	149.730	29	151.570	51	153.830	F5 ^{*4}	466.4000
8	149.750	30	151.590	52	153.850	F6 ^{*4}	466.4125
9	150.070	31	151.630	53	153.870	F7 ^{*4}	466.4250
10	150.170	32	151.670	54	154.070	F8 ^{*4}	466.4375
11	150.190	33	151.690	55	154.190	F9 ^{*4}	466.4500
12	150.270	34	151.710	56	154.290	F10 ^{*4}	466.4625
13	150.290	35	151.750	57	154.310	F11 ^{*4}	466.4750
14	150.310	36	151.810	FC1 ^{*1}	150.730	F12 ^{*4}	466.4875
15	150.330	37	152.010	FC2 ^{*1}	148.750	F13 ^{*4}	466.5000
16	150.350	38	152.070	FC3 ^{*1}	154.150	F14 ^{*4}	466.5125
17	150.450	39	152.090	F11 ^{*2}	148.210	F15 ^{*4}	466.5250
18	150.470	40	152.230	F12 ^{*2}	148.290	F16 ^{*4}	466.5375
19	150.750	41	152.270	F13 ^{*2}	149.690	F17 ^{*4}	466.5500
20	151.110	42	152.570	F14 ^{*2}	152.770		
21	151.150	43	152.790	F15 ^{*2}	152.810		
22	151.190	44	153.310	F16 ^{*2}	153.010		

消防無線の詳細は、下記ようになります。

市町村周波数 57チャンネル(1~57)

※1:全国共通周波数 3チャンネル(FC1~FC3)

※2:都道府県内共通周波数 7チャンネル(Ft1~Ft7)

※3:消防団専用周波数 1チャンネル(Fda)

※4:消防署活系周波数 17チャンネル(F1~F17)

スキャンを使う

VX-3は、“VFOスキャン”、“プログラマブルメモリスキャン”、“メモリスキャン”、“指定メモリーチャンネルスキャン”の4つのスキャンを行うことができます。

VFOスキャン

1. VFOモードにし、スキャンするバンドを選択します。
2. **[BAND]**を押したままにします。
3. DIALツマミを上引張りDIALロックを外します。
4. DIALツマミをまわしてスキャンする範囲を設定します。

表示	動作状態
ALL	現在の周波数から1.8MHz～999MHz内の全バンドをスキャンします (AM中波放送, FM放送, TV放送 (1ch～3ch)の周波数を除く)。
(PMS番号)	PMSスキャンのショートカット (46ページの手順1.～手順2. をショートカット) です。あらかじめPMSメモリーが登録してある場合のみ、PMSメモリー番号を表示します。DIALツマミをまわしてスキャンしたいPMSメモリーを指定し、PMSの下限と上限の範囲をスキャンします。
±1MHz	現在の周波数を中心にスタートした周波数のバンド (下表参照) 内を±1MHzの範囲でスキャンします。
±2MHz	現在の周波数を中心にスタートした周波数のバンド (下表参照) 内を±2MHzの範囲でスキャンします。
±5MHz	現在の周波数を中心にスタートした周波数のバンド (下表参照) 内を±5MHzの範囲をスキャンします。
BAND	現在の周波数からスキャンし、スタートした周波数のバンド (下表参照) 内をスキャンします。

5. **[BAND]**を離すとスキャン (SCAN) が開始されます。

スキャン中に信号を受信するとピープ音 (ピポッ) が鳴り、スキャンは5秒間停止して、その周波数を受信します。

スキャンが停止しているときには、デシマルポイントが点滅し、ディスプレイの照明が点灯します。

5秒経過すると、スキャンを再開します。



デシマルポイントが点滅

6. スキャンの方向を変える場合はDIALツマミをまわします。

左にまわすと周波数が低くなる方向に、右にまわすと高くなる方向に変わります。

7. スキャンを中止するときは、**[BAND]**またはPTTスイッチを押します。

○ スキャン中に、**[BW]**を押してからモニタースイッチを押し、DIALツマミをまわすと、スケルチを調節することができます。スケルチの調節を終了するには、**[BW]**を押してからモニタースイッチを押します

○ 周波数帯と受信周波数の関係は次のようになります。

周波数帯	受信周波数	周波数帯	受信周波数
AMラジオ放送帯 (中波)	0.504～1.8MHz	144MHz帯	137～174MHz
短波帯	1.8～30MHz	TV-VHF放送帯 (2)	174～222MHz
60MHz帯	30～76MHz	情報無線帯 (1)	222～420MHz
FMラジオ放送帯	76～90MHz	430MHz帯	420～470MHz
TV-VHF放送帯 (1)	90～108MHz	TV-UHF放送帯	470～770MHz
航空無線帯	108～137MHz	情報無線帯 (2)	770～999MHz

○ スキャンが停止したときの動作を設定することができます (「スキャンストップ時の受信方法を設定する」を参照: p. 41)。

○ 周波数帯のエッジに達したときには「ピピッ」とピープ音が鳴って隣の周波数帯に移り、その周波数帯をスキャンします。

○ セットモードの「12 BP EDG」により、スキャン中にメモリー1を通過したときに「ピピッ」と鳴るピープ音をオフにすることができます。

○ セットモードの「90 VFO MD」により、現在のバンド内のみをスキャンします。

○ セットモードの「14 BP SEL」により、スキャンストップ時に鳴るピープ音を消すことができます。

○ セットモードの「74 SQNLMP」により、スキャンストップ時の照明点灯をオフにすることができます。

VFOスキャン (つづき)

■ スキャンしたくない周波数をスキップする(スキップサーチメモリー)

スキャンをしているとき、受信したくない周波数でもスキャンが止まることがあります。このような周波数はあらかじめ設定しておくことで、スキャン中にその周波数を受信しないことが可能となります。この設定するメモリーを“スキップサーチメモリー”といい、99チャンネル(メモリーチャンネル901~999)あります。

● スキャンしたくない周波数を設定する

1. VFOスキャンを開始します (40ページ参照)。
2. スキャン中、受信したくない周波数で停止したら、**[B W]**を0.5秒以上押します。
何も書き込まれていない最も小さい番号のスキップサーチメモリーチャンネルが点滅します。
DIALツマミをまわしてスキップサーチメモリーチャンネルを指定することもできます。
3. **[B W]**を押します。
スキップサーチメモリーへの書き込みが完了し、スキャンが再開します。
あらかじめスキャンしたくない周波数をスキップサーチメモリーへ書き込んでおくこともできます。この場合、手順1. のかわりにVFOモードで周波数をあわせ、手順2. , 手順3. を行います。
4. スキャンを中止するときは、**[BAND]**またはPTTスイッチを押します。

● スキップサーチメモリーを消す

スキップサーチメモリーは、下記の操作を行うことにより消すことができます。スキップサーチメモリーに設定してあった周波数は、再びスキャンするようになります。

1. メモリーモードにします。
2. **[B W]**を1秒以上押します。
3. DIALツマミを上引張りDIALロックを外します。
4. DIALツマミをまわして消したいスキップサーチメモリーを選択します。
メモリーチャンネル901~999のスキップサーチメモリーから選択します。
スキップサーチメモリー番号を選択中に**[TXPO]**を押すと、メモリーチャンネル番号の百の位を早送りすることができます。
5. **[X]**を押します。
ディスプレイに“MODEL?”が表示されます。
6. **[X]**を押して消去を完了します。
スキップサーチメモリーの内容が消去されます。
続けて他のスキップメモリーを消すには、手順2 から手順4. を繰り返します。

消したスキップサーチメモリーチャンネルに周波数などを新たに書き込む前であれば、上記のメモリー消去の操作をもう一度行うことによって消去した内容を復活できます。

スキャンストップ時の受信方法を設定する

スキャンが停止したときの動作を設定できます。

- 設定した時間を受信しスキャンを再開します (2秒~10秒設定可能 (0.5秒単位))。
- 信号がなくなるまで受信し、信号がなくなってから2秒後にスキャンを再開する (選択時の表示は“BUSY”)。
- スキャンを中止し、その周波数を受信する (選択時の表示は“HOLD”)。

1. **[TXPO]**を1秒以上押します。
2. DIALツマミをまわして『75 SCN.RSM』を選択します。
3. **[TXPO]**を短く押します。
4. DIALツマミをまわして使用する受信方法を“2秒~10秒(0.5秒(S)ステップ)”, “BUSY”, “HOLD”のいずれから選択します。
5. **[TXPO]**を1秒以上押して完了します (もとの周波数表示に戻ります)。



- この設定は、VFOスキャン、プログラマブルメモリースキャン、メモリースキャン、デュアルレシーブに共通です。
- セットモードの『76 SCNSTR』により、BUSYスキャンの再開開始時間を変更することができます。

メモリースキャン

メモリーされている周波数をメモリーチャンネル番号順にスキャンします。

1. **メモリーモードにし、メモリーチャンネルを呼び出します。**
2. **[BAND]を押したままにします。**
3. **DIALツマミを上引張りDIALロックを外します。**
4. **DIALツマミをまわしてスキャンする範囲を設定します。**

表示	動作状態
ALL CH	現在指定しているメモリーから、すべてのメモリーチャンネル(1~900)をスキャンします。 (指定メモリーを指定している場合は、すべての指定メモリーチャンネルをスキャンします:43ページ参照)
(PMS番号)	PMSスキャンのショートカット(46ページの手順1.~手順2.をショートカット)です。 あらかじめPMSメモリーが登録してある場合のみ、PMSメモリー番号を表示します。 DIALツマミをまわしてスキャンしたいPMSメモリーを指定し、PMSの下限と上限の範囲をスキャンします。
TAG1	名前を付けたメモリーチャンネルを呼び出してからスキャンを開始すると、1文字目に同じ文字を使用しているメモリーチャンネルだけをスキャンします。
TAG2	名前を付けたメモリーチャンネルを呼び出してからスキャンを開始すると、1文字目と2文字目に同じ文字を使用しているメモリーチャンネルだけをスキャンします。
BAND	現在指定しているメモリーと、同じ周波数帯* 内の周波数が書き込まれているメモリーチャンネルだけをスキャンします。 (指定メモリーを指定している場合は、同じ周波数帯* 内の周波数が書き込まれている指定メモリーチャンネルだけをスキャンします: 43p. 43)

* : 周波数帯と受信周波数の関係は40ページの下表を参照してください。

5. [BAND]を離すとスキャン(SCAN)が開始します。

スキャン中に信号を受信するとビープ音(ピポッ)が鳴り、スキャンは5秒間停止して、その周波数を受信します。

スキャンが停止しているときには、デシマルポイントが点滅し、ディスプレイが点灯します。

5秒経過すると、スキャンが再開されます。



デシマルポイントが点滅

6. スキャンの方向を変える場合はDIALツマミをまわします。

左にまわすとメモリーチャンネル番号が小さい方向に、右にまわすと大きい方向にスキャンします。

7. スキャンを中止するときは、[BAND]またはPTTスイッチを押します。

- スキャン中にDIALツマミをまわすと、スキャンの方向を変更できません。
- スキャン中に、[BW]を押した後モニタースイッチを押し、DIALツマミをまわすと、スケルチを調節することができます。
- スキャンが停止中に、[BW]を押した後[V/M]を押すと、一時的にそのチャンネルをスキャンしないようにすることができます。
- スキャンするメモリーチャンネルは通常のメモリー番号1~900をスキャンします。
- メモリーバンクを呼び出しているときは、メモリーバンク内のメモリーチャンネルのみをスキャンします。
- スキャンが停止したときの動作を設定することができます。「スキャンストップ時の受信方法を設定する」を参照: 41p. 41).
- スキャン中にメモリー1を通過したときには「ピピッ」とビープ音が鳴り、スキャンが繰り返されます。このビープ音をセットモードの『12 BP EDG』により、オフにすることができます。
- セットモードの『14 BP SEL』により、スキャンストップ時に鳴るビープ音を消すことができます。
- セットモードの『74 SCNLMP』により、スキャンストップ時の照明点灯をオフにすることができます。

メモリスキャン(つづき)

メモリスキャン時にスキャンする必要のないメモリーチャンネルにはスキップメモリーを、指定のメモリーチャンネルのみをスキャンしたいときには指定メモリーを設定しておく、指定のメモリーチャンネルのみをスキャンできます。

■スキップメモリー/指定メモリーを設定する

1. メモリーモードにし、スキップメモリーまたは特定メモリーを設定するメモリーチャンネルを呼び出します。

2. **[TXPO]**を1秒以上押します。

各種の設定を行なえるセットモードになります。

3. DIALツマミを上引張りDIALロックを外します。

4. DIALツマミをまわして『54 MRSKIP』を選択します。

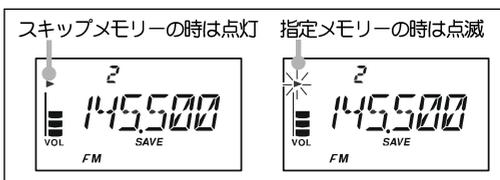
5. **[TXPO]**を短く押します。

6. DIALツマミをまわして『SKIP』または『ONLY』を選択します。

スキップメモリーのときは「SKIP」、指定メモリーのときは「ONLY」を選択します。

7. **[TXPO]**を1秒以上押します。

スキップメモリー/指定メモリーを解除するには、上記の操作を繰り返し、手順6の項目で「OFF」を選択します。



■指定メモリーを設定したメモリーチャンネルのみをスキャンする

1. メモリーモードにし、「特定メモリー」が設定されているメモリーチャンネルを呼び出します。

2. **[BAND]**を押したままにします。

3. DIALツマミを上引張りDIALロックを外します。

4. DIALツマミをまわしてスキャンする範囲を設定します(下表参照)。

5. **[BAND]**を離すとスキャン(SCAN)が開始します。

特定メモリーが設定されているメモリーチャンネルのみをメモリスキャンします。

スキャン中に信号を受信するとピープ音(ピポッ)が鳴り、スキャンは5秒間停止して、その周波数を受信します。スキャンが停止しているときには、デシマルポイントが点滅し、ディスプレイが点灯します。5秒経過すると、スキャンが再開されます。

6. スキャンを中止するときは、**[BAND]**またはPTTスイッチを押します。

もう一度**[BAND]**を1秒以上押して離すとスキャンが再開されます。



表示	動作状態
ALL CH	現在指定している指定メモリーから、すべての指定メモリーチャンネルをスキャンします。PMSスキャンのショートカット(46ページの手順1~手順2をショートカット)です。
(PMS番号)	あらかじめPMSメモリーが登録してある場合のみ、PMSメモリー番号を表示します。DIALツマミをまわしてスキャンしたいPMSメモリーを指定し、PMSの下限と上限の範囲をスキャンします。
TAG1	名前を付けた指定メモリーチャンネルを呼び出してからスキャンを開始すると、1文字目と同じ文字を使用している指定メモリーチャンネルだけをスキャンします。
TAG2	名前を付けた指定メモリーチャンネルを呼び出してからスキャンを開始すると、1文字目と2文字目と同じ文字を使用している指定メモリーチャンネルだけをスキャンします。
BAND	現在指定しているメモリーと、同じ周波数帯*内の周波数が書き込まれている指定メモリーチャンネルだけをスキャンします。

*: 周波数帯と受信周波数の関係は40ページの下表を参照してください。

メモリーバンクスキャン

呼び出したメモリーバンクに登録されているメモリーだけをスキャンします。

1. **メモリーモードにします (VFOモードの時は [V/M] を押します)。**
2. **[BAND] を短く押し、メモリーバンクを呼び出します。**
[BAND] を短く押すたびに “メモリー番号” ⇄ “BANK (番号)” が切り替わります。
3. **他のメモリーバンク番号にするときは、[REV] を短く押した後 [BAND] を短く押します。**
4. **DIALツマミを上引張りDIALロックを外します。**
5. **DIALツマミをまわしてメモリーバンク (BANK 1～BANK 24) を選択します。**
6. **[BAND] を短く押しして確定します。**
7. **[BAND] を押したままの状態、DIALツマミで希望のスキャン動作を選びます (下表参照)。**

表示	動作状態
ALL CH	選択しているメモリーバンク内のすべてのメモリーチャンネルをスキャンします。 (指定メモリーを指定している場合は、すべての指定メモリーチャンネルをスキャンします:43ページ参照)
(PMS番号)	PMSスキャンのショートカット (46ページの手順1.～手順2. をショートカット) です。 選択しているメモリーバンク内で、あらかじめPMSメモリーが登録してある場合のみ、PMSメモリー番号を表示します。DIALツマミをまわしてスキャンしたいPMSメモリーを指定し、PMSの下限と上限の範囲をスキャンします。
TAG1	選択しているメモリーバンク内で、名前を付けたメモリーチャンネルを呼び出してからスキャンを開始すると、1文字目と同じ文字を使用しているメモリーチャンネルだけをスキャンします。
TAG2	選択しているメモリーバンク内で名前を付けたメモリーチャンネルを呼び出してからスキャンを開始すると、1文字目と2文字目と同じ文字を使用しているメモリーチャンネルだけをスキャンします。
BAND	選択しているメモリーバンク内の選択しているメモリーと、同じ周波数帯* 内の周波数が書き込まれているメモリーチャンネルだけをスキャンします。 (指定メモリーを指定している場合は、同じ周波数帯* 内の周波数が書き込まれている指定メモリーチャンネルだけをスキャンします:43ページ参照)

* : 周波数帯と受信周波数の関係は40ページの下表を参照してください。

9. **[BAND] を離すと、選択された条件でスキャンを開始します。**
スキャン中に信号を受信するとスキャンは5秒間停止し、その周波数を受信します。
スキャンが停止しているときには、デシマルポイントが点滅し、ディスプレイが点灯します。
5秒経過すると、スキャンが再開されます。
10. **スキャンの方向を変える場合はDIALツマミをまわします。**
左にまわすとメモリーチャンネル番号が小さい方向に、右にまわすと大きい方向にスキャンします。
11. **スキャンを中止するときは、[BAND] またはPTTスイッチを押します。**

メモリーバンクスキャン(つづき)

■メモリーバンクリンクスキャン

通常のメモリーバンクスキャンは、呼び出したメモリーバンクに登録されているメモリーチャンネルだけをスキャンしますが、メモリーバンクリンクスキャンはあらかじめ指定したバンクを続けてスキャンをします。

《例》 バンク1, バンク10, バンク24をバンクリンクスキャンをした場合



メモリーバンクリンクスキャンイメージ図

- メモリーモードで **[BAND]** を押し、メモリーバンクを呼び出します。
- [QW]** を短く押した後 **[BAND]** を短く押して、DIALツマミをまわしてバンクリンクスキャンをしたいメモリーバンクを選択します。
- [V/M]** を短く押してバンクリンクを指定します。
メモリーバンク番号の左側に “▶” が点滅します。
- 手順2.~手順3.を繰り返し、他のメモリーバンクを指定します。
- [BAND]** 押ししたままの状態、DIALツマミで希望のスキャン動作を選びます(下表参照)。



表示	動作状態
ALL CH	現在指定しているメモリーから、すべてのメモリーチャンネル(1~900)をスキャンします。 (指定メモリーを指定している場合は、すべての指定メモリーチャンネルをスキャンします:43ページ参照)
(PMS番号)	PMSスキャンのショートカット(46ページの手順1.~手順2.をショートカット)です。 あらかじめPMSメモリーが登録してある場合のみ、PMSメモリー番号を表示します。 DIALツマミをまわしてスキャンしたいPMSメモリーを指定し、PMSの下限と上限の範囲をスキャンします。
TAG1	名前を付けたメモリーチャンネルを呼び出してからスキャンを開始すると、1文字目に同じ文字を使用しているメモリーチャンネルだけをスキャンします。
TAG2	名前を付けたメモリーチャンネルを呼び出してからスキャンを開始すると、1文字目と2文字目に同じ文字を使用しているメモリーチャンネルだけをスキャンします。
BAND	現在指定しているメモリーと、同じ周波数帯* 内の周波数が書き込まれているメモリーチャンネルだけをスキャンします。 (指定メモリーを指定している場合は、同じ周波数帯* 内の周波数が書き込まれている指定メモリーチャンネルだけをスキャンします:43ページ参照)

- [BAND]** を離すと、選択された条件でスキャンを開始します。
スキャン中に信号を受信するとスキャンは5秒間停止し、その周波数を受信します。
スキャンが停止しているときには、デシマルポイントが点滅し、ディスプレイが点灯します。
5秒経過すると、スキャンが再開されます。
- スキャンの方向を変える場合はDIALツマミをまわします。
左にまわすとメモリーチャンネル番号が小さい方向に、右にまわすと大きい方向にスキャンします。
- スキャンを中止するときは、**[BAND]** またはPTTスイッチを押します。

バンクリンクスキャンを設定を解除するには、バンクリンクを指定したバンクを呼び出し、手順3.で **[V/M]** を短く押して “▶” を消燈させます。

プログラブルメモリスキャン (PMS)

■プログラブルメモリーに書き込む

スキャンしたい周波数範囲の下限周波数をメモリーチャンネルの“L*”、上限周波数を“U*”（*は1～50の任意の数字で、下限のメモリーと上限のメモリーは同じ番号にしてください）に登録します。

23ページを参照し、下限周波数と上限周波数をメモリーチャンネルに登録します。

下限周波数／上限周波数メモリー（プログラブルメモリーチャンネル）は50組（L1/U1～L50/U50）あります。プログラブルメモリーチャンネルは、メモリーチャンネルの最後の方にありますので、メモリーチャンネルが一桁の場合はDIALツマミを左にまわすと早く選択できます。また、**[TRIP]**を押すと100桁ずつ早送りすることもできます。

◀例▶ 下限周波数に433.200MHz、上限周波数に433.700MHzをメモリーします。



■プログラブルメモリスキャンをする

同一周波数帯内の指定した周波数範囲内をDIALツマミで選択したり、スキャンをすることができます。

1. メモリーモードにし、下限周波数または上限周波数のメモリーを呼び出します。

2. **[BW]**を押した後**[VIM]**を押します。

“L i”（または“U i”）が消え“P i”が表示されます。

“P i”が表示中に、**[BW]**を押した後**[VIM]**を押すと“L i”（または“U i”）の表示に戻ります。



DIALツマミをまわすと、下限と上限の周波数範囲を選択することができます。

3. **[BAND]**を1秒以上押して離すとスキャン (SCAN) が開始します。

スキャン中に信号を受信するとスキャンは5秒間停止し、その周波数を受信します。スキャンが停止しているときには、デシマルポイントが点滅し、ディスプレイの照明が点灯します。

5秒経過すると、スキャンを再開します。

[BAND]を1秒以上押しながらDIALツマミをまわすと、他のPMSメモリーを選択することができます。



デシマルポイントが点滅

4. スキャンの方向を変える場合は、DIALツマミをまわします。

左にまわすと周波数が低くなる方向に、右にまわすと高くなる方向に変わります。

5. スキャンを中止するときは、**[BAND]**またはPTTスイッチを押します。

○ すでにL1/U1～L50/U50に登録されている場合は、40ページのVFOスキャン（または42ページのメモリスキャン）の操作によりPMS番号を選択するだけで、上記の手順1～手順2の操作をショートカットして簡単にPMSスキャンを行うことができます。

○ “L*”、“U*”にスキップメモリー（P**）が指定されている場合や下限周波数／上限周波数が正しく設定されていない場合は、メモリーチューン動作（“とらへ”）になります。

○ スキャン中にDIALツマミをまわすと、スキャンの方向を変更できます。

○ スキャン範囲の上限または下限に達したときには「ピピッ」とビープ音が鳴り、スキャンが繰り返されます。

○ スキャン中に、**[BW]**を押した後モニタースイッチを押し、DIALツマミをまわすと、スケルチを調節することができます。

○ セットモードの「74 SCNLMP」により、スキャンストップ時の照明点灯をオフにすることができます。

● 下限周波数と上限周波数との間は、必ず100kHz以上開けるようにしてください。

ウェイクアップ機能 —電源オフ時も信号があるかを確認する—

ウェイクアップ機能を動作させることにより、電源をオフにしても、自動的に信号の有無を確認しますので、電池の消費を大幅に少なくすることができます(最長21日間*1連続で動作します)。

1. **[TXPO]**を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. **DIAL**ツマミを上引張り**DIAL**ロックを外します。
3. **DIAL**ツマミをまわして『93 WAKEUP』を選択します。
4. **[TXPO]**を短く押します。
5. **DIAL**ツマミをまわしてウェイクアップの信号確認時間を設定します(工場出荷時:OFF)。



表示	動作
OFF	ウェイクアップ機能の動作はOFFになります。
5SEC (5秒)~60SEC (60秒)*2 (5SECステップ)	設定時間毎に信号の有無を確認します。例えば5秒に設定した場合は、5秒毎に信号の有無を確認します。
EAI	5秒毎にEAI専用メモリーチャンネルの信号の有無を確認します。

6. **[TXPO]**を1秒以上押します。
ウェイクアップの信号確認時間が設定され、もとの表示に戻ります。
7. 希望の周波数にあわせませす。
8. 電源を“OFF”にすると、ウェイクアップ機能が動作します。
ディスプレイに“WAKEUP”が表示されます。

ウェイクアップ機能を中止するには、手順5を「OFF」に設定してください。

- ウェイクアップ機能が動作中(ディスプレイに“WAKEUP”が表示中)に**[TXPO]**を1秒以上押すと、ウェイクアップ機能を一時的に停止することができます。一時停止中のウェイクアップ機能は、一度電源をオンにした後、再度**[TXPO]**をOFFにすると、再びウェイクアップ機能が動作します。
- 信号を受信中に何らかの操作を行うと、ディスプレイに“WPAUSE”を表示しウェイクアップ機能を一時的に停止することができます。電源をオフにすると、再びウェイクアップ機能が動作します。
- トーンスケルチ、DCS、新ページャーなどをオンにしているときは、それぞれのトーンやコードを含む信号をだけを受信します。
- EAI機能(13p. 50)を動作させながら、ウェイクアップ機能を動作させた場合、探索者には手順2で設定した時間以上送信してもらう必要があります。
- ウェイクアップ機能が動作中に電池/パックが消耗した場合(ディスプレイに“**[BAT]**”が表示)は、すみやかに充電をおこなってください。充電をおこなわずに使用を続けると、過放電により電池/パックの寿命が短くなる場合があります。

※1：電池パック“FNB-82L”が満充電された状態で、動作時間を“30SEC”に設定し、動作中に一度も信号を受信しなかった場合は最長21日間連続で動作します。
“5SEC”に設定した場合は、約5日間になります。
頻繁に信号を受信した場合は、連続動作可能時間が短くなります。
また、電池パック“FNB-82L”の充電状態や経年変化、周囲の温度などでも、連続動作可能時間は変化します。

※2：EAI機能(13p. 50)がONの場合は、EAI周波数の確認も行います。

SUB-RX機能 —ラジオ放送を聴きながら他の周波数を同時受信をする—

“SUB-RX受信機能”はラジオ放送を受信中、同時にサブで他の周波数(またはメモリーチャンネル)を待ち受け受信を行います。サブは待ち受け受信中音声は聴こえませんが、信号を受信したときだけラジオ受信を中断して音声は聴こえます。なお、従来の機能でデュアルレシーブ(※p.62)機能がありますが、ラジオを受信中、約5秒間に一度指定したメモリーチャンネルに信号があるかを確認するため聴きづらく不便ですが、SUB-RX受信機能は相手から呼ばれたときだけラジオ受信を中断しますので煩わしくなく受信できますので大変便利な機能です。

■ SUB-RX 受信機能でラジオを聴く (設定の流れ)

1. **[BAND]**を短く押した後**[RADIO]**を短く押します。
2. **DIAL**ツマミを上引張り**DIAL**ロックを外して、「ラジオ受信の再開時間」を設定します(次ページ参照)。OFF以外を設定します(SUB-RX機能を終了するにはOFFに設定します)。
3. **[BAND]**を短く押した後**[RADIO]**を短く押して「ラジオ受信の再開時間」の設定を終了します。
4. **[V/M]**を短く押してサブで受信する周波数またはメモリーチャンネル(またはHOMEチャンネル(**[FM-REV]**))にあわせ、**DIAL**ツマミをまわして設定します。

○ サブ側をスキャンしながらラジオを聴くことができます。

○ サブ側をデュアルレシーブしながらラジオを聴くことができます。

5. **[RADIO]**を短く押してラジオをオンにします。
6. **[BAND]**を短く押して**AM**放送、**FM**放送、**TV**放送(1CH~3CH)を選択します。

[BAND]を押してから**[BAND]**を押すと、反対方向に切り替わります。

AM放送(中波帯) [A] ⇄ FM放送 [F] ⇄ TV放送 [t] ⇄ (AM放送に戻る)

ディスプレイにAM放送は[A]、FM放送は[F]、TV放送は[t]を表示します。

7. **DIAL**ツマミをまわして放送局の周波数にあわせませす。

○ TV放送はチャンネル表示ではなく、周波数を表示します。音声周波数は下記を参照してください。

1チャンネル:95.75MHz 2チャンネル:101.75MHz 3チャンネル:107.75MHz

○ 放送局の周波数は“プリセットされている放送局周波数一覧表(※p.108)”または市販の周波数帳を参照してください。

○ ラジオの周波数をメモリーすることができます(※p.23)。

○ ラジオの周波数をメモリーした場合は、**[V/M]**を短く押すとディスプレイに**[BANK]**が点滅し、AM放送、FM放送、TV放送(1チャンネル~3チャンネル)だけのメモリーを呼び出すことができます。

○ AM/FM放送のスケルチ感度を調整することができます(※p.14)。

○ サブ側に信号が入ったときはサブを受信して“**PRI**”が点滅します。

○ ラジオを受信中に**モニタースイッチ**を押すとサブ側の周波数を受信します。

○ **[X-POS]**を押すとサブ側の周波数(メモリーチャンネル)を表示することができます。

○ SUB-RX機能は、ラジオを聴きながらサブ側でメモリーしたラジオの周波数(AM放送(中波)/FM放送/TV放送(1チャンネル~3チャンネル))を受信することはできません。

8. **[RADIO]**を短く押してSUB-RX機能が動作します。

ディスプレイに“**PRI**”が表示されます。

ラジオ受信を終了するには、**[RADIO]**を短く押します。

サブで受信していた周波数(メモリーチャンネル)が表示されます。

SUB-RX機能を終了するには、手順1を「OFF」に設定してください。



AM放送(中波帯)は[A]を表示
FM放送は[F]を表示
TV放送は[t]を表示



本機で受信できるTV放送(音声)はアナログテレビ放送の音声で、デジタル放送の音声を聴くことはできません。アナログテレビ放送は2011年7月24日に終了しましたので、テレビ音声を聴くことはできません。

SUB-RX機能 —ラジオ放送を聴きながら他の周波数を同時受信をする— (つづき)

■ラジオ受信の再開時間の設定

ラジオ放送を受信中、サブで待ち受け受信を行い、“受信信号が無くなった後”あるいは“送信を終了後”にラジオ受信を再開する時間を設定することができます。

1. **[BAND]**を短く押した後**[RADIO]**を短く押します。
セットモード『84 SUB-RX』のショートカットキーです。
2. **DIAL**ツマミを上引張り**DIAL**ロックを外します。
3. **DIAL**ツマミをまわしてラジオ受信の再開時間を設定します(下表参照)。
4. **[BAND]**を短く押した後**[RADIO]**を短く押すと、ラジオ受信の再開時間が設定され、もとの表示に戻ります。



表示	動作
OFF	“SUB-RX 受信機能”がOFFになります。
TRX 1S (1秒) ~ TRX 10S (10秒)	“SUB-RX 受信機能”でラジオ放送を受信中、サブで待ち受け受信を行い、“受信信号が無くなった後”あるいは“送信を終了後”にラジオ受信を再開する時間を設定します。例えば5秒に設定すると、受信(または送信)が終了してから5秒後にラジオ受信を再開します。
HOLD	“SUB-RX 受信機能”でラジオ放送を受信中、サブで待ち受け受信を行い、信号を受信するとその周波数を受信し続けます。
TX 1S (1秒) ~ TX 10S (10秒)	“SUB-RX 受信機能”でラジオ放送を受信中、サブで待ち受け受信を行い相手と交信して送信が終了後、設定した時間にラジオ受信を再開します。例えば5秒に設定すると、送信が終了してから5秒後にラジオ受信を再開します。

各種の便利な機能

ラジオを聴きながらアンテナの切り替えを行うことができます。使用条件によってアンテナを切り替えてください。通常使用する場合はとくに設定する必要ありません。

AMアンテナの切り替え

1. **[RADIO]**を短く押してラジオを受信します。
2. **[BAND]**を数回短く押してAM放送に設定します。
3. **[RADIO]**を1秒以上押します。
セットモード『1 ANT AM』のショートカットキーです。
4. **DIAL**ツマミを上引張り**DIAL**ロックを外します。
5. **DIAL**ツマミをまわしてアンテナの条件を切り替えます(工場出荷時:BAREXT)。
BAREXT: ホイップアンテナと内蔵/バーアンテナ, BARANT: 内蔵/バーアンテナのみ
6. **[RADIO]**を短く押します。



FMアンテナの切り替え

1. **[RADIO]**を短く押してラジオを受信します。
 2. **[BAND]**を数回短く押してFM放送に設定します。
 3. **[RADIO]**を1秒以上押します。
セットモード『2ANT FM』のショートカットキーです。
 4. **DIAL**ツマミを上引張り**DIAL**ロックを外します。
 5. **DIAL**ツマミをまわしてアンテナの条件を切り替えます(工場出荷時:EXTANT)。
EXTANT: ホイップアンテナ, EARPHO: イヤホンアンテナ(EAR端子にステレオイヤホンを接続)
 6. **[RADIO]**を短く押します。
- セットモードの『77 SP OUT』により、イヤホンアンテナを使用時にステレオイヤホンから音を出さずにスピーカから音声を出力することができます(『3』 p. 102)。
 - セットモードの『83 STEREO』により、FMラジオをステレオまたはモノラル受信に切り替えることができます(『3』 p. 103)。



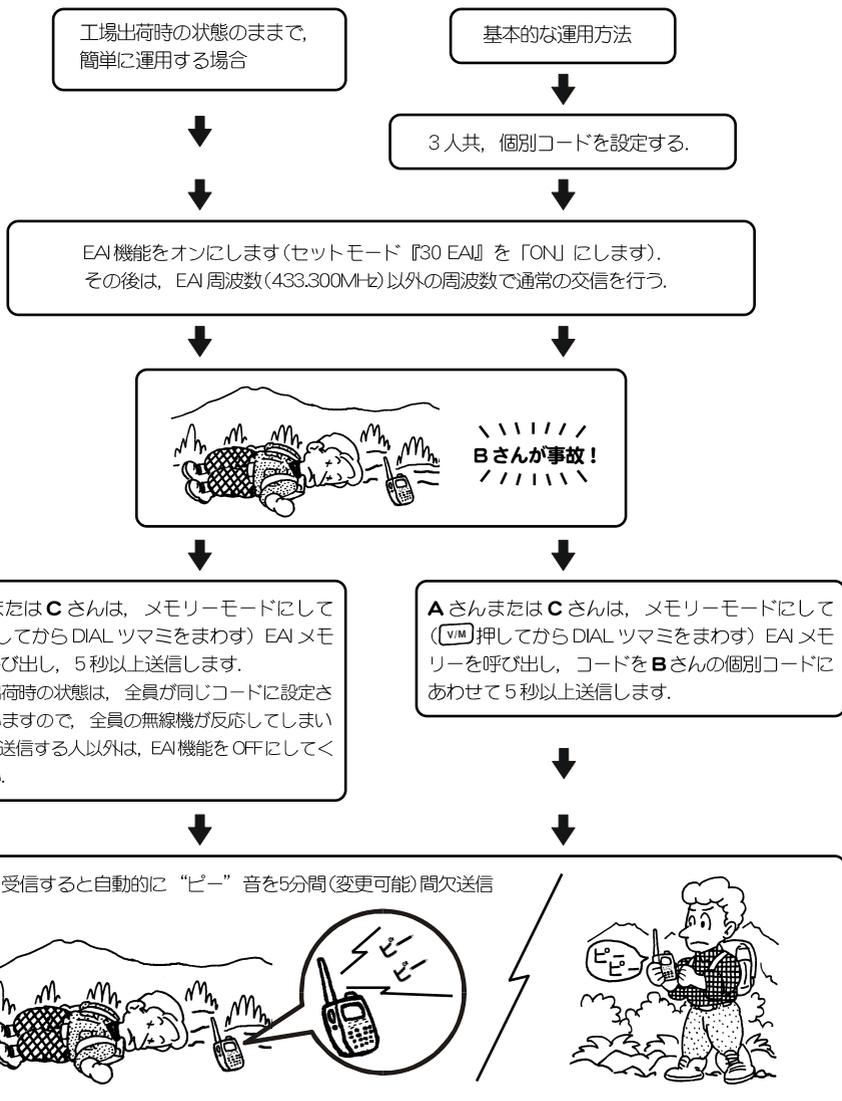
EAI (エマージェンシーオートマチックID) 機能 -自分の行方を仲間に探索してもらう-

仲間との登山やハイキングの時、不慮の事故で自分の意識が無くなったり、動けなくなった場合などに、自分の行方を仲間に探索してもらうための機能です。

各自が、個別にコードを登録することをおすすめしますが、工場出荷時の状態のまま、簡単にEAI機能を使用することもできます。



Aさん Bさん Cさん



各種の便利な機能

EAI(エマージェンシーオートマチックID)機能 -自分の行方を仲間に探索してもらう- (つづき)

■ EAI 機能の設定の流れ

個別コードを設定する



EAI機能を動作させる



呼び出したい相手のEAIコードを設定する

■ 個別コードを設定する



この機能は、不慮の事故が発生した際に、捜索活動を補助するための機能です。
この機能を使用しても、必ずしも発見に至るとは限りません。また、相手が電波の届かない場所にいる場合、本機能は動作いたしません。なお、本機能を使用して生じたトラブルについては、当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご承知ください。

EAI 機能時に使用する“個別コード”を仲間同士で決めておき、各個人毎に設定します。

(例:Aさんは“01 02”, Bさんは“03 04”, Cさんは“05 06”など)

工場出荷時は、あらかじめ“05 47”が設定されていますので、簡単にEAI 機能を使用したい場合は、個別コードを設定する必要はありません。

1. **[TX PO]**を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. **DIAL**ツマミを上引張り**DIAL**ロックを外します。
3. **DIAL**ツマミをまわして『61 PAG.CDR』を選択します。
4. **[TX PO]**を短く押します。
5. **DIAL**ツマミをまわして1つ目のコード(Aさんの場合は“01”)にあわせ
ます。
6. **[V/M]**を短く押した後(※が移動します), **DIAL**ツマミで2つ目のコード
(Aさんの場合は“02”)にあわせ
ます。
7. **[TX PO]**を1秒以上押して設定は終了です。



各種の
便利な
機能

○“01 01”のように、同じコードを設定することはできません。

○“01 02”と“02 01”などの場合、順番が違っても、同じコードとみなします。

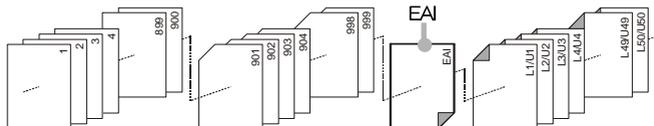
■ EAI 用周波数を変更したい場合は

EAI機能を動作させるためのメモリーチャンネル“EAI”には、あらかじめ433.300MHzがメモリーされていますが、この周波数を変更することができます。

1. 変更したい周波数にあわせ
ます。
2. **[E W]**を1秒以上押して、**DIAL**ツマミをまわして“EAI”にあわせ
ます。

EAIメモリーはメモリーチャンネル999とL1の間にあります。

[TX PO]を押すたびに100チャンネルステップで早送りすることができます。



3. **[E W]**を短く押します。
M-DEL?が表示されます。
4. **[E W]**を押すと周波数が変更されます(もとの周波数表示に戻ります)。

仲間全員が、メモリーチャンネル“EAI”を同じ周波数に設定しないと、EAI 機能は動作しません。

EAI機能 —自分の行方を仲間に探索してもらおう— (つづき)

■ EAI 機能を動作させる

1. **[V/M]**を短く押してメモリーモードにします。
2. DIALツマミを上引張りDIALロックを外します。
3. DIALツマミをまわしてメモリーチャンネル“EAI”を呼び出します。
4. **[TX PO]**を1秒以上押します。

各種の設定を行なえるセットモードになります。

5. DIALツマミをまわして『31 EAI.TMR』を選択します。
6. **[TX PO]**を短く押します。
7. DIALツマミをまわして“EAI機能動作時の間欠送信時間”をあわせませす。
INT. 1M(1分)~INT. 10M(10分)/INT. 15M(15分)/INT. 20M(20分)
/INT. 30M(30分)/INT. 40M(40分)/INT. 50M(50分)から選択が可能です。



例: “INT. 10M”にあわせただけの場合、EAI機能が動作すると「10分間」ピー音を間欠的に送信し続けます。



8. **[TX PO]**を短く押します。
9. DIALツマミをまわして『30 EAI』を選択します。
10. **[TX PO]**を短く押して、DIALツマミをまわして「ON」に設定します。
11. **[TX PO]**を1秒以上押して、セットモードは終了します。

ディスプレイに“EAI”と“VFO番号”(または“メモリーチャンネル”)が交互に表示し、EAI機能が動作します。



以下の機能が動作しているときには、EAI機能は動作しません。EAI機能を動作させる場合は、これらの機能を“オフ”にしてください。

また、放送などの信号を受信している時はEAI機能は動作していません。

- ・スキャン関連
- ・スマートサーチ機能
- ・ARTS機能
- ・プライオリティ機能
- ・エマージェンシー機能
- ・セットモード
- ・ファンクションモード(**[F.W.]**押し)
- ・メモリー書き込みモード(**[F.W.]**0.5秒以上押し)
- ・SUB-RX機能

- EAI機能が動作中は、VX-3が自動的に“EAI用周波数”を監視(受信)しますので、特別な操作などは必要ありません。EAI機能が動作中も、“EAI用周波数”以外の周波数で、通常と同じ交信を行うことができます。
- 1分経過毎に、CWでコールサインなどのD(D(CW I D))を送出することができます(13 p. 66)。

EAI機能 –自分の行方を仲間に探索してもらう– (つづき)

■呼び出したい相手のEAIコードを設定する

工場出荷時の状態でEAI機能を動作させる場合は、手順4～手順9の操作は必要ありません。

例:目的の相手のコードが“03 04”の場合

1. **[V/M]**を短く押してメモリーモードにします。
2. DIALツマミを上引張りDIALロックを外します。
3. DIALツマミをまわしてメモリーチャンネル“EAI”を呼び出します。
4. **[TXPO]**を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
5. DIALツマミをまわして『62 PAG.CDT』を選択します。
6. **[TXPO]**を短く押します。
7. 目的の相手局のコード“03 04”にあわせませす。
DIALツマミをまわして1つ目のコード“03”にあわせませす。
8. **[V/M]**を短く押した後(※が移動します), DIALツマミで2つ目のコード“04”にあわせませす。
9. **[TXPO]**を短く押して設定します。
10. PTTスイッチを押して5秒※以上送信状態にし、その後受信状態にします。

※ 相手がウェイクアップ機能を動作させている場合は、探索時に必要な送信時間が異なります (※p. 47)。

11. 相手がこちらの信号を受信した場合、自動的に“LOW”パワーで送信状態(“ピー”音を間欠送信、マイク回路はオフになります)になりますので、その信号を手がかりに、探索(信号が強くなる方に向う)を行います。



各種の便利な機能

[BAND]を押すたびに、下記のようにアッテネーター(受信感度を下げる回路)が動作しますので、相手との距離が近づいた時には、アッテネーターを動作させることにより、探索しやすくなる場合があります。

ATT 1 ⇒ ATT 2 ⇒ ATTOFF ⇒ ATT 1 ⇒
(10dB) (50dB) (OFF) (10dB)

エマージェンシー機能 — 緊急を知らせる —

白色のストロボ発光とビーブ音で緊急を知らせることができます。

[FM/TV]を2秒以上押しします(EMG)。

ディスプレイに“EMGNCY”が表示され、BUSY/TXインジケータが白色にストロボ発光し、ビーブ音が鳴ります。

周波数は430MHz帯のホームチャンネルが自動的に選択されます。

このときにPTTスイッチを押すとエマージェンシー機能が一旦停止し、ホームチャンネルで送信することができます。送信が終了すると約5秒後に再びエマージェンシー機能が動作します。



エマージェンシー機能を解除するときは、もう一度**[FM/TV]**を2秒以上押しします。

430MHz帯のホームチャンネルに戻ります。

エマージェンシーモードの設定

セットモードの『32 EMG.SEL』により、エマージェンシー機能動作時の、ストロボ発光とビーブ音の動作を変更することができます。ビーブを鳴らしながら、BUSY/TXインジケータが白色にストロボ発光する以外に、下記の動作に変更することができます。

- [TX/PO]**を1秒以上押しします。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
- DIALツマミを上にして引張りDIALロックを外します。
- DIALツマミをまわって『32 EMG.SEL』を選択します。
- [TX/PO]**を短く押しします。
- DIALツマミをまわってエマージェンシー機能の設定をします(工場出荷時:BP+STR)。



表示	動作
BEEP	ビーブ音のみ鳴らします。
STROBE	BUSY/TX インジケータが白色でストロボ発光します。
BP+STR	ビーブ音を鳴らしながら BUSY/TX インジケータが白色でストロボ発光します。
BEAM	BUSY/TX インジケータが白色で点灯します。
BP+BEM	ビーブ音を鳴らしながら BUSY/TX インジケータが白色で点灯します。
CW	BUSY/TX インジケータがとともにモールス符号で「SOS」と白色で点滅します。
BP+CW	ビーブ音がモールス符号で「SOS」と鳴り、さらに音に合わせてBUSY/TXインジケータが白色で点滅します。
CWT	1分毎にCMDを送信し、同時にBUSY/TXインジケータが白色で点滅します。CMDの登録方法は66ページを参照してください。

- [TX/PO]**を1秒以上押しします。

ラジオ受信の再開時間が設定され、もとの表示に戻ります。

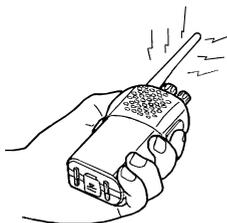
- セットモードの『32 EMG.SEL』により、SOSの点滅/ビーブ音を他のメッセージに変更することができます(「メッセージ内容の変更方法」: p.96)。

チャンネルカウンター — 周波数を調べる —

おおよその周波数しかわからないトランシーバー（たとえば特定小電力のようなチャンネル表示のトランシーバーなど）の周波数を知りたいときに、本機を送信しているトランシーバーに近づけて周波数を測定することができます。

設定した周波数から“±5MHz”の範囲内を高速でサーチし、最も強い信号を探し出して周波数を表示し、専用のチャンネルカウンタメモリーへ書き込みます。

このチャンネルカウンターはあくまでも簡易的なものであり、測定した周波数は概略値です。



1. おおよその周波数にあわせ、送信しているトランシーバーに本機を近づけます。

2. **[MODE]**を押したまま、DIALツマミをまわして『CH CNT』を選択します。スペシャルサーチモード（SPC S）になり、チャンネルカウンター（CH CNT）を選択することができます。

3. **[MODE]**を離すとチャンネルカウンターが動作し、サーチを開始します。サーチ中は“COUNT 3...COUNT 1”とカウントします。約50dBのアッテネーターが自動的に入り、至近距離で発射している電波のみ受信します。

サーチ終了後、周波数を表示します。

信号を探し出せなかったときは、“---NO---”が表示されVFOモードに戻ります。

4. チャンネルカウンターを中止するときは、**[MODE]**を短く押します。チャンネルカウンターメモリーに書き込まれた周波数は消去されます。



各種の便利な機能

○ チャンネルカウンターメモリーに書き込まれた周波数は、通常のメモリーチャンネルに書き込むことができます。

● トランシーバーの送信出力が大きい場合は、VX-3が不要な電波で誤動作しないようトランシーバーとの距離を調節してください。

サーチ幅を変更する

1. **[TXPO]**を1秒以上押します。
2. DIALツマミをまわして『17 CH CNT』を選択します。
3. **[TXPO]**を短く押します。
4. DIALツマミをまわして希望のサーチ幅を選択します。
±5MHz/±10MHz/±50MHz/±100MHzから選択することができます（工場出荷時：±5MHz）。
サーチ幅を狭くするほど、探し出す時間は短くなります。
5. **[TXPO]**を1秒以上押します。



スマートサーチ

選択したバンド内をサーチし、信号を受信した周波数を一時的なメモリー（スマートメモリー）に書き込みます。

スマートメモリーは、DIALツマミをまわすと選択できます。

1. **スマートサーチを開始する周波数を選択します。**
2. **[MODE]**を押したまま、DIALツマミをまわして『S SRCH』を選択します。スペシャルサーチモード（SPC S）になり、スマートサーチを選択することができます。
3. **[MODE]**を離すとスマートサーチのモードになり、**[BAND]**を1秒以上押して離すとサーチを開始します。
バンド内を1回サーチするとスマートサーチは終了します。
ただし、バンド内を1回サーチする前にスマートメモリーが一杯になると、スマートサーチは終了します。



4. **DIALツマミをまわして、スマートメモリーを呼び出します。**
スマートサーチを開始した周波数に“**£**”、開始した周波数より高い周波数には“**1~15**”、開始した周波数より低い周波数には“**-1~-15**”がディスプレイに表示されます。
5. **スマートサーチを終了するときは、[MODE]を押します。**
スマートサーチを開始する直前の状態に戻ります。

- スマートメモリーはメモリーチャンネルとは別に31個あり、スマートサーチを開始した周波数よりも高い側/低い側用に各15個ずつ使用されます(1個はスマートサーチを開始した周波数)。
- セットモード『1 S SRCH』の設定により、スマートメモリーがいっぱいになるまで、繰り返してサーチするように変更できません。
- スマートメモリーに書き込まれた周波数は次の時点で消去されます。
 - ・再度スマートサーチを開始したとき
 - ・電源をオフにしたとき
 - ・電池パックを取り外したとき
 - ・電池パックが取り付けられていないときに外部電源を取り外したとき
- スマートメモリーの周波数は、「メモリーに書き込む(23ページ)」を行うとメモリーチャンネルにメモリーできます。
- 再びスマートサーチを開始するときは、いったんVFOモードまたはメモリーモードに戻ってから行ってください。

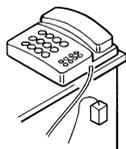
■指定した周波数の範囲をスマートサーチする

あらかじめプログラムブルメモリースキャン(PMS)により、下限周波数と上限周波数を登録しておきます(46ページ参照)。

1. **メモリーモードにし、下限周波数または上限周波数のプログラムブルメモリーを呼び出します。**
2. **[BW]**を押した後**[V/M]**を押します。
DIALツマミをまわして、スマートサーチを開始する周波数に選択します。
3. **[MODE]**を押したまま、DIALツマミをまわして『S SRCH』を選択します。
4. **[MODE]**を離すとスマートサーチのモードになり、**[BAND]**を1秒以上押して離すとサーチを開始します。
指定した周波数内を1回サーチするとスマートサーチは終了します。
ただし、指定した周波数内を1回サーチする前にスマートメモリーが一杯になると、スマートサーチは終了します。
5. **DIALツマミをまわして、スマートメモリーを呼び出します。**
6. **スマートサーチを終了するときは、[MODE]を押します。**
スマートサーチを開始する直前の状態に戻ります。

盗聴器発見機能サーチ —盗聴器を探し出す—

「盗聴器が仕掛けられているかも知れない」と困っている人がいるような場合、手助けをする機能です。盗聴で使用されていると思われる電波を自動的に探し出し、ピーブ音の変化（4段階）でおおよその設置場所を発見することができます。



1. **[MODE]**を押したまま、DIALツマミをまわして『TAP』を選択します。
スペシャルサーチモード(SPCS)になり、盗聴器発見機能サーチ(TAP)を選択することができます。



盗聴器発見機能サーチのメモリー番号

2. **[MODE]**を離すと盗聴器発見機能サーチのモードになり、盗聴周波数を表示しながらサーチします。

盗聴波と思われる電波を発見したとき

最大20チャンネルある盗聴器発見機能サーチメモリーに、一番強い信号から順番に周波数を書き込み、一番強い信号の周波数を表示してサーチが止まります。

サーチが終了後、DIALツマミを右にまわすと盗聴器発見機能サーチメモリーに書き込まれている周波数を、信号の強かった順に呼び出すことができます。



サーチした周波数を表示

盗聴波と思われる電波がなかったとき

ディスプレイに“…NQ…”が表示されVFOモードに戻ります。プライバシーを侵害する盗聴器は無いと思われます。

- ◎ 盗聴波と思われる電波を探し出すことができたなら、次は盗聴器が設置されている場所を探し出します。

3. **[BAND]**を押します。

ディスプレイに表示されている“とRP”が点滅し、アッテネーター(ATT1:約10dB)とピーブ機能が自動的に“オン”になります。

[BAND]を押すごとに ATT1→ATT2→OFF→ATT1… と切り替わります。



4. ピーブ音が「ピー、ピー…」と高い音で鳴る場所を探し出します。

「ブツ、ブツ、ブツ…」と低い音で鳴る場合は、盗聴器が設置されている場所から離れていることを示し、さらに離れると、「ブツ、ブツ…」と短い音に変わります。

5. 盗聴器に近づく、と、ピーブのピー音が長く鳴りますので、**[BAND]**を押してアッテネーター(ATT2:約50dB)を動作させて受信感度を下げます。

さらにVX-3が盗聴器に近づく、と、VX-3のスピーカーがハウリングをおこし、盗聴器が設置されている場所を発見することができます。

6. **[MODE]**を押すと盗聴器発見機能は解除され、盗聴器発見機能サーチを終了します。

アッテネーターはオフになり通常の感度に戻ります。

盗聴器発見機能サーチメモリーに書き込まれた周波数は消去され、盗聴器発見機能サーチを開始する直前の状態に戻ります。



この機能は、盗聴器の発見を補助するための機能で、全ての盗聴器を探し出せるわけではありません。また本機能を使用して生じたトラブルについては、当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご承知ください。

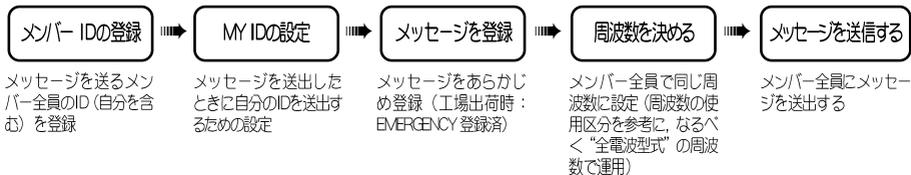
メッセージ機能

メッセージ機能を使用する場合は、あらかじめ使用するメンバーと同じ周波数を決めておいてください。メッセージは最大16文字まで送ることができます。

メッセージは20種類まで登録することができ、その中から希望のメッセージを選択して送信することができます。メッセージを受信すると、送られてきたメッセージ内容と送信者(最大20人登録可)をディスプレイに表示します。

- メッセージ機能は当社の対応機種(2007年5月現在:VX-3,FTM-10/H/S)のみ動作する機能です。まず始めに、あらかじめ決めておいたメンバーID,MY ID,周波数,メッセージ内容を設定し、同様にメンバー全員の無線機も同じ設定にしておきます。
- メッセージ機能を使用する場合は「周波数の使用区分」(P.113)を参照し、なるべく「全電波型式」の周波数で運用してください。
- レピータを介してメッセージを送ることはできません。

■ メッセージ機能の設定の流れ

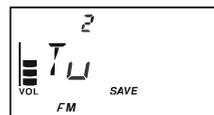
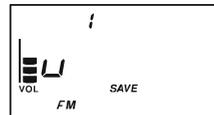
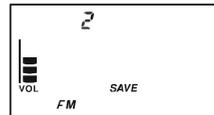


■ メンバーIDの登録

メッセージの送信者がわかるように、自分を含めて最大20人分のメンバーID(最大8文字)を登録することができます。メンバーIDは、あらかじめメンバー全員のIDを登録する必要があります。

なお、メンバーIDを登録しなくてもメッセージの送受信を行うことはできますが、この場合はメンバーIDではなく“MEMBER 1”～“MEMBER 20”の表示で送信者を知らせます。

1. **[TX/PO]**を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. **DIALツマミ**を上引張り**DIALロック**を外します。
3. **DIALツマミ**をまわして『55 MSG.LST』を選択します。
4. **[TX/PO]**を短く押します。
5. **DIALツマミ**をまわして登録したいメンバー番号を選択します。
6. **[V/M]**を短く押します。
ディスプレイにカーソルが点滅します。
7. **DIALツマミ**をまわして1桁目に希望の文字(次ページ参照)を選択します。
8. **[V/M]**を短く押して次の桁へカーソルを移動します。
[BAND]を短く押すと前の桁に戻り、修正したい場合は**DIALツマミ**をまわして文字を選択します。
アクセスコードや名前を入力中に**[MEM]**を1秒以上押すと、カーソルの文字とその文字以降を削除することができます。
9. 上記の手順6～7を繰り返し、希望の文字を設定(最大8文字)します。
10. **[TX/PO]**を1秒以上押すと設定れセットモードを終了します。
上記の手順5からの操作を繰り返して、メンバー全員のメンバーIDを登録します。



メッセージ機能 (つづき)

■ MY ID の設定

メッセージを送る際、相手局に自分のIDを表示させるための設定を行います。

メンバーIDの登録の際に設定した、自分のIDを選択してください。

MY IDを設定しないと、相手のディスプレイに、自分のIDを表示させることができません。

1. **[TXPO]**を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. DIALツマミを上引張りDIALロックを外します。
3. DIALツマミをまわして『56 MSG.REG』を選択します。
4. **[TXPO]**を短く押します。
5. DIALツマミをまわして自分のIDが登録されたメンバー番号を選択します。
6. **[TXPO]**を短く押します。
7. **[TXPO]**を1秒以上押すとMY IDが設定れ、セットモードを終了します。



○ 入力できる文字(文字種)は、下記の“文字一覧表”をご覧ください。

文字一覧表																			
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P				
Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	スペース	+	-	/	?	!				
3	4	5	6	7	8	9	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9			
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9

メッセージ機能 (つづき)

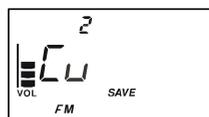
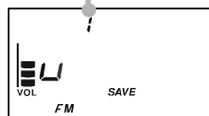
■ メッセージ登録

アルファベット, 数字, 記号を使用して, 希望のメッセージ(最大16文字)を最大20種類登録することができます。

1. **[TX/PO]**を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. **DIAL**ツマミを上引張り**DIAL**ロックを外します。
3. **DIAL**ツマミをまわして『57 MSG.SEL』を選択します。
4. **[TX/PO]**を短く押します。
5. **DIAL**ツマミをまわして登録したいメッセージ番号を選択します。
メッセージ番号 1には, “EMERGENCY”のメッセージがあらかじめ登録されています(変更することができます)
6. **[V/M]**を短く押します。
ディスプレイにカーソルが点滅します。
7. **DIAL**ツマミをまわして1桁目に希望の文字(前ページ参照)を選択します。
8. **[V/M]**を短く押して次の桁へカーソルを移動します。
[BAND]を短く押すと前の桁に戻り, 修正したい場合は**DIAL**ツマミをまわして文字を選択します。
アクセスコードや名前を入力中に**[FM/RY]**を1秒以上押すと, カーソルの文字とその文字以降を削除することができます。
9. 上記の手順6~7を繰り返し, 希望の文字を設定(最大16文字)します。
10. **[TX/PO]**を1秒以上押すと設定れセットモードを終了します。
続けて他のメッセージを登録したい場合は, 上記の手順5から操作を繰り返して, メッセージを登録します。



桁数(1桁目)



メッセージ機能 (つづき)

■ メッセージの送信

メンバーで決めた周波数を受信している他のメンバーに登録されたメッセージを送信することができます。

メッセージを送出する際は、自分のIDも同時に送出手続きとなりますので、受信側は誰からのメッセージなのかを知ることができます。

自分のIDを相手に表示させるには、MY IDの設定が必要です (p. 59)。

1. メンバーと同じ周波数に設定します。
2. **[E W]**を短く押した後**[MODE]**を短く押します。
セットモード『79 SQ TYP』のショートカットキーです。セットモード『79 SQ TYP』を呼び出して、メッセージ機能(MESSAGE)を選択することもできます。
3. DIALツマミを上引張りDIALロックを外します。
4. DIALツマミをまわして「MESSAGE」を選択します。
5. **[E W]**を短く押した後**[MODE]**を短く押して設定を終了します。
100MHzの桁に“M”が表示されます。
6. **[TX PO]**を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
7. DIALツマミをまわして『57 MSG.SEL』を選択します。
8. **[TX PO]**を短く押します。
9. DIALツマミをまわして送出手続きしたいメッセージを選択します。
10. **[TX PO]**を1秒以上押すと設定れ、セットモードを終了します。
11. PTTスイッチを押すとメッセージが送出手続きされます。
約5秒間メッセージの送信を行い、メッセージの送信が終わると、メッセージを送る前の状態に戻ります。



Mが表示される



各種の便利な機能

■ メッセージの受信

メッセージを受信するためには、メンバーが受信している同じ周波数にあわせれます。メッセージを受信するとBUSY/TXインジケータが白く点滅すると共に着信音が鳴り、ディスプレイに下記の例のような順番で繰り返し表示されます。

メッセージの受信例

メッセージ内容

→

FROM

→

送信者情報

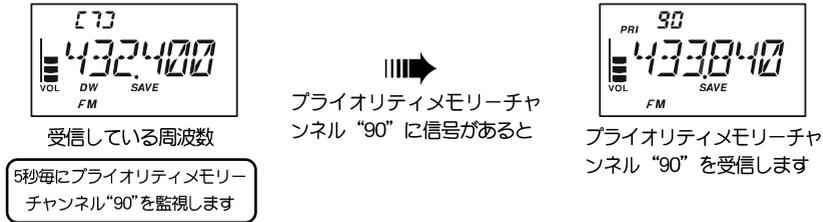
メッセージ内容、FROM、送信者情報がスクロール表示されます。

メッセージの表示を消して、メッセージを受信する前の状態に戻すには、いずれかのキーを短く押すか、DIAL ツマミを1クリックまわします。

デュアルレシーブ(DW)機能

デュアルレシーブ機能には、ダイヤルデュアルレシーブ、メモリーデュアルレシーブ、HOMEチャンネルデュアルレシーブの三種類があります。約5秒間に一度、指定したメモリーチャンネル(プライオリティメモリーチャンネル)に信号があるかを確認し、信号がある場合は、指定したメモリーチャンネルの信号を受信します。

例：“432.400MHz”を受信しながら、プライオリティメモリーチャンネル“90”を確認する場合



■ダイヤルデュアルレシーブ(VFOモード ⇄ プライオリティメモリーチャンネル)

1. メモリーモードにします。
2. **[DW]**を1秒以上押します。
書き込みモードになり、ディスプレイに“**[F]**”とチャンネル番号が点滅します。
3. 優先的に受信したいメモリーチャンネル(プライオリティメモリーチャンネル)をDIALをまわして選択し、**[BAND]**を短く押します
ディスプレイに“**PRI**”が表示されます。
4. VFOモードで常時受信する周波数を選択します。
5. **[V/M]**を1秒以上押してダイヤルデュアルレシーブが始まり、“**DW**”が表示されます。
6. ダイヤルデュアルレシーブを終了するときは**[V/M]**を短く押します。

■メモリーデュアルレシーブ(メモリーチャンネル ⇄ プライオリティメモリーチャンネル)

1. メモリーモードにします。
2. **[DW]**を1秒以上押します。
書き込みモードになり、ディスプレイに“**[F]**”とチャンネル番号が点滅します。
3. 優先的に受信したいメモリーチャンネル(プライオリティメモリーチャンネル)をDIALをまわして選択し、**[BAND]**を短く押します
ディスプレイに“**PRI**”が表示されます。
4. 常時受信したいメモリーチャンネルにあわせませす。
5. **[V/M]**を1秒以上押してメモリーデュアルレシーブが始まり、“**DW**”が表示されます。
6. メモリーデュアルレシーブを終了するときは**[V/M]**を短く押します。

■HOMEチャンネルデュアルレシーブ(HOMEチャンネル ⇄ プライオリティメモリーチャンネル)

1. メモリーモードにします。
2. **[DW]**を1秒以上押します。
書き込みモードになり、ディスプレイに“**[F]**”とチャンネル番号が点滅します。
3. 優先的に受信したいメモリーチャンネル(プライオリティメモリーチャンネル)をDIALをまわして選択し、**[BAND]**を短く押します
ディスプレイに“**PRI**”が表示されます。
4. **[FM/RY]**を押してHOMEチャンネルを呼び出します。
5. **[V/M]**を1秒以上押してHOMEデュアルレシーブが始まり、“**DW**”が表示されます。
6. HOMEデュアルレシーブを終了するときは**[V/M]**を押します。

デュアルレシーブ (DW) 機能 (つづき)

- 工場出荷時には、メモリーチャンネル1にプライオリティメモリーチャンネルが設定されています。
- セットモードの『65 PRI. TMR』により、プライオリティチャンネルの監視間隔時間を変更することができます。
- 常時受信する周波数とプライオリティメモリーチャンネルの周波数の周波数帯やモードの組み合わせに制限はありません。たとえば、AMラジオ放送を聞きながらレピーターを定期的に受信することができます。
- プライオリティメモリーチャンネルで信号を受信すると、その周波数を5秒間受信して再びデュアルレシーブが始まります。プライオリティメモリーチャンネルを受信しているときに、PTTスイッチを押すとその周波数で送信することができます。デュアルレシーブ機能を終了します。
- デュアルレシーブの再開条件は、セットモードの『75 SQN. RSM』で変更することができます。
- “PRI”のアイコンは移動することはできませんが、消去することはできません。

プライオリティリバート

プライオリティ受信時にPTTスイッチを押すと、プライオリティメモリーチャンネルで優先的に送信することができます。また、プライオリティメモリーチャンネルで信号を受信すると、その周波数を5秒間受信して再びデュアルレシーブが始まります。プライオリティメモリーチャンネルを受信しているときに、PTTスイッチを押すとその周波数で送信することができます。送信が終了すると再びデュアルレシーブ機能が動作します。

1. [TXPO]を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. DIALツマミを上へ引張りDIALロックを外します。
3. DIALツマミをまわして『64 PRLRVT』を選択します。
4. [TXPO]を短く押します。
5. DIALツマミをまわして「ON」に選択します。
6. [TXPO]を1秒以上押します。

プライオリティリバートが設定され、もとの表示に戻ります。



DTMF機能

DTMFとは“Dual Tone Multi Frequencies”の略語で、プッシュホーンの電話をかけたときに受話音から聞こえる音「ピッポッパッ」です。フोनパッチから公衆回線に接続するときに使う電話番号などを、最大16桁のDTMFコードで登録することができます(10チャンネル分)。

DTMFコードを登録する

1. **[TX PO]**を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. **DIAL**つまみを上に引張り**DIAL**ロックを外します。
3. **DIAL**つまみをまわして『28 DT SEL』を選択します。
4. **[TX PO]**を短く押します。
5. **DIAL**つまみをまわして登録したいチャンネルを選択します。
CH0～CH9から選択することができます。
6. **[BAND]**または**[V/M]**を押します。
7. **DIAL**つまみをまわしてDTMFコードを入力します。
8. **[V/M]**を押してカーソルを移動します。
9. 手順6, 7を繰り返しDTMFコードを入力します (最大16桁)。
10. 最後の桁のDTMFコードにカーソルをあわせ、**[TX PO]**を1秒以上押します。
DTMFコードが設定され、もとの表示に戻ります。



チャンネル表示



最後の桁がカーソルと共に点滅
桁数を表示



- 手順6でDTMFコードを修正したいときは、**[BAND]** (左方向へ移動) または**[V/M]** (右方向へ移動) を押して修正したい桁にあわせ、**DIAL**つまみをまわして入力します。
- 手順6でDTMFコードを登録中に**[RM/RV]**を1秒以上押しと、カーソルの文字とその文字以降を削除することができます。
- 手順6でDTMFコードを登録するとき、「*」は“E”、「#」は“F”とディスプレイに表示されます。
- 入力したDTMFコードをDTMF音で確認することができます。確認方法は下記のように操作を行います。

1. **[TX PO]**を1秒以上押しでセットモードにします。
2. **DIAL**つまみを上に引張り**DIAL**ロックを外します。
3. **DIAL**つまみをまわして『26 DT A/M』を選択します。
4. **[TX PO]**を短く押します。
5. **DIAL**つまみをまわして『AUTO』を選択します。
6. **[TX PO]**を短く押します。
7. **DIAL**つまみをまわして『28 DT SEL』を選択します。
8. **[TX PO]**を短く押します。
9. **DIAL**つまみをまわして登録してあるチャンネルを選択します。
10. **[RM/RV]**を短く押しと、登録してあるDTMFコードをDTMF音で確認することができます。
11. **[TX PO]**を1秒以上押しでセットモードを終了します。



DTMF機能 (つづき)

■登録したDTMFコードを送出する

1. **[TX PO]**を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. DIALツマミを上引張りDIALロックを外します。
3. DIALツマミをまわして『26 DT A/M』を選択します。
4. **[TX PO]**を短く押します。
5. DIALツマミをまわして「AUTO」を選択します。
6. **[TX PO]**を1秒以上押してセットモードを終了します。
7. PTTスイッチを押したままにします。
8. **[TX PO]**を押し、DTMFメモリーのチャンネルを表示させます。
9. DIALツマミをまわして送りたいDTMFメモリーのチャンネル(CH 0～CH 9)を選択します。
CH 0 ⇨ CH 1 ⇨ CH 2 ⇨ … ⇨ CH 9 ⇨ CH 0 に戻る
10. **[TX PO]**を押します。
登録したDTMFコードが送出されます。また、スピーカーから送出するDTMF音が聞こえます。
11. PTTスイッチを離します。
PTTスイッチを離してもDTMF信号の送出が終了するまでは、送信を続けます。



■マニュアルでDTMFコードを送出する

マニュアルでDTMFコードを送出することもできます。

1. **[TX PO]**を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. DIALツマミを上引張りDIALロックを外します。
3. DIALツマミをまわして『26 DT A/M』を選択します。
4. **[TX PO]**を短く押します。
5. DIALツマミをまわして「MANUAL」を選択します。
6. **[TX PO]**を1秒以上押してセットモードを終了します。
7. PTTスイッチを押したままにします。
8. **[TX PO]**を押し、DTMFコードを表示させます。
9. DIALツマミをまわして、送りたいDTMFコードを選択します。
DTMF 0 ⇨ DTMF 1 ⇨ DTMF 2 ⇨ DTMF 3 ⇨ … ⇨ DTMF F ⇨ DTMF 0 に戻る
10. **[TX PO]**を押します。
選択したDTMFコードが送出されます。また、スピーカーから送出するDTMF音が聞こえます。
連続でコードを送出したいときは手順8, 9を繰り返して行ないます。
11. PTTスイッチを離します。
PTTスイッチを離してもDTMF信号の送出が終了するまでは、送信を続けます。



○ DTMFコードは、2つの周波数の組み合わせから成っています。

	1209Hz	1336Hz	1477Hz	1633Hz
697Hz	1	2	3	A
770Hz	4	5	6	B
852Hz	7	8	9	C
941Hz	* (E)	0	# (F)	D

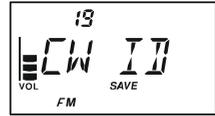
○ 「*」は「E」、「#」は「F」とディスプレイに表示されます。

CW ID機能

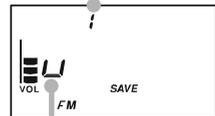
CW IDを設定すると、ARTS/EAI/エマージェンシー機能動作時に、自分のコールサインを自動的に送出することができます。

1. **[TX PO]**を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. **DIAL**ツマミをまわして『19 CW ID』を選択します。
3. **[TX PO]**を短く押します。
4. **DIAL**ツマミをまわして「ON」を選択します。
5. **[BAND]**を短く押します。
6. **DIAL**ツマミをまわしてコールサインを入力します (文字は下表参照)。
7. **[V/M]**を押してカーソルを移動します。
8. 手順6, 7を繰り返しコールサインを入力します (最大16文字)。
9. **[TX PO]**を1秒以上押します。

CW IDが設定され、もとの表示に戻ります。



桁数



カーソルが点滅



- CW IDを送出するためには、第三級アマチュア無線技士以上の資格とF2Aの電波型式の免許が必要です。
- 文字一覧表は、下表を参照してください。
- コールサインを入力中に**[M/RV]**を1秒以上押すと、カーソルの文字とその文字以降を削除することができます。
- コールサインを入力後、手順1～手順3を行い**[QW]**を押すと、設定したCW IDをCW音で確認することができます。
- CW IDを送出するときには、設定したCW IDの前後に“DE”と“K”が自動的に追加されます (DE CW ID (コールサイン) K と送出されます)。
- CW ID送出時にはDCSコードを含みませんので、当人同士はCW IDを聞くことはできません。

文字一覧表

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P
Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	スペース U	+	-	/	?	0
1	2	3	4	5	6	7	8	9	/	/	/	/	/	/	/

ARTS機能

ARTS機能とは、相手局が交信可能範囲内にいるかどうかを調べることができる機能です。

 を1秒以上押します。

相手局が交信可能な範囲にいるときは“IN RING”が表示されます。

 を1秒以上押すと、ARTS機能を使う直前の状態に戻ります。



- 相手局が交信範囲の外にいるときは、“OUT RING”が表示されます。
- 相手局と同じDCSコードにセットしてください。ARTS機能に使用するDCSコードは、セットモードの『24 DCS CD』で変更できます。

● DCSコードは工場出荷時の状態で“023”に設定されています。

● ARTS機能をオンにすると、周波数を変更できなくなります。

- ARTS機能は、ARTS機能のあるトランシーバーとして利用できます。
- ARTS機能がオンの状態のままPTTスイッチを押すことにより、相手局と交信できます。
- セットモードの『19 CW ID』の設定により、CW IDを設定するとARTS機能動作時に、自分のコールサインを自動的に、約10分間に1回CWで送出します。
- セットモードの『6 ARTSBP』の設定により、相手局からのDCSコードの受信を知らせるピープ音の鳴るタイミングを変更できます。
- セットモードの『7 ARTSIT』の設定により、チェックの間隔(相手局が交信可能範囲にいるかどうかを調べる間隔)を変更できます。工場出荷時では、チェック間隔は25秒に設定されています。



Sメータースケルチ機能 (RFスケルチ機能)

設定以上の信号を受信した場合のみ、音声を出力させる機能です。

1. **[TX.PQ]**を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. **DIAL**つまみを上に引張り**DIAL**ロックを外します。
3. **DIAL**つまみをまわして『80 SQSMTR』を選択します。
4. **[TX.PQ]**を短く押します。
5. **DIAL**つまみをまわして設定値を選択します (下表参照)。
6. **[TX.PQ]**を1秒以上押します。



Sメータースケルチ機能が設定され、もとの表示に戻ります。

表示	Sメーターの表示	動作状態
OFF		Sメータースケルチ機能が“OFF”になります。(工場出荷時は“OFF”に設定)
LVL 1		Sメーターが“1”以上の信号の音声を出力します。
LVL 2		Sメーターが“2”以上の信号の音声を出力します。
LVL 3		Sメーターが“3”以上の信号の音声を出力します。
LVL 4		Sメーターが“4”以上の信号の音声を出力します。
LVL 5		Sメーターが“5”以上の信号の音声を出力します。
LVL 6		Sメーターが“6”以上の信号の音声を出力します。
LVL 7		Sメーターが“7”以上の信号の音声を出力します。
LVL 8		Sメーターが“8”以上の信号の音声を出力します。

特定の相手局との交信

トーンスケルチ機能/DCS機能

トーンスケルチを使うと、こちらで設定している周波数のトーンが含まれた信号を受信したときのみスケルチが開きます。また、デジタルコードスケルチ(DCS)を使うと、こちらで設定しているDCSコードが含まれた信号を受信したときのみスケルチが開きます。

これらの機能を使うと、長時間にわたって特定の局からの呼び出しを待ち受けているときに、他局の交信にわずらわされることがなくなります。

1. [REV]を押した後に[MODE]を押します。

セットモードの[F79 SQ TYP]のショートカットキーです。

2. DIALツマミをまわしてスケルチの種類を選択します(下表参照)。

3. [REV]を押した後に[MODE]を押します。

スケルチの種類が設定され、もとの表示に戻ります。



スケルチタイプを
表示する

表示	動作状態
OFF	トーン送出、トーンスケルチなど各機能をOFFにします。
TONE	トーン送出のみを行います(“T”が点灯)。
T SQL	トーンスケルチをONにします(“TSQ”が点灯)。
DCS	デジタルコードスケルチをONにします(“DCS”が点灯)。
RV TN	リバーストーンをONにします(“TSQ”が点滅)。 通話がないときにトーン信号が含まれ、通話を始めるとトーン信号が消えるスケルチ制御方式の通信を受信するときに使用します。
JR FRQ (p. 33)	JRの空線スケルチ機能をONにします(“SQ”が点灯)。 通話が行われていないときに聴こえる「ピー」という2280Hzの空線信号音を消すことができます。
PR FRQ (p. 33)	JR以外の空線スケルチ機能をONにします(“SQ”が点灯)。 300Hz~3000Hzの空線信号音の周波数を100Hzステップで設定することができます。
PAGER (p. 74)	ページャ機能をONにします(“♥”が点灯)。 仲間同士で運用時、それぞれ個別コード(2つのトーンを使用したコード)を設定することにより、特定の局を呼び出すことができます。
MESSAGE (p. 61)	メッセージ機能をONにします(“♥”が点灯)。 仲間同士で運用時、あらかじめ登録してあるメッセージを仲間のVX-3のLCDに表示することができます。
D CODE*	送信時のみDCSコードを送出します(“DCS”が点滅)。
T DCS*	送信時にトーン信号を送出し、受信時にDCSコードで待ち受けをします(“T”が点滅 “DCS”が点灯)。
D TONE*	送信時にDCSコードを送出し、受信時にトーン信号で待ち受けをします(“TSQ”が点灯, “DCS”が点滅)。

*:セットモードの[F81 SQSP]により、ONに設定するとセットモードの[F79 SQ TYP]にD CODE/T DCS/D TONEの設定項目が追加されます。送信と受信で別々のスケルチタイプを設定することができます。

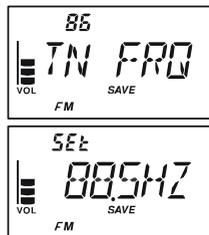
- トーンスケルチやDCSはスキャン時やスマートサーチにも有効です。トーンスケルチまたはDCSがオンの状態でスキャンすると、一致する周波数のトーンまたはDCSコードが含まれている信号を受信したときのみスキャンが停止します。
- モニタースイッチを押すと、トーンまたはDCSコードが含まれていない(または異なる)信号を聞くことができます。
- セットモードの[F25 DCS RV]により、位相を反転したDCSコードを受信することができます。
- セットモードの[F81 SQSP]により、送受信で別々のスケルチタイプを設定することができます。
- セットモードの[F79 SQ TYP]からも、スケルチタイプを設定することができます。

トーンスケルチ機能/DCS機能 (つづき)

■トーンの周波数を設定する

トーンの周波数は、67.0Hz～254.1Hzの50種類から選択できます(トーン周波数表は104ページ参照)。

1. **[TXPO]**を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. DIALツマミを上引張りDIALロックを外します。
3. DIALツマミをまわして『86 TN FRQ』を選択します。
4. **[TXPO]**を短く押します。
5. DIALツマミをまわして希望のトーン周波数を選択します。
6. **[TXPO]**を1秒以上押します。
トーン周波数が設定され、もとの表示に戻ります。

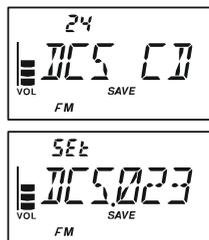


- 上記の操作で設定したトーンの周波数は、トーンの送出のみを行う場合にも有効です。
- 工場出荷時の状態では88.5Hzに設定されています。

■DCSコードを設定する

DCSコードは、023～754の104種類から選択できます(DCSコード表は95ページ参照)。

1. **[TXPO]**を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. DIALツマミを上引張りDIALロックを外します。
3. DIALツマミをまわして『24 DCS CD』を選択します。
4. **[TXPO]**を短く押します。
5. DIALツマミをまわして希望のDCSコードを選択します。
6. **[TXPO]**を1秒以上押します。
DCSコードが設定され、もとの表示に戻ります。



工場出荷時の状態では“023”に設定されています。

■相手局が使用しているトーンスケルチの周波数やDCSコードがわからないとき

下記の操作により、トーンスケルチの周波数やDCSコードを探して表示することができます。

1. **[BW]**を押した後に**[MODE]**を押します。
2. DIALツマミをまわしてトーンスケルチ『T SQL』(またはDCSコード『DCS』)を選択します。
3. **[BW]**を押した後に**[MODE]**を押すとトーンスケルチ(またはDCSコード)が設定されます。
4. 71ページの「トーンの周波数を設定する」(DCSの場合は、上記の「DCSコードを設定する」)の手順1. から手順4.を行ないます。
5. 相手局の信号を受信し、**[BAND]**を1秒以上押して離すと(押しているあいだは、『T SRCH』(DCSのときは『D SRCH』)と表示)、トーン周波数(またはDCSコード)をサーチします。
一致したトーン周波数(またはDCSコード)を探し出すと「ピポッ」とビーブ音が鳴りサーチを一時停止し、そのトーン周波数(またはDCSコード)を点滅します。
6. サーチしたトーン周波数(またはDCSコード)を設定したい場合は、**[BAND]**を押し(「ピポッ」とビーブ音が鳴る)、**[TXPO]**を1秒以上押すとセットモードを終了して、もとの表示に戻ります。



スキャンが停止したときの動作を設定することができます。41ページの“スキャンストップ時の受信方法を設定する”を参照してください。

ベル機能 —相手からの呼び出しをベルで知らせる—

相手局からの呼び出しを「ピポピポピポッ」と一回ベル音で知らせ、LODに“♥”を点滅して知らせることが出来ます。

1. **[TX PO]**を1秒以上押します。

各種の設定を行なえるセットモードになります。

2. **DIAL**ツマミを上引張り**DIAL**ロックを外します。

3. **DIAL**ツマミをまわして『10 BELSEL』を選択します。

4. **[TX PO]**を短く押します。

5. **DIAL**ツマミをまわして「**BELL**」を選択します。

BELL以外にUSRBP1～USRBP3が選択することができますが、セットモードの『15 BP USR』でビーブ音の登録をしないと、選択表示することはできません。

6. **[TX PO]**を1秒以上押します。

ベル機能が設定され、もとの表示に戻ります。



ベル機能を終了するには、手順5.の操作で「OFF」に選択します。

- ベル機能を使用するためには、トーンスケルチまたはDCSをオンにしてください。
- ベル機能はスピータでは使用できません。
- ベル機能がオンのときには“♥”が表示されます。また、相手局からの信号を受信したときには“♥”が点滅します。

■ベル音の回数を変更する

1. **[TX PO]**を1秒以上押します。

各種の設定を行なえるセットモードになります。

2. **DIAL**ツマミをまわして『9 BELRNG』を選択します。

3. **[TX PO]**を短く押します。

4. **DIAL**ツマミをまわしてベル音の鳴る回数を選択します。

1T (1回)～20T (20回), CONT (連続)を選択することができます。
工場出荷時: 1T

5. **[TX PO]**を1秒以上押します。

ベル音の鳴る回数が設定され、もとの表示に戻ります。

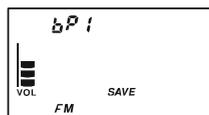


ベル機能 —相手からの呼び出しをベルで知らせる— (つづき)

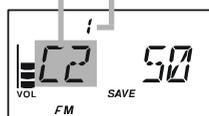
■好みのベル音をつくる

自分で作曲したベル音を3曲登録することができます。1曲につき、64個の音階を入力することができます。

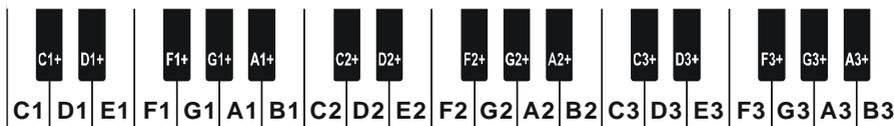
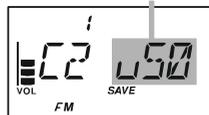
1. **[TXPO]**を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. DIALツマミを上へ引張りDIALロックを外します。
3. DIALツマミをまわして『15 BP USR』を選択します。
4. **[TXPO]**を短く押します。
5. DIALツマミをまわして『USRBP1～USRBP3』のいずれかを選択します。
6. **[V/M]**を短く押すとディスプレイにカーソルが点滅します。
7. DIALツマミを1クリックまわします。
ディスプレイに“C2 50”と表示されます。
左側の“C2”は音階(下図参照)をあらわします。
また、右側の“50”は鳴動時間(音の長さ)をあらわします。
鳴動時間は1(0.1秒)～250(2.5秒)まで設定できます。
8. DIALツマミをまわして音階を選択します。
9. **[V/M]**を短く押して鳴動時間の設定にします。
[BAND]を短く押すと前の音階設定に戻ります。
10. DIALツマミをまわして鳴動時間を選択します。
11. **[V/M]**を短く押して次の音階設定画面になります。
12. 上記の手順7～手順9を繰り返し、64個まで音階を入力することができます。
13. **[TXPO]**を1秒以上押すと設定れセットモードを終了します。



音階 音階の桁数



鳴動時間



ページャー機能 —特定の局だけを呼び出することができる—

仲間同士で運用時、それぞれ個別コード(2つのCTCSSトーンを使用したコード)を設定することにより、特定の局だけを呼び出することができます。なお、呼び出された局は、呼び出しがあったときに無線機から離れていたとしても、ディスプレイの表示などで、呼び出しがあったことを知ることもできます。



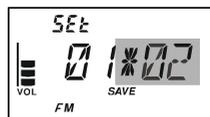
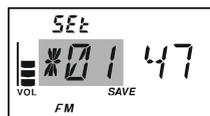
■ ページャー機能の操作の流れ



■ 自局のコードを設定する

自分が呼び出されるとき「個別コード(自分のコード)」を設定します。

1. **[TX/PO]**を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. **DIAL**ツマミを上引張り**DIAL**ロックを外します。
3. **DIAL**ツマミをまわして『61 PAG.CDR』を選択します。
4. **[TX/PO]**を短く押します。
5. **DIAL**ツマミをまわして1つ目のコード(01~50から選択)をあわせま。
6. **[V/M]**を短く押した後(※が移動します), **DIAL**ツマミで2つ目のコード(01~50から選択)をあわせま。
1つ目と同じコードに設定することはできません。
7. **[TX/PO]**を1秒以上押して設定します。



- 工場出荷時は、「05 47」が設定されています。
- 2つのコードは、「05 47」と「47 05」のように、順番が違っていても同じコードとみなします。
- 仲間同士が全員同じコードを設定すると「グループコード」として、グループ全員を一斉に呼び出すことができます。

■ 新ページャー機能を動作させる

1. **[@W]**を短く押した後**[MODE]**を短く押します。
セットモード『79 SQ TYP』のショートカットキーです。セットモード『79 SQ TYP』を呼び出して、新ページャー機能(PAGER)を選択することもできます。
2. **DIAL**ツマミを上引張り**DIAL**ロックを外します。
3. **DIAL**ツマミをまわして「PAGER」を選択します。
4. **[@W]**を短く押した後に**[MODE]**を短く押します。



この状態で、新ページャー機能を使用した「呼び出し」や「待ち受け」を行うことができます。

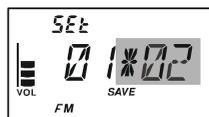
ページャー機能 —特定の局だけ呼び出しすることができる— (つづき)

■特定の局を呼び出す

1. 相手と同じ周波数に設定します。
2. **[BW]**を短く押した後**[MODE]**を短く押します。
セットモード『79 SQ TYP』のショートカットキーです。セットモード『79 SQ TYP』を呼び出して、新ページャー機能(PAGER)を選択することもできます。
3. DIALツマミを上引張りDIALロックを外します。
4. DIALツマミをまわして「PAGER」を選択します。
5. **[BW]**を短く押した後**[MODE]**を短く押して、新ページャー機能を動作させます。
100MHzの桁に“P”が表示されます。
6. **[TX.PQ]**を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
7. DIALツマミを上引張りDIALロックを外します。
8. DIALツマミをまわして『62 PAG.CDT』を選択します。
9. **[TX.PQ]**を短く押します。
10. DIALツマミをまわして、呼び出したい相手局の1つ目のコード(01～50から選択)にあわせませす。
必ず相手のページャーコードを登録してください。
11. **[V.M]**を短く押した後(※が移動します)、DIALツマミをまわして、2つ目のコード(01～50から選択)にあわせませす。
12. **[TX.PQ]**を1秒以上押して、コードが確定します。
13. この状態でPTTスイッチを押すと、目的の相手局を呼び出すことができます。



Pが表示される



特定の相手局との交信

■相手局から呼ばれる (待ち受け時の動作)

相手局と同じ周波数、同じページャーコードを設定しておく、ディスプレイの表示で呼ばれたことを確認することができます。また、72ページの「ベル機能」を設定するとディスプレイに“♥”が表示され、ディスプレイの表示とベル音で、呼び出されたことを確認することができます。



→
呼び出しを受けると

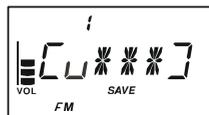


セットモード[60 PAGABK]の設定を“ON”にすると、呼び出しを受けた際、自動的に送信(約2.5秒間)状態になりますので、交信可能な状態かどうかを、相手に知らせることができます。

パスワード機能

4桁のパスワードを設定することにより、正しいパスワードを入力しないと、電源をオンにすることができませんので、第三者の無断使用などを防ぐことができます。

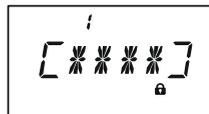
1. **[TX PO]**を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. DIALツマミを上へ引張りDIALロックを外します。
3. DIALツマミをまわして『66 PSWD』を選択します。
4. **[TX PO]**を短く押します。
5. **[V/M]**を押します。
ディスプレイにカーソルが点滅します。
6. DIALツマミでパスワードの1桁目を選びます(0~9, A~Fから選択できます)。
7. **[V/M]**を押して次の桁に移動します。
8. 手順6.~7.によりパスワードを4桁まで入力します。
9. DIALツマミをまわして「ON」選択します。
パスワード機能が「ON」になります。
「OFF」の設定ではパスワードのみ入力することができます。パスワード機能を使用する場合は、必ず「ON」にしてください。
10. **[TX PO]**を1秒以上押してセットモードを終了します。



- パスワード機能を解除するには、上記の操作を行い、手順5.によりDIALツマミで“OFF”にあわせて、**[TX PO]**を1秒以上(またはPTTスイッチ)押してください。
- ウェイクアップ機能やオンタイマー機能が動作して電源がオンになるときは、パスワード機能は無効になります。

■パスワード機能動作時の電源の入れかた

1. **[POWER]**を1秒以上押して電源を入れます。
パスワード入力画面が表示されます。
2. DIALツマミでパスワードの1桁目を入力します。
3. **[V/M]**を押して次の桁に移動し、手順2.と同様パスワードの4桁目まで入力します。
4. **[POWER]**を押して、正しい4桁のパスワードを入力されると、電源が“オン”になります。
間違ったパスワードを入力した場合は、自動的に電源が“オフ”になります。



注 意

パスワードを忘れた場合は、オールリセットを行うことにより、電源を入れることができます。ただし、オールリセットを行うと、メモリーされた内容や、各種の設定値など、全ての情報がリセット(初期化)されてしまいます。
パスワードは忘れないように、紙などに控えておくようにしてください。

照明の点灯条件を変更する

ディスプレイとキーの照明が点灯する条件を、変更することができます。

1. **[TX/PO]**を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. DIALツマミを上引張りDIALロックを外します。
3. DIALツマミをまわして『44 LAMP』を選択します。
4. **[TX/PO]**を短く押します。
5. DIALツマミで、希望の点灯条件にあわせませす(下表参照)。
6. **[TX/PO]**を1秒以上押してセットモードを終了します。



表示	点灯条件
KEY2S(2秒間点灯) ~KEY10S(10秒間点灯)	DIALツマミをまわすか、またはキーを押すと、設定した時間点灯します。
CONT	点灯しつづけます。
OFF	照明は点灯しなくなります。

TX/BUSYインジケータをライトとして使用する

TX/BUSYインジケータを白色に発光させ、簡易的なライトとして使用することができます。

1. **[TX/PO]**を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. DIALツマミを上引張りDIALロックを外します。
3. DIALツマミをまわして『45 LED LT』を選択します。
4. **[TX/PO]**を短く押すと、TX/BUSYインジケータが白色に点灯します。
5. **[TX/PO]**を短く押すと、ライトが消えます。
6. **[TX/PO]**を1秒以上押してセットモードを終了します。



BUSYインジケータをOFFにする

ラジオを常時受信する場合や電池の残量が残り少なくなったときなどに、BUSYインジケータをOFFにして電池の消耗を減らすことができます。

1. **[TX/PO]**を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. DIALツマミを上引張りDIALロックを外します。
3. DIALツマミをまわして『16 BSY.LED』を選択します。
4. **[TX/PO]**を短く押します。
5. DIALツマミをまわして「OFF」を選択します。
BUSYインジケータの点灯がOFFになります。
6. **[TX/PO]**を1秒以上押してセットモードを終了します。



操作音の音量を設定する

キーを押したときや、信号を受信してスキャンが停止したときなどに出るピーブ音の音量を設定することができます。

1. **[TXPO]**を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. DIALツマミを上引張りDIALロックを外します。
3. DIALツマミをまわして『13 BP LVL』を選択します。
4. **[TXPO]**を短く押します。
5. DIALツマミをまわして、希望の音量を選びます。
工場出荷時:LVL5
6. **[TXPO]**を1秒以上押してセットモードを終了します。



操作音がならないようにする

キー操作等に発する、操作確認音(ピーブ音)をオフにすることができます。

1. **[TXPO]**を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. DIALツマミを上引張りDIALロックを外します。
3. DIALツマミをまわして『14 BP SEL』を選択します。
4. **[TXPO]**を短く押します。
5. DIALツマミをまわして「OFF」を選択します。



表示	動作状態
OFF	ピーブ音をOFFにすることができます。
KY+SON	キー操作時やスキャン停止時にピーブ音を鳴らします。
KEY	キー操作時にピーブ音を鳴らします。

工場出荷時:KY+SON

6. **[TXPO]**を1秒以上押してセットモードを終了します。

音量の設定方法を変更する

[VOL]を押した後DIALツマミをまわし、音量を調節後、約3秒間で自動的に調節する前の状態に戻るように設定を変更することができます。

1. **[TXPO]**を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. DIALツマミを上引張りDIALロックを外します。
3. DIALツマミをまわして『92 VOL MD』を選択します。
4. **[TXPO]**を短く押します。
5. DIALツマミをまわして「AUT.BCK」を選択します。
工場出荷時:NORMAL
6. **[TXPO]**を1秒以上押すと、セットモードを終了します。



電源電圧表示機能 —電池の電圧を表示する—

電池の電圧を表示します。オプションのシガープラグ付き外部電源アダプター (E-DC-21) を接続しているときは、アダプターの電源電圧を表示します。

1. **[TXPD]** を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. **DIAL** ツマミを上引張り**DIAL** ロックを外します。
3. **DIAL** ツマミをまわして『23 DC VLT』を選択します。
4. **[TXPD]** を短く押します。



ディスプレイに電圧が表示されます。

電圧の表示を消したいときは、**[TXPD]** を1秒以上押してセットモードを終了します。

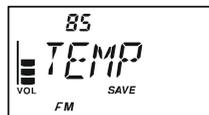
電池パックを使用しているときは“**1.5**”，乾電池ケースを使用しているときは“**1.5**”，外部電源アダプターを使用しているときは“**12.0**”が表示されます。



温度表示機能 —VX-3内部の温度を表示—

VX-3内部の温度を表示させることができます。

1. **[TXPD]** を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. **DIAL** ツマミを上引張り**DIAL** ロックを外します。
3. **DIAL** ツマミをまわして『85 TEMP』を選択します。
4. **[TXPD]** を短く押すと内部温度を表示します。
5. **[TXPD]** を1秒以上押すとセットモードを終了し、温度を表示させる前の状態に戻ります。



- VX-3内部の温度を把握する機能です。
- 温度上昇のない状況(待ち受け受信時など)では、外気温の目安とすることができます。
- 温度表示中に**[MOD]** を短く押すと、温度表示の単位(C: 摂氏, F: 華氏)を変更することができます。

オンタイマー機能 —自動的に電源をオンにする—

指定した時間電源オフの状態が続くと、自動的に電源を“ON”にすることができます。

1. **[TXPO]**を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. DIALツマミを上へ引張りDIALロックを外します。
3. DIALツマミをまわして『58 ON TMR』を選択します。
4. **[TXPO]**を短く押します。
5. DIALツマミで、電源がオンになるまでの時間を選びます。
10分単位で、10分～24時間から選択できます。
工場出荷時:OFF
6. **[TXPO]**を1秒以上押してセットモードを終了します。
電源をオフにすると、自動的に電源がオンになるまでの時間を表示します。



オンタイマー機能が動作中(ディスプレイに電源オンまでの時間が表示中)に電源スイッチを押すと、オンタイマー機能を一時的に停止することができます。一度電源をオンにした後、電源をオフにすると、再びオンタイマー機能が動作します。

APO機能 —自動的に電源をオフにする—

指定した時間何の操作も行わずにいると、電源スイッチの切り忘れと判断して自動的に電源をオフにします(オートパワーオフ機能)。

1. **[TXPO]**を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. DIALツマミを上へ引張りDIALロックを外します。
3. DIALツマミをまわして『4 APO』を選択します。
4. **[TXPO]**を短く押します。
5. DIALツマミをまわして時間を選択します。
OFF/30分～12時間 30分単位で選択することができます。
工場出荷時:OFF
6. **[TXPO]**を1秒以上押してセットモードを終了します。
オートパワーオフ機能が設定され、もとの表示に戻ります。
設定した時間何の操作もしないと、自動的に電源がオフになります。



- オートパワーオフ機能がオンのときには“**⏻**”が表示されます。
- 工場出荷時は“OFF”に設定されています。
- 設定した時間は、手順5の操作で“OFF”を選択するまで、そのまま保持されます(次に電源をオンにしたときも、設定した時間何の操作もしないと、自動的に電源がオフになります)。

受信セーブ機能 —何も受信していないときに受信セーブをする—

何も受信していないときに設定した時間の間、受信機をオフにして受信セーブ機能が動作します。受信セーブ機能がオンのときは、“SAVE”が点滅します（信号受信中は点灯）。

1. **[TXPO]**を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. **DIAL**ツマミを上引張り**DIAL**ロックを外します。
3. **DIAL**ツマミをまわして『72 SAVERX』を選択します。
4. **[TXPO]**を短く押します。
5. **DIAL**ツマミをまわして時間を選択します。
200mS (0.2秒)～1000mS (1秒) 100mS単位
～1.0S (1秒)～10.0S (10秒)/OFF 500mS単位
工場出荷時:200mS
6. **[TXPO]**を1秒以上押します。
受信セーブ機能が設定され、もとの表示に戻ります。



送信セーブ機能 —相手局の信号強度がフルスケールの場合は送信出力を下げる—

送信セーブ機能をONにすると、相手局の信号強度がフルスケールの場合、送信出力がハイパワーのときにはLOWに下がります。

1. **[TXPO]**を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. **DIAL**ツマミを上引張り**DIAL**ロックを外します。
3. **DIAL**ツマミをまわして『73 SAVETX』を選択します。
4. **[TXPO]**を短く押します。
5. **DIAL**ツマミをまわして「ON」を選択します。
工場出荷時: OFF
6. **[TXPO]**を1秒以上押します。
送信セーブ機能が設定され、もとの表示に戻ります。



TOT機能 —連続送信時間を制限する—

指定した時間連続送信を行なうと、自動的に受信状態に戻ることができるようにすることができます。誤動作による不要電波の送出やバッテリーの消耗を防ぐことができます（タイムアウトタイマー機能）。

1. **[TXPO]**を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. **DIAL**ツマミを上引張り**DIAL**ロックを外します。
3. **DIAL**ツマミをまわして『87 TOT』を選択します。
4. **[TXPO]**を短く押します。
5. **DIAL**ツマミをまわして時間を選択します。
OFF/0.5分～10分 30秒単位で選択することができます。
工場出荷時: OFF
6. **[TXPO]**を1秒以上押します。
タイムアウトタイマー機能が設定され、もとの表示に戻ります。



- タイムアウトタイマー機能がオンのときには、設定した時間に近づくと「ピポ、ピポ、ピポ」とビーブ音が鳴り、約10秒後に受信状態に戻ります。
- 工場出荷時は“OFF”に設定されています。
- 設定した時間は、手順5.の操作で“OFF”を選択するまで、そのまま保持されます。

BCLO機能 —受信中に誤って送信しないようにする—

信号を受信中に誤って送信しないようにすることができます（ビジーチャンネルロックアウト機能）。

1. **[TXPO]**を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. DIALツマミを上引張りDIALロックを外します。
3. DIALツマミをまわして『8 BCLO』を選択します。
4. **[TXPO]**を短く押します。
5. DIALツマミをまわして「ON」を選択します。
工場出荷時:OFF
6. **[TXPO]**を1秒以上押します。
ビジーチャンネルロックアウト機能が設定され、もとの表示に戻ります。



- 工場出荷時は“OFF”に設定されています。
- 設定した機能は、手順5の操作で“OFF”を選択するまで、そのまま保持されます。

マイクゲイン —マイク感度を調節する—

マイク入力レベルを調節することができます。

1. **[TXPO]**を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. DIALツマミを上引張りDIALロックを外します。
3. DIALツマミをまわして『48 MCGAIN』を選択します。
4. **[TXPO]**を短く押します。
5. DIALツマミで、希望のマイクゲインを選びます。
LVL 1(感度が下がる)～LVL 9(感度が上がる)から選択できます。
工場出荷時:LVL 5
6. **[TXPO]**を1秒以上押してセットモードを終了します。



アッテネーター(ATT)機能 —受信感度を下げる—

信号が強すぎる時や、近くに強力な信号があり、目的の信号が聞きにくい場合、アッテネーター(ATT)を動作させると聞きやすくなる場合があります。

1. **[TXPO]**を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. DIALツマミを上引張りDIALロックを外します。
3. DIALツマミをまわして『3 ANT.ATT』を選択します。
4. **[TXPO]**を短く押します。
5. DIALツマミをまわして「ON」を選択します。
ONまたはOFFを選択できます。
工場出荷時:OFF
6. **[TXPO]**を1秒以上押してセットモードを終了します。
ディスプレイのモード表示が点滅します。
アッテネーターをオフにしたいときは、上記の操作を繰り返し、手順5の項目で「OFF」を選択します。



アッテネーター(ATT)の減衰量は約10dBです。

マイバンド機能 —自分がよく使用するバンドだけを表示する—

[BAND]を押したときに、自分がよく使用するバンドだけを表示する“マイバンド機能”を使用することができます。例えば[BAND]を押すごとにアマチュアバンドだけを表示することができます。

■ 登録

1. VX-3をVFOモードにします(メモリーモードのときは[VM]を押します)。

[BAND]を押して、よく使用するバンドに設定しておきます。

AMラジオ[A]、FMラジオ[F]、TV放送[t]のいずれかをスキップさせたい場合は、あらかじめ[RADIO]を短く押してラジオのバンドに設定しておきます。

2. [TX.PQ]を1秒以上押します。

各種の設定を行なえるセットモードになります。

3. DIALツマミを上引張りDIALロックを外します。

4. DIALツマミをまわして『91 VFO.SKP』を選択します。

5. [TX.PQ]を短く押します。

6. DIALツマミをまわして、スキップさせる(必要としない)バンド番号を選択します(バンド番号は下表参照)。

バンド番号が点滅します。

7. [VM]を押してからDIALツマミをまわして、「ON」を選択します。

工場出荷時: OFF

OFFまたはONが点滅します。

マイバンドを登録中に受信しているバンドは「ON」にすることはできません。

8. もう一度[VM]を押します。

バンド番号が点滅します。

9. 続いてバンドを登録する場合は、手順6.~手順8.の操作を繰り返し設定します。

10. [TX.PQ]を1秒以上押すと、マイバンドが登録されセットモードを終了します。



バンド番号



バンド番号	バンド名	周波数
1	短波帯	1.8 ~ 30MHz
2	60MHz帯	30 ~ 59MHz
3	航空無線帯	108 ~ 137MHz
4	144MHz帯	137 ~ 174MHz
5	VHF-TV放送帯	174 ~ 222MHz
6	情報無線(1)	222 ~ 420MHz
7	430MHz帯	420 ~ 470MHz
8	UHF-TV放送帯	470 ~ 800MHz
9	情報無線(2)	803 ~ 999MHz
A	AMラジオ放送帯(中波)	510 ~ 1790kHz
F	FMラジオ放送帯	76 ~ 107.9MHz
t	1CH~3CH TV放送帯	90 ~ 107.950MHz

非表示しているバンドを表示するには、上記の手順5.手順6.の操作で「ON」にしたバンドを「OFF」にしてください。

■ 操作

[BAND]を押たびに、自分がよく使用するバンドだけを表示します。

(インターネットキー)の動作をマイキーに変更する

を押したときに、よく使うセットモードをショートカットキーとして割り付けることができます。工場出荷時では、セットモードの『23 DC MLT』がショートカットキーとしてが設定されています。

1. を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. DIALツマミを上引張りDIALロックを外します。
3. DIALツマミをまわして『42 INTKEY』を選択します。
4. を短く押します。
5. DIALツマミをまわして「SET MD」を選択します (工場出荷時: INTNET)。
6. を1秒以上押してセットモードを終了します。



マイキーの登録を変更する

マイキーで呼び出せるセットモードを変更することができます。

1. を1秒以上押します。
2. DIALツマミを上引張りDIALロックを外します。
3. DIALツマミをまわして『42 INTKEY』を選択します。
4. を短く押します。
5. DIALツマミをまわして「SET MD」を選択します。
6. を短く押します。
7. DIALツマミをまわしてマイキーで呼び出したいセットモードを選択します。
8. を1秒以上押すと、に希望のセットモードが登録されます。
9. を1秒以上押してセットモードを終了します。

メモリーオンリーモード

メモリーチャンネルにメモリーした周波数だけで運用することができます。

を押しながらを押して電源を“オン”にします。

「ピポポッ」とピーブ音がなりメモリーオンリーモードになります。同じ操作を繰り返すと、メモリーオンリーモードを解除できます。

- を0.5秒以上押すとメモリースキャンが動作します (p. 42)。
- セットモードリーオンリーモードにすると、下記以外の機能は動作しなくなります。
- メモリーオンリーモードにすると、下記以外の機能は動作しなくなります。
 - ・メモリースキャン
 - ・インターネットキー
 - ・受信モードの切り替え
 - ・スケルチレベルの設定
 - ・一時ハイパワー機能

CW学習機能

英文、数字、記号、和文のモールス符号を学習することができます。モールス符号をスピーカーで鳴らし、その音に合わせてTX/BUSYインジケーターが点滅します。

1. **[TX/PO]**を1秒以上押します。

各種の設定を行なえるセットモードになります。

2. **DIAL**ツマミを上引張り**DIAL**ロックを外します。

3. **DIAL**ツマミをまわして『20 CWLRNG』を選択します。

4. **[TX/PO]**を短く押してから、**DIAL**ツマミで希望の送出スピード(モールス符号の速さ)を選びます。



送出スピードは“20CPM~200CPM”または“4WPM~40WPM”から選択することができ、**[V/M]**を短く押すたびに、“CPM*1”“WPM*2”が切り換わります。

※1 : CPM(Character Per Minutes)

1分間に送出できる文字数の目安で、例えば“60CPM”なら、1分間に約60字の文字を送るスピードになります。



※2 : WPM(Word Per Minutes)

1分間に送出する単語数の目安(ARRLで定めた“PARIS”式「1単語=5文字」より算出)で、例えば“20WPM”なら、平均して1分間に20単語の文字を送るスピードになります。



5. **[MODE]**を短く押して、モールス符号の送出条件を選択します(下表参照)。

表示	動作
Ⓔ	アルファベットを数回(手順参照)文字を送出して、再び [RW] が押されるまで一時停止します。
Ⓔ ₅	「アルファベットを5文字送出」を繰り返します。
0	数字を5文字送出して、再び [RW] が押されるまで一時停止します。
0 ₅	「数字を5文字送出」を繰り返します。
5	記号を5文字送出して、再び [RW] が押されるまで一時停止します。
5 ₅	「記号を5文字送出」を繰り返します。
ㇿ	カナ(和文)を5文字送出して、再び [RW] が押されるまで一時停止します*。
ㇿ ₅	「カナ(和文)を5文字送出」を繰り返します*。

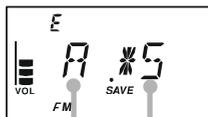
※ : カナ(和文)は、ディスプレイにローマ字で表示されます(例 : “ヤ”の場合は“YA”と表示されます)。

6. **[M/RV]**を短く押して**DIAL**ツマミで練習したい文字を選びます。

7. **[V/M]**を数回短く押して、練習したい文字の送出回数を選びます。

8. **[RW]**を短く押すと、設定した条件でモールス符号が送出されます。

モールス符号が送出されている途中で**[RW]**を短く押すと、モールス符号の送出を中止します。



CW符号で送出される文字 回数

CW学習機能を終了するには、[TX/PO]を1秒以上押します。

PITスイッチを押してもCW学習機能を終了することができます。この場合は、CW学習機能を動作させる前の状態(VFOモードやメモリーモードなど)に戻すことができます。

- モールス符号が送出されていない状態で**[BAND]**を短く押すとデシマルポイントが消灯し、TX/BUSYインジケーターが点滅しないようになります。
- 受信音に対し、モールス符号の音量が大きい(小さい)場合は、セットモード『13 BP LVL』で、モールス符号の音量を調節してください。
- セットモードの『21 CWPTCH』により、CW学習機能やCWトレーニング機能で聴こえるモールス符号の音を好みの音(サイドトーン)に変えることができます。
- 待ち受け時にCWを学習できるよう、練習中でも本機は受信動作をおこなっています。

必要に応じて使う機能

CWトレーニング機能

ランダムなモールス符号をスピーカーで鳴らし、その音に合わせてTX/BUSYインジケーターが点滅します。さらに、そのモールス符号をディスプレイに表示します。

1. **[TXPO]** を1秒以上押します。

各種の設定を行なえるセットモードになります。

2. **DIAL** ツマミを上引張り**DIAL**ロックを外します。

3. **DIAL** ツマミをまわして『22 CWTRNG』を選択します。

4. **[TXPO]** を短く押してから、**DIAL** ツマミで希望の送出スピード(モールス符号の速さ)を選びます。



送出スピードは“20CPM~200CPM”または“4WPM~40WPM”から選択することができ、**[V/M]** を短く押すたびに、“CPM*1” “WPM*2” が切り換わります。

※1：CPM(Character Per Minutes)

1分間に送出できる文字数の目安で、例えば“60CPM”なら、1分間に約60字の文字を送るスピードになります。



※2：WPM(Word Per Minutes)

1分間に送出する単語数の目安(ARRLで定めた“PARIS”式「1単語=5文字」より算出)で、例えば“20WPM”なら、平均して1分間に20単語の文字を送るスピードになります。



5. **[MODE]** を短く押して、モールス符号の送出条件を選択します(下表参照)。

表示	動作
Ⓔ	アルファベットを5文字送出して、再び [QW] が押されるまで一時停止します。
Ⓔ_r	「アルファベットを5文字送出」を繰り返します。
Ⓝ	数字を5文字送出して、再び [QW] が押されるまで一時停止します。
Ⓝ_r	「数字を5文字送出」を繰り返します。
ⒺⓃ	アルファベットと数字を5文字送出して、再び [QW] が押されるまで一時停止します。
ⒺⓃ_r	「アルファベットと数字を5文字送出」を繰り返します。
Ⓜ	カナ(和文)を5文字送出して、再び [QW] が押されるまで一時停止します*。
Ⓜ_r	「カナ(和文)を5文字送出」を繰り返します*。

※：カナ(和文)は、ディスプレイにローマ字で表示されます(例：“ヤ”の場合は“YA”と表示されます)。

6. **[QW]** を短く押すと、設定した条件でモールス符号が送出されます。

モールス符号が送出されている途中で**[QW]**を短く押すと、モールス符号の送出を中止します。

CWトレーニング機能を終了するには、[TXPO]を1秒以上押します。

PTTスイッチを押してもCWトレーニング機能を終了することができます。この場合は、CWトレーニング機能を動作させる前の状態(VFOモードやメモリーモードなど)に戻すことができます。

- モールス符号が送出されていない状態で**[BAND]**を短く押すとデシマルポイントが消灯し、TX/BUSYインジケーターが点滅しないようになります。
- セットモードの『21 CWPTCH』により、CW学習機能やCWトレーニング機能で聴こえるモールス符号の音を好みの音(サイドトーン)に変えることができます。
- 受信音に対し、モールス符号の音量が大きい(小さい)場合は、セットモード『13 BP LVL』で、モールス符号の音量を調節してください。
- 待ち受け時にCWトレーニングをできるように、トレーニング中でも本機は受信動作をおこなっています。



* “.”が消えているときは、TX/BUSYインジケーターは点滅しません。

セットモード番号順一覧表

セットモード (SET) とは、一度設定してしまえばその後変更する機会の少ない機能や動作などの設定を行なう状態をいい、93種類の設定を行なうことができます。

セットモード番号/項目	機能説明	選択できる項目 (太字は工場出荷時の値)
1 [ANT AM]	AMラジオのアンテナ選択	BAREXT / BARANT
2 [ANT FM]	FMラジオのアンテナ選択	EXTANT / EARPHO
3 [ANT.ATT]	アッテネーターのON/OFF	ON / OFF
4 [APO]	APO動作時間の設定	OFF / 0.5H ~ 12.0H (0.5H/steps)
5 [ARS]	ARS機能のON/OFF	ON / OFF
6 [ARTSBP]	ARTS着信時のピープ音設定	OFF / IN RNG / ALWAYS
7 [ARTSIT]	ARTS動作時のチェック間隔の設定	15SEC / 25SEC
8 [BCL0]	ピープチャンネルロックアウトの選択	ON / OFF
9 [BEL.RNG]	ベル呼び出し音回数設定	1T - 20T / CONT (連続)
10 [BEL.SEL]	ベル機能の出力設定	OFF / BELL / USRPB1 / USRPB2 / USRPB3
11 [BNK.NAM]	メモリーバンクに名前を付ける	—
12 [BP EDG]	バンドエッジまたはCH1通過時の確認音	ON / OFF
13 [BP LVL]	ピープ音の音量設定	LVL 1 ~ LVL 9 (LVL 5)
14 [BP SEL]	ピープ音の出力設定	OFF / KY+SCN / KEY
15 [BP USR]	ベル音の作成と登録	—
16 [BSY.LED]	BUSY LEDのON/OFF	ON / OFF
17 [CH CNT]	チャンネルカウンターのサーチ幅の設定	± 5 MHz / ± 10 MHz / ± 50 MHz / ± 100 MHz
18 [CLK.SFT]	クロックアウトの設定	ON / OFF
19 [CW ID]	CW ID送出手のON/OFFおよびID書き込みの設定	ON / OFF
20 [CWL.RNG]	CW学習機能	—
21 [CWPTCH-I]	CWピッチ周波数の設定	400 - 1000 Hz (50 Hz/step) (700 Hz)
22 [CWTRNG]	CWトレーニング機能	—
23 [DC VL]	電源電圧表示	—
24 [DCS CD]	DCSコードの設定	104 standard DCS codes (023)
25 [DCS RV]	DCS反転コードの送受信組み合わせ設定	R-N,T-N / R-L,T-N / R-B,T-N / R-N,T-I / R-L,T-I / R-B,T-I
26 [DT A/M]	DTMFメモリーの送出手設定	MANUAL / AUTO
27 [DT DLY]	DTMF送出手遅延時間の設定	50MS / 250MS / 450MS / 750MS / 1000MS
28 [DT SEL]	DTMFオートダイヤラーのチャンネル、コード(16桁)の設定	—
29 [DT SPD]	DTMF送出手速時間の設定	50MS / 100MS
30 [EAI]	EAI機能の“ON/OFF”	ON / OFF
31 [EAI.TMR]	EAI機能の関与送信時間設定	INT. 1M ~ INT.10M, INT.15M, INT.20M, INT.30M, INT.40M, INT. 50M, CON. 1M ~ CON.10M, CON.15M, CON.20M, CON.30M, CON.40M, CON. 50M (CON. 5M)
32 [EMG.SEL]	エマージェンシーモードの設定	BEEP / STROBE / BP+STR / BEAM / BP+BBM / CW / BP+CW / CWT
33 [EXT.MNU]	セットモードの非表示 / 表示	ON / OFF
34 [FW KEY]	[]の長押し時間の設定	FW0.3S / FW0.5S / FW0.7S / FW1.0S / FW1.5S
35 [H.F.DEV]	送信変調レベルの設定	ON / OFF
36 [H-M/RV]	ホームチャンネル(H-M)キー/リバーズ(RV)キーの変更設定	HOME / REV
37 [H-M/VFO]	ホームチャンネルでのVFO転送の許可 / 禁止	DISABL / ENABLE
38 [INT CD]	WiRESのSRG方式で使用使用するDTMFコードの設定	DTMF: 0 - DTMF F (DTMF 1)
39 [INT MD]	WiRES方式の設定	SRG / FRG
40 [INT.A/M]	WiRESのFRG方式によるDTMFメモリーの送出手設定	MANUAL / AUTO
41 [INT.SEL]	WiRESのFRG方式で使用使用するコード設定	—
42 [INTKEY]	[]の機能割付設定	INTNET / INT MR / SET MD
43 [INTNET]	WiRESのON/OFF	ON / OFF
44 [LAMP]	バックライト、キーの照明時間設定	KEY 2S ~ KEY10S / CONT / OFF (KEY 5S)
45 [LED LT]	白色LEDによる簡易ライトのON/OFF	—
46 [LOCK]	ロックモードの設定	KEY / PTT / KY (KEY)+PTT
47 [M/T-CL]	モニタースイッチ / T-CALL スイッチ変更設定	MONI / T-CALL
48 [MCGAIN]	マイク入力レベルを調整	LVL 1 ~ LVL 9 (LVL 5)

セットモード番号順一覧表 (つづき)

必要に応じて使う機能

セットモード番号/項目	機能説明	選択できる項目 (太字は工場出荷時の値)
49 [MR DSP]	メモリーチャンネルの周波数 / タグ表示切り替え	ALPHA / FREQ
50 [MR WMD]	メモリー書き込み時のオートインクルメント設定	NEXT / LOWER
51 [MR FSTP]	メモリー呼び出し時のメモリーチャンネルステップ設定	10CH / 20CH / 50CH / 100CH
52 [MR NAME]	メモリータグの書き込み	—
53 [MR PCTCT]	メモリー書き込み許可 / 禁止	ON / OFF
54 [MR SKIP]	スキップメモリー / 特定メモリーの設定	OFF / SKIP / ONLY
55 [MSG LST]	メッセージ機能で使用するIDリストの設定	—
56 [MSG REQ]	自局IDの選択	—
57 [MSG SEL]	メッセージの登録と選択	EMRGNCY
58 [ON TMR]	電源オンタイマー機能の設定	OFF / 00H:10M (00:10) ~ 24H:00M (24:00) (10分ステップ)
59 [OPN MSG]	オープニングメッセージの設定	OFF / DC / MSG
60 [PAG ABK]	ページアンサーバック機能の “ON/OFF”	ON / OFF
61 [PAG CDR]	個別コード(受信用)の設定	05 47
62 [PAG CDT]	個別コード(送信用)の設定	05 47
63 [PR FRQ]	空線スケルチの設定	300Hz - 3000Hz (1000 Hz ステップ) (1600Hz)
64 [PRI LVRT]	プライオリティ・リバトの設定	ON / OFF
65 [PRI TMR]	プライオリティチャンネル監視間隔時間の設定	0.1 ~ 0.9S (0.1S ステップ), 1.0S ~ 10.0S (0.5S ステップ) (5.0S)
66 [PSWD]	パスワード機能の “ON/OFF”	ON / OFF
67 [PTT DLY]	PTT デレイタイムの設定	OFF / 20MS / 50MS / 100MS / 200MS
68 [RPT]	レピータ方向の設定	SIMP / RPT / +RPT
69 [RPT SFT]	レピータオフ幅の設定	0.00 - 150.00 MHz (50 kHz ステップ) 5.00MHz (430 MHz 帯)
70 [RX MD]	受信モードの切り替え	AUTO / NFM / AM / WFM
71 [S SRCH]	スマートサーチの動作切り替え	SINGLE / CONT
72 [SAVERX]	受信セーブ時間の設定	0.2S ~ 0.9S (0.1S ステップ), 1.0S ~ 10.0S (0.5S ステップ)
73 [SAVETX]	送信セーブ設定	ON / OFF
74 [SCNLMP]	スキャンストップ時のランプ点灯	ON / OFF
75 [SCN RSM]	スキャンストップモードの設定	2SEC ~ 10SEC / BUSY / HOLD (5SEC)
76 [SCN STR]	スキャン再開開始時間の設定	0.1 ~ 0.4S (0.1S ステップ), 1.0S ~ 10.0S (0.5S ステップ) (2.0SEC)
77 [SP OUT]	イヤホンアンテナ使用時のスピーカー音声出力設定	AUTO / SPKR
78 [SQ LVL]	FM / AM / RADIO (AM, WIDE FM) のスケルチレベル設定	LVL 0 ~ LVL 15 (LVL 1) (AM/FM), LVL 0 ~ LVL 8 (LVL 2) (FM ラジオ/AM ラジオ)
79 [SQ TYP]	スケルチタイプの設定	OFF / TONE / TSOL / DCS / RV TN / PR FRQ / PAGER / MESSAGE
80 [SQ SMTR]	Sメータースケルチ (RF スケルチ) のレベル設定	OFF / LVL 1 ~ LVL 8
81 [SQ SPLT]	送受信で別々のスケルチタイプの設定	ON / OFF
82 [STEP]	チャンネルステップの設定	AUTO / 5 / 8.33 / 9 / 10 / 12.5 / 15 / 20 / 25 / 50 / 100 kHz
83 [STEREO]	FM ラジオの受信モードの切り替え	STEREO / MONO
84 [SUB-RX]	ラジオ放送同時受信の設定	OFF / TRX 1S ~ TRX 10S (1S ステップ) / HOLD / TX 1S ~ TX 10S (1S ステップ)
85 [TEMP]	温度表示	—
86 [TN FRQ]	トーン周波数の設定	50種類 (88.5Hz)
87 [TOT]	タイムアウトタイマーの設定	OFF / 0.5M ~ 10.0M (0.5M ステップ)
88 [TS MUT]	トーンサーチ動作中の音声出力ミュートの設定	ON / OFF
89 [TS SPD]	トーンサーチ動作スピードの設定	SLOW (毎秒 1.25 トーン) / FAST (毎秒 2.5 トーン)
90 [VFO MD]	VFO モード時の周波数選択範囲の設定	ALL / BAND
91 [VFO.SKP]	必要としないVFOの非表示設定	ON / OFF
92 [VOL MD]	VOL キーの設定	NORMAL / AUTO BCK
93 [WAKEUP]	ウェイクアップ機能動作時の信号確認時間の設定	OFF / 5SEC ~ 60SEC (5SEC ステップ) / EA

セットモード項目別一覧表

レピーターに関する設定項目 AFS機能のON/OFF レピーター方向の設定 レピーター幅の設定	セットモード 5 [AFS] 68 [RPT] 69 [RPT,SFT]	選択できる項目 (太字は工場出荷時の値) ON / OFF SIMP / -RPT / +RPT 0.00 ~ 150.00 MHz (50 kHzステップ) 5.00 MHz (430MHz帯)
スカルチ/トーンスカルチ/DCS/ページャーに関する設定項目 ベル呼び出し音回数の設定 ベル機能の出力設定 ベル音の作成と登録 DCSコードの設定 DCS反転コードの送受信組み合わせ設定 ページャーアンサーバック機能の“ON/OFF” 個別コード(受信用)の設定 個別コード(送信用)の設定 空線スカルチの設定 FM/AM/RADIO(AM/WIDE FM)のスカルチレベル設定 スカルチタイプの設定 送受信で別々のスカルチタイプの設定 トーン周波数の設定	セットモード 9 [BELFRNG] 10 [BEL_SEL] 15 [BP_USR] 24 [DCS_CD] 25 [DCS_RV] 60 [PAGABK] 61 [PAG_CDR] 62 [PAG_CDT] 63 [PR_FRQ] 78 [SQ_LVL] 79 [SQ_TYP] 81 [SQSPLT] 86 [LTN_FRQ]	選択できる項目 (太字は工場出荷時の値) 1T ~ 20T / CONT (連続) OFF / BELL / USRBP1 / USRBP2 / USRBP3 — 104種類 (023) R-N-T-N / R-I-T-N / R-B-T-N / R-N-TJ / R-I-TJ / R-B-TJ ON / OFF 05 74 05 74 300Hz ~ 3000Hz (1000 Hzステップ) (1600Hz) LVL 0 ~ LVL 15 (LVL 1) (AM/NFM), LVL 0 ~ LVL 8 (LVL 2) (FMラジオ/AMラジオ) OFF / TONE / TSQL / DCS / RV TIN / PR FRQ / PAGER / MESSAGE ON / OFF 50種類 (88.5Hz)
ARTSに関する設定項目 ARTS着信時のビープ音設定 ARTS動作時のチャイム間隔の設定 CW ID送出的ON/OFFおよびID書き込みの設定	セットモード 6 [ARTSBP] 7 [ARTSIT] 19 [CW_ID]	選択できる項目 (太字は工場出荷時の値) OFF / IN RNG / ALWAYS 15SEC / 25SEC ON / OFF
メモリーに関する設定項目 メモリーバンクに名前をつける メモリーチャンネルの高波数/タグ表示切り替え メモリー書き込み時のオートインジケータ設定 メモリー呼び出し時のメモリーチャンネルステップ設定 メモリータグの書き込み メモリー書き込み許可/禁止	セットモード 11 [BNK_NAM] 49 [MR_DSP] 50 [MR_WMD] 51 [MPFSTP] 52 [MR_NAME] 53 [MRPCTCT]	選択できる項目 (太字は工場出荷時の値) — ALPHA / FREQ NEXT / LOWER 10CH / 20CH / 50CH / 100CH — ON / OFF
スキャンに関する設定項目 スキップメモリー/特定メモリーの設定 プライオリティ / リポートの設定 プライオリティチャンネル監視間隔時間の設定 スキャンストップ時のラップ点灯 スキャンストップモードの設定 スキャン再開開始時間の設定	セットモード 54 [MRSKIP] 64 [PRVRT] 65 [PRL_TMR] 74 [SCNLMPT] 75 [SCNFRSM] 76 [SCNSTRJ]	選択できる項目 (太字は工場出荷時の値) OFF / SKIP / ONLY ON / OFF 0.1 ~ 0.9S (0.1Sステップ), 1.0S ~ 10.0S (0.5Sステップ) (5.0S) ON / OFF 2SEC ~ 10SEC / BUSY / HOLD (5SEC) 0.1 ~ 0.4S (0.1Sステップ), 1.0S ~ 10.0S (0.5Sステップ) (2.0S) ON / OFF SLOW (毎秒 1.25トーン) / FAST (毎秒 2.5トーン)
トーンサーチ動作中の音声出力ミュートの設定 トーンサーチ動作スピードの設定	88 [TS_MJT] 89 [TS_SPD]	ON / OFF SLOW (毎秒 1.25トーン) / FAST (毎秒 2.5トーン)
SAVEに関する設定項目 APO動作時間の設定 BUSY LEDのON/OFF 受信セーブ時間の設定	セットモード 4 [APO] 16 [BSY_LED] 72 [SAVERX]	選択できる項目 (太字は工場出荷時の値) OFF / 0.5H ~ 12.0H (0.5Hステップ) ON / OFF 0.2S ~ 0.9S (0.1Sステップ), 1.0S ~ 10.0S (0.5Sステップ) ON / OFF OFF / 5SEC ~ 60SEC (5SECステップ) / EAI
送信セーブ設定 ウェイクアップ機能即時の信号確認時間の設定	73 [SAVETX] 93 [WAKEUP]	ON / OFF 5SEC ~ 60SEC (5SECステップ) / EAI
メッセージに関する設定項目 メッセージ機能で使用するIDリストの設定 自局IDの選択 メッセージの登録と選択	セットモード 55 [MSG_LST] 56 [MSG_FREG] 57 [MSG_SEL]	選択できる項目 (太字は工場出荷時の値) — — EMRGNCY
WIRESに関する設定項目 WIRESのSRG方式で使用するDTMFコードの設定 WIRES方式の設定 WIRESのFRG方式によるDTMFメモリーの送出設定 WIRESのFRG方式で使用するコード設定 ☑の機能割付設定 WIRESのON/OFF	セットモード 38 [INT_CD] 39 [INT_MD] 40 [INT_A/M] 41 [INT_SEL] 42 [INTKEY] 43 [INTNET]	選択できる項目 (太字は工場出荷時の値) DTMF 0 ~ DTMF F (DTMF 1) SRG / FRG MANUAL / AUTO — INTNET / INT MR / SET MD ON / OFF

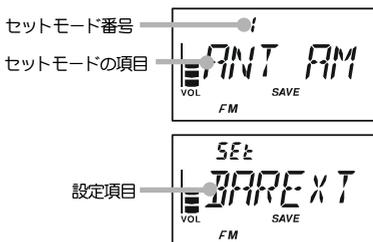
セットモード項目別一覧表 (つづき)

EAIIに関する設定項目	セットモード	選択できる項目 (太字は工場出荷時の値)
EAII機能の“ON/OFF”	30 [EAII]	ON / OFF
EAII機能の間欠送信時間設定	31 [EAITMR]	INT. 1M ~ INT. 10M, INT. 15M, INT. 20M, INT. 30M, INT. 40M, INT. 50M, CON. 1M ~ CON. 10M, CON. 15M, CON. 20M, CON. 30M, CON. 40M, CON. 50M (CON. 5M)
エマージェンシーモードの設定	32 [EMG.SEL]	BEEP / STROBE / BP+STR / BEAM / BP+BEM / CW / BP+CW / CWT
DTMFに関する設定項目	セットモード	選択できる項目 (太字は工場出荷時の値)
DTMF メモリーの送出設定	26 [DT A/M]	MANUAL / AUTO
DTMF 送出遅延(待)時間の設定	27 [DT DLY]	50MS / 250MS / 450MS / 750MS / 1000MS
DTMF オートダイヤラーのチャンネル、コード(16桁)の設定	28 [DT SEL]	—
DTMF 送出時間の設定	29 [DT SPD]	50MS / 100MS
キー/スイッチに関する設定項目	セットモード	選択できる項目 (太字は工場出荷時の値)
☐の長押し時間の設定	34 [FW KEY]	FW0.3S / FW0.5S / FW0.7S / FW1.0S / FW1.5S
ホームチャンネル(HM)キー/リバース(RV)キーの変更設定	36 [HMRV]	HOME / REV
ホームチャンネルでのVFO転送の許可/禁止	37 [HM+VFO]	DISABL / ENABLE
バックライト、キーの照明時間設定	44 [LAMP]	KEY 2S ~ KEY 10S / CCNT / OFF (KEY 5S)
ロックモードの設定	46 [LOCK]	KEY / PTT / KY (KEY)+PTT
モニタースイッチ/T-CALL スイッチ変更設定	47 [MVT-CL]	MONI / T-CALL
PTT デレイタイムの設定	67 [PTT.DLY]	OFF / 20MS / 50MS / 100MS / 200MS
VOL キーの設定	92 [VOL MD]	NORMAL / AUTO.BCK
ビーブ音に関する設定項目	セットモード	選択できる項目 (太字は工場出荷時の値)
バンドエッジまたはOH1 通過時の確認音	12 [BP EDG]	ON / OFF
ビーブ音の音量設定	13 [BP LVL]	LVL 1 ~ LVL 9 (LVL 5)
ビーブ音の出力設定	14 [BP SEL]	OFF / KY+SCN / KEY
CWピッチ周波数の設定	21 [CWPTCH]	400 ~ 1000 Hz (50 Hz ステップ) (700 Hz)
表示に関する設定項目	セットモード	選択できる項目 (太字は工場出荷時の値)
電源電圧表示	23 [DC VLT]	—
オープニングメッセージの設定	59 [OPN.MSG]	OFF / DC / MSG
温度表示	85 [TEMP]	—
その他の設定項目	セットモード	選択できる項目 (太字は工場出荷時の値)
AMラジオのアンテナ選択	1 [ANT AM]	BAREXT / BARANT
チャンネルカウンターのサーチ幅の設定	17 [CH ONT]	±5 MHz / ±10 MHz / ±50 MHz / ±100 MHz
クロックソフトの設定	18 [CLK.SFT]	ON / OFF
FMラジオのアンテナ選択	2 [ANT FM]	EXTANT / EARPHO
CW学習機能	20 [CWL.RNG]	—
QWTレーンク機能	22 [CWTRNG]	—
アンテナのON/OFF	3 [ANT.ATT]	ON / OFF
セットモードの非表示/表示	33 [EXT.MNU]	ON / OFF
送信変調レベルの設定	35 [HLF.DEV]	ON / OFF
白色LEDによる簡易ライトのON/OFF	45 [LED.LT]	—
マイク入力レベルを調整	48 [VOGAN]	LVL 1 ~ LVL 9 (LVL 5)
電源オンタイマー機能の設定	58 [ON TMR]	OFF / 00H.10M (00:10) ~ 24H.00M (24:00) (10分ステップ)
バースト機能の“ON/OFF”	66 [PSWD]	ON / OFF
受信モードの切り替え	70 [RX MD]	AUTO / NFM / AM / WFM
スマートサーチの動作切り替え	71 [S SRCH]	SINGLE / CONT
イヤホンアンテナ使用時のスピーカ音声出力設定	77 [SP OUT]	AUTO / SPKR
ピーチチャンネルロックソフトの選択	8 [BLO]	ON / OFF
Sメータースケール (Fスケール) のレベル設定	80 [SOS.MTR]	OFF / LVL 1 ~ LVL 8
チャンネルステップの設定	82 [STEP]	AUTO / 5 / 8.33 / 9 / 10 / 12.5 / 15 / 20 / 25 / 50 / 100 kHz
FMラジオの受信モードの切り替え	83 [STEREO]	STEREO / MONO
ラジオ放送同時受信の設定	84 [SUB-RX]	OFF / TRX 1S ~ TRX 10S (1S ステップ) / HOLD / TX 1S ~ TX 10S (1S ステップ)
タイムアウトタイマーの設定	87 [TOT]	OFF / 0.5M ~ 10.0M (0.5M ステップ)
VFOモード時の周波数選択範囲の設定	90 [VFO MD]	ALL / BAND
必要としないVFOの非表示設定	91 [VFO SKP]	ON / OFF

必要に応じて使う機能

セットモードの動作一覧表

1. **[TX/PO]**を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. **DIAL**ツマミをまわして設定したいセットモードを選択します。
3. **[TX/PO]**を短く押します。
4. **DIAL**ツマミをまわして設定する項目を選択します。
5. **[TX/PO]**を1秒以上押してセットモードを終了します。



セットモードリセット

セットモードの設定だけを、工場出荷時の状態に戻すことができます。
ただし、次項目はオールリセット (p. 15) をしない限り、リセットされません。

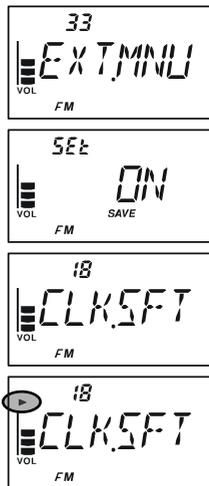
11 BNK.NAM	18 CLK.SFT	19 CW ID	24 DCS CD	25 DCS RV	28 DT SEL
32 EMG.SEL	35 HLF.DEV	38 INT CD	41 INT.SEL	49 MR DSP	51 MRFSTP
52 MR.NAM	54 MRSKIP	57 MSG.SEL	61 PAG.CDR	62 PAG.CDT	68 RPT
69 RPT.SFT	79 SQ TYP	86 TN FRQ			

1. **[BAND]** **[V/M]**の2つのキーを押しながら **[ON]**を押して電源をオンにします。
「ピッポッパッ」とビープ音が鳴ると同時に、キーから指を放してください。
2. “SET MODE RESET PUSH F KEY”が表示されたら、**[B/W]**を押します。
「ピッポッパッ」とビープ音が鳴ります。
[B/W]以外のキーを押せば、リセットを中止することができます。

■セットモードの非表示設定

使用しないセットモードを非表示にすることができます。

1. **[TX/PO]**を1秒以上押します。
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. **DIAL**ツマミを上引張り**DIAL**ロックを外します。
3. **DIAL**ツマミをまわして『33 EXT.MNU』を選択します。
4. **[TX/PO]**を短く押します。
5. **DIAL**ツマミをまわして「ON」に設定します。
6. **[TX/PO]**を短く押します。
7. **DIAL**ツマミをまわして非表示にしたいセットモードを選択します。
8. **[B/W]**を押します。
ディスプレイの左上に▶アイコンが点灯します。
もう一度**[B/W]**を押すと解除されます。
例として『18 CLK.SFT』を非表示にした場合(右図参照)。
9. 複数セットモードを非表示にしたい場合は手順7, 8を繰り返し、非表示にしたいセットモードを選択します。
10. **[TX/PO]**を1秒以上押してセットモードを終了します。



- 非表示にしたセットモードを一時的に表示する場合は、上記を参考に、手順4を「OFF」にします、非表示に戻したい場合は、「ON」にします。
- 非表示に設定後、完全表示に戻したい場合は、上記を参考に、手順4を「OFF」にして、手順7で非表示にしたセットモードを選択してから**[B/W]**を押すと、ディスプレイの左上の▶アイコンが点灯され、非表示は解除されます。

セットモードの動作一覧表(つづき)

1 ANT.AM

AMラジオのアンテナ選択

設定項目: BAREXT/BARANT

工場出荷時: BAREXT

解説:

BAREXT: 上面のアンテナ端子に取り付けてあるホイップアンテナと内蔵パーアンテナに切り替わり、AM放送のバンドを受信します。

BARANT: AM放送のバンドを受信すると、自動的に内蔵のパーアンテナに切り替わります。一番よく受信できる方向にVX-3を向けてください。

2 ANT.FM

FMラジオのアンテナ選択

設定項目: EXTANT/EARPHO

工場出荷時: EXTANT

解説:

EXTANT: 上面のアンテナ端子に取り付けてあるホイップアンテナに切り替わり、FM放送のバンドを受信します。

EARPHO: FM放送のバンドを受信すると、自動的にイヤホンコードアンテナに切り替わります。イヤホン端子からイヤホンを外すと、上面のアンテナ端子に取り付けてあるホイップアンテナに切り替わります。イヤホンのコードはできるだけ伸ばした状態で受信してください。弱い信号を受信したときに、ノイズが入ることがあります。

3 ANT.ATT

アッテネーターのON/OFF

設定項目: ON/OFF

工場出荷時: OFF

解説:

アッテネーター (減衰量: 10dB) をON/OFFします。メモリーチャンネルへ個別に登録することができます。

4 APO

APO動作時間の設定

設定項目: OFF/0.5H~12H(0.5Hステップ)

工場出荷時: OFF

解説: APO(一定時間操作しないと自動的に電源をOFFにする)時間を設定します。APO時間が設定されているときには“**O**”が表示されます。

5 ARS

ARS機能のON/OFF

設定項目: ON/OFF

工場出荷時: ON

解説: ARS(レピータの周波数に合わせるだけで自動的にレピータを使う状態になる)機能の動作をON/OFFすることができます。

6 ARTSBP

ARTS着信時のピープ音設定

設定項目: IN RANG/ALWAYS/OFF

工場出荷時: IN RANG

解説:

IN RANG: はじめて交信可能範囲内にいることが確認されたときおよび、はじめて交信可能範囲外になったときだけ、ピープ音を鳴らします。

ALWAYS: はじめて交信可能範囲内にいることが確認されたときおよび、はじめて交信可能範囲外になったときに、ピープ音を鳴らします。さらに、ARTS信号を受信したときにも、ピープ音が鳴ります。

OFF: ARTSのピープ音をOFFにします。

7 ARTSIT

ARTS動作時のチェック間隔の設定

設定項目: 25SEC/15SEC

工場出荷時: 25SEC

解説: ARTS動作時のチェック間隔を設定します。

8 BCLO

ビジーチャンネルロックアウトの選択

設定項目: ON/OFF

工場出荷時: OFF

解説: ビジーチャンネルロックアウト (BCLO: すでに使われている周波数での送信禁止) をON/OFFすることができます。

9 BELRNG

ベル呼び出し音回数の設定

設定項目: 1T~20T/CONT(連続)

工場出荷時: 1T

解説: ベル機能の呼び出し音の回数を設定します。

セットモードの動作一覧表(つづき)

10 BEL_SEL

ベル機能の出力設定

設定項目:OFF/BELL/USRBP1~3

工場出荷時:OFF

解説:ベル機能の呼び出し音の出力を設定します。ベル機能が設定されているときには“”が表示されます。

メモリーチャンネルへ個別に登録することができます。

OFF: ベル機能をOFFにすることができます。

BELL: ベル機能をONにすることができます。

USRBP1~3: 『15 BP_USR』で作成して登録した好みのベル音を選択することができます。

11 BNK_NAM

メモリーバンクに名前を付ける

解説:メモリーバンクに最大6桁の名前を付けることができます。名前の付けかたは、29ページを参照してください。

12 BP_EDG

バンドエッジまたはCH1通過時の確認音

設定項目:ON/OFF

工場出荷時:OFF

解説:DIALつまみでの周波数選択時およびメモリースキャン時に、バンドエッジやメモリーチャンネル1を通過したときのピーブ音をON/OFFすることができます。

13 BP_LVL

ピーブ音の音量設定

設定項目:LVL1~LVL9

工場出荷時:LVL5

解説:キー操作時などに鳴るピーブ音の音量を設定します。

14 BP_SEL

ピーブ音の出力設定

設定項目:OFF/KY+SCN/KEY

工場出荷時:KY+SCN

解説:

OFF: ピーブ音をOFFにすることができます。

KY+SCN: キー操作時やスキャン停止時にピーブ音を鳴らします。

KEY: キー操作時にピーブ音を鳴らします。

15 BP_USR

ベル音の作成と登録

設定項目:BP1~BP3

工場出荷時:BP1

解説:トーンスケルチ、DCS、新ページ機能を使用して待ち受け時に好みのベル音で呼び出されたことを確認することができます。好みのベル音を作成して3種類登録することができます。

作成したピーブ音をセットモードの『10 BEL_SEL』で「USRBP1~3」を選択すると、好みのベル音で鳴らすことができます。

ピーブ音の作成方法は、72ページを参照してください。

16 BSY_LED

BUSY LEDのON/OFF

設定項目:ON / OFF

工場出荷時:ON

解説:受信時に点灯するBUSYインジケータ(BUSY LED)をOFFにすることができます。

17 CH_CNT

チャンネルカウンターのサーチ幅の設定

設定項目:±5MHz/±10MHz/±50MHz/±100MHz

工場出荷時:±5MHz

解説:チャンネルカウンターのサーチ幅を選択します。

18 CLK_SFT

クロックシフトの設定

設定項目:ON / OFF

工場出荷時:OFF

解説:マイコンのクロックを高調波による内部スプリアスとして受信された時は“ON”にします。

通常は“OFF”で使用してください。

メモリーチャンネルへ個別に登録することができます。

19 CW_ID

CW ID送のON/OFFおよびID書き込みの設定

設定項目:ON / OFF

工場出荷時:OFF

解説:ARTS機能、エマージェンシー機能、EAI機能を使用しているときに動作する、CWによるID送を設定します。CMDは最大16文字まで送出することができます。

CW IDの設定方法は66ページを参照してください。

CWでIDを送出するためには、第三級アマチュア無線技士以上の資格とF2Aの電波型式の免許が必要です。

セットモードの動作一覧表(つづき)

20 CWLRNG

CW学習機能

解説: CW学習機能の設定を行います。
モ尔斯符号を一文字づつ5回繰り返してスピーカで鳴らし、その音に合わせてTX/BUSYインジケータが点滅しさらに、そのモ尔斯符号をディスプレイに表示させることができます。モ尔斯符号は英文や数字だけでなく和文も対応しています。CW学習機能については86ページを参照してください。

21 CWPTCH

CWピッチ周波数の設定

設定項目: 400Hz~1000Hz

工場出荷時: 700Hz

解説: CW学習機能やCWトレーニング機能で聴こえるモ尔斯符号の音を好みの音(サイドトーン)に変えることができます。

22 CWTRNG

CWトレーニング機能

解説: CWトレーニング機能の設定を行います。
ランダムなモ尔斯符号をスピーカで鳴らし、その音に合わせてTX/BUSYインジケータが点滅しさらに、そのモ尔斯符号をディスプレイに表示させることができます。モ尔斯符号は英文や数字だけでなく和文も対応しています。CWトレーニング機能については87ページを参照してください。

23 DC VLT

電源電圧表示

解説: ディスプレイに電源電圧を表示します。

24 DCS CD

DCSコードの設定

設定項目: DCS.023~DCS.754 (104種類)

工場出荷時: DCS.023

解説: 104種類のコードから選択することができます。メモリーチャンネルへ個別に登録することができます。

選択できるDCSコード												
023	054	125	165	245	274	356	445	506	627	732		
025	065	131	172	246	306	364	446	516	631	734		
026	071	132	174	251	311	365	452	523	632	743		
031	072	134	205	252	315	371	454	526	654	754		
032	073	143	212	255	325	411	455	532	662	-		
036	074	145	223	261	331	412	462	546	664	-		
043	114	152	225	263	332	413	464	565	703	-		
047	115	155	226	265	343	423	465	606	712	-		
051	116	156	243	266	346	431	466	612	723	-		
053	122	162	244	271	351	432	503	624	731	-		

25 DCS RV

DCS反転コードの送受信組み合わせ設定

設定項目: R-N-T-N/R-I-T-N/R-B-T-N/R-N-T-I/
R-I-T-I/R-B-T-I

工場出荷時: R-N-T-N

解説: 位相反転したDCSコードを受信したり送信することができます。

メモリーチャンネルへ個別に登録することができます。

R-N-T-N: 位相反転したDCSコードは受信しません。
位相反転したDCSコードは送信しません。

R-I-T-N: 位相反転したDCSコードのみ受信します。
位相反転したDCSコードは送信しません。

R-B-T-N: 位相反転したDCSコードと位相反転して
いないDCSコードを受信します。

R-N-T-I: 位相反転したDCSコードは受信しません。
位相反転したDCSコードを送信します。

R-I-T-I: 位相反転したDCSコードを受信します。
位相反転したDCSコードを送信します。

R-B-T-I: 位相反転したDCSコードと位相反転して
いないDCSコードを受信します。

位相反転したDCSコードを送信します。

26 DT A/M

DTMFメモリーの送出設定

設定項目: MANUAL/AUTO

工場出荷時: MANUAL

解説:

MANUAL: マニュアルでDTMFを送出します。
送出方法は65ページを参照してください。

AUTO: セットモードの『26 DT SEL』により、
DTMFメモリー(9チャンネル)に登録しておき、オートでDTMFを送出します。
送出方法は65ページを参照してください。

27 DT DLY

DTMF送出ディレイ時間の設定

設定項目: 50ms/250ms/450ms/750ms/1000ms

工場出荷時: 450ms

解説: キーを押してから実際にDTMFを送出する時間(ディレイタイム)を設定することができます。

必要に応じて使う機能

セットモードの動作一覧表(つづき)

28 DT SEL

DTMFオートダイアラーのチャンネル、
コード(16桁)の設定

設定項目: CH0~CH9

工場出荷時: CH1

解説: DTMFコード(16桁以内)をDTMFメモリー
CH0~CH9に登録します。

登録方法は64ページを参照してください。

29 DT SPD

DTMF送出時間の設定

設定項目: 50ms/100ms

工場出荷時: 50ms

解説: DTMF信号を送出する時間(速度)を設定する
ことができます。

30 EAI

EAI機能の“ON/OFF”

設定項目: ON/OFF

工場出荷時: OFF

解説: EAI 機能をON/OFFすることができます。

31 EAI.TMR

EAI機能の間欠送信時間設定

設定項目: INT.1M~INT.10M/INT.15M/INT.20M/
INT.30M/INT.40M/INT.50M

工場出荷時: INT.5M(5分間隔)

解説: EAI 機能の間欠送信時間を設定します。

32 EMG.SEL

エマージェンシーモードの設定

設定項目: BEEP/STROBE/BP+STR/BEAM
/BP+BEAM/CW/BP+CW/CWT

工場出荷時: BP+STR

解説: エマージェンシー機能動作時の、ピープ音と
ストロボ動作の設定を替えることができます。

“CW”または“BP+CW”を選択すると「SOS」を点滅
しますが、このCWのメッセージ内容を変更する
ことができます。メッセージ内容の変更方法は下記を
参照してください。

BEEP: ピープ音のみ鳴らします。

STROBE: BUSY/TXインジケーターが白色でス
トロボ発光します。

BP+STR: ピープを鳴らしながら、BUSY/TXイン
ジケーターが白色でストロボ発光し
ます。

BEAM: BUSY/TXインジケーターが白色で点
灯します。

BP+BEAM: ピープを鳴らしながら、BUSY/TXイン
ジケーターが白色で点灯します。

CW: BUSY/TXインジケーターが白色で
「SOS」と点滅します。

BP+CW: ピープ音が「SOS」と鳴り、さらに音に
合わせてBUSY/TXインジケーターが
白色で点滅します。

CWT: 1分毎にCWMIDを送信し、同時にBUSY/
TXインジケーターが白色で点滅し
ます。

CWMIDの登録方法は66ページを参照し
てください。

CWメッセージ内容の変更方法

1. **[TXPO]**を1秒以上押します。
2. セットモードの『32 EMG.SEL』を選択します。
3. **[TXPO]**を押します。
4. DIALツマミをまわして「CW」または「BP+CW」
を選択します。
5. **[V/M]**を押します。
6. DIALツマミをまわしてメッセージの文字を選
択します。
7. **[V/M]**を押してカーソルを移動します。
8. 手順5, 6を繰り返してメッセージを入力します
(最大16文字)。
9. **[TXPO]**を1秒以上押します。
メッセージ内容がメモリーされ、もとの表示に
戻ります。

文字一覧表は、66ページの「CW ID機能」を参照して
ください。

33 EXT.MNU

セットモードの非表示/表示

設定項目: ON/OFF

工場出荷時: OFF

解説:

OFF: 全てのセットモードを表示します。

ON: 非表示にしたいセットモードを非表示にし
ます。

セットモードの非表示設定方法

1. **[TXPO]**を1秒以上押します。
2. セットモードの『33 EXT.MNU』を選択します。
3. **[TXPO]**を押します。
4. DIALツマミをまわして「ON」に設定します。
5. **[TXPO]**を押します。
6. DIALツマミをまわして非表示にしたいセット
モードを選択します。
7. **[BW]**を押します。
ディスプレイの左上に▶アイコンが点灯し
ます。
もう一度**[BW]**を押すと解除されます。
8. 複数セットモードを非表示にしたい場合は、手
順3, 4を繰り返して非表示にしたいセットモード
を選択します。
9. **[TXPO]**を1秒以上押します。
非表示にしたいセットモードが設定され、も
との表示に戻ります。

セットモードの動作一覧表(つづき)

- 非表示にしたセットモードを一時的に表示する場合は、手順4を「OFF」にします。非表示に戻したい場合は、「ON」にします。
- 非表示に設定後、全て表示に戻したい場合は、手順4を「OFF」にして、手順7. で非表示にしたセットモードを選択してから [Qw] を押すと、ディスプレイの左上の▶アイコンが消灯され、非表示は解除されます。

34 FW KEY

[Qw] の長押し時間の設定

選択できる項目:FW0.3S/FW0.5S/FW0.7S/
FW1.0S/FW1.5S

初期値:FW0.5S(0.5秒)

解説: [Qw] を長押しするスイッチの時間(押し続ける時間)を変更することができます。

セットモードに設定するときに [Qw] を約0.5秒間長押ししますが、この時間を0.5秒以外に0.3秒、0.7秒、1.0秒、1.5秒の中から好みの時間に変わることができます。

35 HLF.DEV

送信変調レベルの設定

設定項目:ON/OFF

工場出荷時:OFF

解説:送信変調度が通常の約半分になります。通常は“OFF”のままで使用してください。

メモリーチャンネルへ個別に登録することができます。

36 HM/RV

[HM/RV] ホームチャンネル(HM)キー/リバース(RV)

キーの変更設定

設定項目:HOME/REV

工場出荷時:HOME

解説:

HOME: ホームチャンネルの呼び出しとして動作します。

REV: リバース設定として動作します。

37 HM>VFO

ホームチャンネルのVFO転送の許可/禁止

設定項目:DISABL/ENABLE

工場出荷時:ENABLE

解説:

DISABL: ホームチャンネルからDIALツマミをまわしてもVFO転送はされません。

ENABLE: ホームチャンネルからDIALツマミをまわすとVFOに転送されます。

38 INT CD

インターネットモードで使用するDTMFコードの設定

設定項目:DTMF 0~9, A~F

工場出荷時:DTMF 1

解説:WiRESのSRG方式で使用するDTMFコードを指定します。インターネットモードの時にPTTを押すと、ここで指定したDTMFコードが送出されます。

39 INT MD

WiRES方式の設定

設定項目:SRG/FRG

工場出荷時:FRG

解説:

SRG: WiRESのSRG方式を使用するときに選択します。

FRG: WiRESのFRG方式を使用するときに選択します。

40 INT.A/M

WiRESのFRG方式によるDTMFメモリーの送出設定

設定項目:MANUAL/AUTO

工場出荷時:MANUAL

解説:

MANUAL: マニュアルでDTMFコードを送出します。送出方法は19ページを参照してください。

AUTO: セットモード『41 INT.SEL』にて、WiRES専用DTMFコードメモリー(全64チャンネル)にDTMFコード登録しておくことにより、オートでDTMFコードを送出することができます。送出方法は19ページを参照してください。

41 INT.SEL

WiRESのFRG方式で使用するコード設定

設定項目:F 0~F 63

工場出荷時:F 1

解説:インターネットモード時、送信開始時に出力されるコード(最大8桁)を設定することができます。また、各コードに最大6文字の名前を付けることができます。

コードの設定や名前の付け方は18ページを参照してください。

セットモードの動作一覧表(つづき)

42 INTKEY

の機能割付設定

設定項目:INTNET/INT MR/SET MD

工場出荷時:INTNET

解説:へWiRESインターネット機能以外の機能を割り付けることができます。

INTNET: WiRESインターネット機能として動作します。FRG方式やSRG方式のWiRES局をアクセスするときにあらかじめONにしておきます。ONにするとディスプレイ右上にアイコンが点灯します。を押しながらDIALツマミをまわすとアクセスコードを送出します。

INT MR: 上記の“INTNET”と同様、WiRESインターネット機能として動作します。アクセスコードの送出方法はを短く押してからDIALツマミをまわします。

SET MD: を押したときに、よく使うセットモードをショートカットキーとして割り付けることができます。

ショートカットの割り付け方は85ページを参照してください。

43 INTNET

WiRESのON/OFF

設定項目:ON/OFF

工場出荷時:OFF

解説:ONにするとWiRESアクセス機能として動作します。セットモード『42 INTKEY』の「INTNET」と同じ動作をします。『42 INTKEY』で「INTNET」以外の機能をへ割り付けたいときに、このセットモードでWiRESアクセス機能をON/OFFすることができます。

ONにするとディスプレイ右上にアイコンが点灯します。

なお、メモリーチャンネルへ個別に登録することができます。

44 LAMP

バックライト、キーの照明時間設定

設定項目:KEY2S~KEY10S/CONT/OFF

工場出荷時:KEY5S

解説:ディスプレイのバックライトとキーパッドの照明時間を設定します。

KEY2S~KEY10S: ディスプレイのバックライトとキーパッドの照明時間を2秒~10秒の間で1秒間隔に選択することができます。

CONT: ディスプレイのバックライトとキーパッドの照明を常時点灯します。

OFF: ディスプレイのバックライトとキーパッドの照明を消灯します。

45 LED LT

白色LEDによる簡易ライトのON/OFF

設定項目:ON/OFF

工場出荷時:OFF

解説:ONにするとBUSY/TXインジケーターのLEDが白色に光り、簡易ライトとして動作します。

セットモード『42 INTKEY』を「SET MD」に設定し、『45 LED LT』をショートカットの割り付けておくと簡単に簡易ライトを呼び出すことができます。

46 LOCK

ロックモードの設定

設定項目:KEY/PTT/KY+PTT

工場出荷時:KEY

解説:ロックする対象を設定します。

KEY: 前面の各キーをロックします。ただしとはロックの対象外です。またを押した後を0.5秒以上長押しして、ロックしたりロックを解除する操作も対象外です。

PTT: PTTスイッチをロックします。

KY+PTT: 前面の各キーとPTTスイッチをロックします。

47 M/T-CL

モニタースイッチ/T-CALLスイッチ変更設定

設定項目:MONI/T-CALL

工場出荷時:MONI

解説:

MONI: モニターとして動作します。

T-CALL: トーンコールとして動作します。

48 MCGAIN

マイク入力レベルを調整

設定項目:LVL 1~LVL 9

工場出荷時:LVL 5

解説:マイクの感度を設定することができます。数字が大きくなるほど、高感度になります。

49 MR DSP

メモリーチャンネルの周波数/タグ表示切り替え

設定項目:FREQ/ALPHA

工場出荷時:FREQ

解説:メモリーチャンネルの周波数表示またはタグ表示の切り替えを行うことができます。

FREQ: メモリーチャンネルの周波数を表示します。

ALPHA: メモリーチャンネルにつけた名前を表示します。

セットモードの動作一覧表(つづき)

50 MR.WMD

メモリー書き込み時のオートインクリメント設定

設定項目: NEXT/LOWER

工場出荷時: NEXT

解説:

NEXT: 以前書き込んだメモリー番号の次の番号を表示します。メモリーチャンネルを最小チャンネルから順番にメモリーしてないときや、メモリーバンクを利用してメモリーしてある場合に便利です。

LOWER: メモリーを最小チャンネルから順番に書き込んだとき、未書き込みの最小チャンネルを表示します。

51 MRFSTP

メモリー呼び出し時のメモリーチャンネルステップ設定

設定項目: 10CH/20CH/50CH/100CH

工場出荷時: 10CH

解説: **[Fw]** (ファンクション) を押してDIALツマミをまわすと指定したチャンネルステップ(工場出荷時では10CHステップ)でメモリーを呼び出すことができます。メモリー数が多いときに使用すると大変便利な機能です。

52 MRNAME

メモリータグの書き込み

解説: メモリーチャンネルに最大6桁の名前(メモリータグ)をつけることができます。

名前のつけかたは、26ページを参照してください。

53 MRPTCT

メモリー書き込み許可/禁止

設定項目: ON/OFF

工場出荷時: OFF

解説: ONにするとメモリー書き込みを禁止します。ご操作でメモリー書き込みや、上書きを防止することができます。

54 MRSKIP

スキップメモリー/指定メモリーの設定

設定項目: OFF/SKIP/ONLY

工場出荷時: OFF

解説: スキップメモリーまたは指定メモリーの設定を行います。メモリーチャンネルへ個別に登録することができます。

OFF: スキップメモリーまたは指定メモリーをOFFにします。

SKIP: メモリースキャン時にスキャンする必要のないメモリーチャンネルを指定します。

ONLY: 指定のメモリーチャンネルだけをスキャンしたいときに指定します。

55 MSG.LST

メッセージ機能で使用するIDリストの設定

設定項目: LST1~LST20

工場出荷時: LST1

解説: あらかじめメッセージ機能を使用する場合は、メッセージ交換をするメンバーのIDを登録する必要があります。メンバーのIDは自分を含めて最大20人で最大8文字登録することができます。

56 MSG.REG

時局IDの選択

設定項目: LST1~LST20

工場出荷時: LST1

解説: メッセージを送る際に、相手局に自分のIDを表示させるための設定を行います。

最初に、セットモードの『55 MSG.LST』で自分を含めてメンバーIDを登録してから行ってください。

57 MSG.SEL

メッセージの登録と選択

設定項目: MSG1~MSG20

工場出荷時: MSG1

解説: メッセージの登録と、相手局に送るメッセージの選択をすることができます。メッセージは最大16文字で最大20種類の登録/選択をすることができます。

メッセージの登録方法は下記を参照してください。

メッセージの登録方法

1. **[TXPQ]** を0.5秒以上押します。
2. セットモードの『57 MSG.SEL』を選択します。
3. **[TXPQ]** を押します。
4. DIALツマミをまわして「MSG1」～「MSG20」のいずれかを選択します。
5. **[VM]** を押します。
6. DIALツマミをまわしてメッセージの文字を選択します。
7. **[VM]** を押してカーソルを移動します。
8. 手順5, 6を繰り返しメッセージを入力します(最大16文字)。
9. **[TXPQ]** を0.5秒以上押します。
メッセージ内容がメモリーされ、もとの表示に戻ります。

文字一覧表は、27ページの「メモリータグを使う」を参照してください。

セットモードの動作一覧表(つづき)

58 ON TMR

電源オンタイマー機能の設定

設定項目: OFF/00H:10M(10分)~24H:00M(24時)

工場出荷時: OFF

解説: 電源をオフにすると、指定した時間からカウントダウンを行い、経過時間をディスプレイに表示して、“00H:00M”になったとき自動的に電源を“オン”にすることができます。

経過時間 (秒を表示)



経過時間 (時, 分を表示)

59 OPN.MSG

オープニングメッセージの設定

設定項目: OFF/DC/MSG

工場出荷時: DC

解説: 電源を入れたときに約3秒間ディスプレイに電源電圧やメッセージを表示します。

OFF: 電源電圧またはメッセージの表示をOFFにします。

DC: 電源電圧を表示します。

MSG: 6桁のメッセージを表示することができます。メッセージの登録は下記の方法で行なってください。

メッセージの登録方法

1. [TX PD]を0.5秒以上押します。
2. セットモードの『59 OPN.MSG』を選択します。
3. [TX PD]を押します。
4. DIALツマミをまわして「MSG」を選択します。
5. [VM]を押します。
6. DIALツマミをまわしてメッセージの文字を選択します。
7. [VM]を押してカーソルを移動します。
8. 手順5, 6を繰り返しメッセージを入力します(最大6文字)。
9. [TX PD]を0.5秒以上押します。
メッセージ内容が登録され、もとの表示に戻ります。

文字一覧表は、27ページの「メモリータグを使う」を参照してください。

60 PAG.ABK

ページャーアンサーバック機能の“ON/OFF”

設定項目: OFF/ON

工場出荷時: OFF

解説: 新ページャー機能動作時、呼び出しを受けたときに、自動的に約2.5秒間送信することができます。

61 PAG.CDR

個別コード(受信用)の設定

設定項目: 01~50

工場出荷時: 05 47

解説: 新ページャー機能やEAI機能を使用する際の個別コードを設定します。

62 PAG.CDT

個別コード(送信用)の設定

設定項目: 01~50

工場出荷時: 05 47

解説: 新ページャー機能やEAI機能を使用する際、呼び出したい相手局の個別コードを設定します。

63 PR FRQ

空線スケルチの設定

設定項目: 300Hz~3000Hz

工場出荷時: 1600Hz

解説: 空線信号の周波数を100ヘルズステップで300Hz~3000Hzまで設定することができます。

メモリーチャンネルへ個別に登録することができます。

周波数の設定方法は33ページを参照してください。

64 PRI.RVT

プライオリティ・リバートの設定

設定項目: OFF/ON

工場出荷時: OFF

解説:

OFF: プライオリティリバートの機能がOFFになります。

ON: デュアルレシーブ時にPTTスイッチを押すと、瞬時にプライオリティチャンネルに切り替わりプライオリティチャンネルで送信します。

65 PRI.TMR

プライオリティチャンネル監視間隔時間の設定

設定項目: 100MS~1.0S(100ms単位)/

1.0S~10.0S(500ms単位)

工場出荷時: 5.0S

解説: プライオリティチャンネルの監視間隔時間を設定することができます。

セットモードの動作一覧表(つづき)

66 PSWD

パスワード機能の“ON/OFF”

設定項目: ON/OFF

工場出荷時: OFF

解説: 正しいパスワードを入力しないと、電源をオンにすることができない“パスワード機能”をON/OFFします。

詳細は、77ページを参照してください。

67 PTT.DLY

PTTディレイタイムの設定

設定項目: OFF/20MS/50MS/100MS/200MS

工場出荷時: OFF

解説: PTTスイッチを押してから、実際に電波が送信されるまでの時間を設定します。

68 RPT

レピータシフト方向の設定

設定項目: SIMP/-RPT/+RPT

工場出荷時: -RPT

(439.000~439.980MHz: ARSがON時)

解説: レピータのシフト方向を設定します。

メモリーチャンネルへ個別に登録することができます。

-RPT: マイナス方向

+RPT: プラス方向

SIMP: シフトなし

69 RPT.SFT

レピータシフト幅の設定

設定項目: 0~150MHz

工場出荷時: 5MHz(430MHz帯)

解説: レピータシフト幅を設定します。430MHz帯以外の周波数帯は0MHzに設定してあります。

メモリーチャンネルへ個別に登録することができます。

70 RX MD

受信モードの切り替え

設定項目: AUTO/NFM/AM/WFM

工場出荷時: AUTO

解説: モード(電波型式)を変更することができません。AUTOに設定しておくことで自動的に周波数帯に適したモードに切り替わります(下記参照)。メモリーチャンネルへ個別に登録することができません。周波数帯は、下限を含み上限を含まず。

周波数帯	モード	周波数帯	モード
0.5~1.8MHz	AM	161.5~162.9MHz	FM
1.8~29MHz	AM	162.9~174MHz	FM
29~30MHz	FM	174~222MHz	WFM
30~35.53MHz	FM	222~250.4MHz	AM
35.53~51MHz	AM	250.4~253MHz	FM
51~54MHz	FM	276~300MHz	FM
54~76MHz	FM	300~336MHz	AM
76~90MHz	WFM	336~420MHz	FM
90~108MHz	WFM	420~430MHz	FM
108~137MHz	AM	430~440MHz	FM
137~142MHz	FM	440~459.5MHz	FM
142~148MHz	FM	459.5~464.8MHz	WFM
148~156MHz	FM	464.8~470MHz	FM
156~157.45MHz	FM	470~770MHz	WFM
157.45~160.6MHz	FM	770~915MHz	FM
160.6~160.975MHz	FM	961~999MHz	WFM
160.975~161.5MHz	FM	-	-

71 S SRCH

スマートサーチの動作切り替え

設定項目: SINGLE/CONT (連続)

工場出荷時: SINGLE

解説:

SINGLE: 1回だけサーチします。

CONT: スマートメモリーがいっぱいになると、繰り返しサーチします。

72 SAVERX

受信セーブ時間の設定

設定項目: 200MS~1.0MS(100ms単位)/

1.0S~10.0S(500ms単位)/OFF

工場出荷時: 200ms

解説: 受信セーブがオンのときは、“SAVE”が点滅します(信号受信中は点灯)。

200ms (1:1): 200ms受信して200msセーブ

1s (1:5): 200ms受信して1sセーブ

10.0s (1:50): 200ms受信して10sセーブ

OFF: 受信セーブしません(連続受信)。

セットモードの動作一覧表(つづき)

73 SAVETX

送信セーブ設定

設定項目: ON/OFF

工場出荷時: OFF

解説: 送信セーブ機能をONにすると、相手局の信号強度がフルスケールの場合、送信出力がハイパワーのときにはLOWに下がります。

74 SCN.LMP

スキャンストップ時のランプ点灯

設定項目: ON/OFF

工場出荷時: ON

解説: スキャンストップ時の照明の点灯をON/OFFすることができます。

75 SCN.RSM

スキャンストップモードの設定

設定項目: 2.0S(2秒)~10.0S(10秒)/BUSY/HOLD

工場出荷時: 5.0S

解説:

2.0S(2秒)~10.0S(10秒):

設定した時間を受信した後に、スキャンを再開します。

例えば、5秒に設定した場合は、5秒受信した後、スキャンを再開します。

BUSY: 信号がなくなるまで受信し、信号がなくなるとスキャンを再開します。

HOLD: スキャンを中止して、その周波数を受信し続けます。

76 SCN.STR

スキャン再開開始時間の設定

設定項目: 100MS~1.0S(100ms単位)/

1.0S~10.0S(500ms単位)

工場出荷時: 2.0S

解説: スキャンがストップ中に信号が無くなってからスキャンを再度開始するときのスタート時間を設定します。

77 SP OUT

イヤホンアンテナ使用時のスピーカ音声出力設定

設定項目: AUTO/SPKR

工場出荷時: AUTO

解説: イヤホンアンテナ使用時のスピーカ音声出力を設定します。イヤホンアンテナの切り替えは、メニューモードの『2 ANT.FM』を参照してください。AUTO: イヤホンアンテナ使用時に、イヤホンから音声を出し、スピーカからは出力されません。

SPKR: イヤホンアンテナ使用時に、イヤホンから音は出ず、スピーカのみ音声を出します。

78 SQ LVL

FM/AM/RADIO(AM,WIDE FM)の

スケルチレベル設定

設定項目: FM/AM:LVL 0~LVL 15

RADIO(AM,WIDE FM): LVL 0~LVL 8

工場出荷時: FM/AM:LVL 1

WIDE FM, RADIO(AM,WIDE FM): LVL 2

解説: 受信しているモードのスケルチレベルを設定します。数字が大きくなるほどスケルチが深くなります。

79 SQ TYP

スケルチタイプの設定

設定項目: OFF/TONE/T SQL/DCS/RV TN/

JR FRQ/PR FRQ/PAGER/MESSAGE

工場出荷時: OFF

解説: 各スケルチタイプを設定します。

[RADIO]を押してラジオ放送を受信中に設定することはできません。

メモリーチャンネルへ個別に登録することができます。

OFF: トーン送出, スケルチともにOFFにします。

TONE: トーン送出のみを行います (“**T**”が点灯)。

T SQL: トーンスケルチをONにします (“**T SQ**”が点灯)。こちらで設定している周波数のトーンが含まれた信号を受信したときのみスケルチが開きます。

DCS: デジタルコードスケルチをONにします (“**DCS**”が点灯)。こちらで設定しているDCSコードが含まれた信号を受信したときのみスケルチが開きます。

RV TN: リバーストーン動作をONにします (“**T SQ**”が点滅)。通話がないときにトーン信号が含まれ、通話を始めるとトーン信号が消えるスケルチ制御方式の通信を受信するときに使用します。

JR FRQ: 2280Hzの空線信号を含んだJR鉄道無線を受信するときはONにします。

PR FRQ: 鉄道無線や空線信号の含んだ周波数を受信するときに設定します。空線信号の設定はセットモードの『63 PR FRQ』で行ってください。

PAGER: ページ機能を使用するときに選択します。

MESSAGE: メッセージ機能を使用するときに選択します。

セットモードの動作一覧表(つづき)

80 SQSMTR

Sメータースケルチ(RFスケルチ)のレベル設定

設定項目: OFF/LVL 1 ~LVL 8

工場出荷時: OFF

解説: 設定値以上の信号を受信した場合のみ、音声を出力することができます。

メモリーチャンネルへ個別に登録することができます。

OFF: Sメータースケルチ機能が“OFF”になります。

LVL 1: Sメーターが“1”以上の信号の音声を出力します。

LVL 2: Sメーターが“2”以上の信号の音声を出力します。

LVL 3: Sメーターが“3”以上の信号の音声を出力します。

LVL 4: Sメーターが“4”以上の信号の音声を出力します。

LVL 5: Sメーターが“5”以上の信号の音声を出力します。

LVL 6: Sメーターが“6”以上の信号の音声を出力します。

LVL 7: Sメーターが“7”以上の信号の音声を出力します。

LVL 8: Sメーターが“8”以上の信号の音声を出力します。

81 SQSPLT

送受信で別々のスケルチタイプの設定

設定項目: OFF/ON

工場出荷時: OFF

解説: 送信と受信で別々のスケルチタイプを設定することができます。ONに設定すると、セットモードの『79 SQ TYP』にD CODE/T DCS/D TONEの設定項目が追加されます。

D CODE: 送信時のみDCSコードを送出します (“DCS”が点滅)。

T DCS: 送信時にトーン信号を送出し、受信時にDCSコードで待ち受けをします (“T”が点滅 “DCS”が点灯)。

D TONE: 送信時にDCSコードを送出し、受信時にトーン信号で待ち受けをします (“T SQ”が点灯, “DCS”が点滅)。

82 STEP

チャンネルステップの設定

設定項目: AUTO/5.0K/(8.3K)/(9.0K)/10.0K/
12.5K/15.0K/20.0K/25.0K/
50.0K/100.0kHz

工場出荷時: AUTO

解説: ステップ幅(DIALツマミで周波数選択時に1クリックで変化する周波数とVFOスキャン時の周波数変化量)を設定します。工場出荷時の状態では周波数帯ごとに最適値が設定されていますので、通常はそのままでお使いいただけます。

0.5~1.8MHzは“9kHz”または“10kHz”のみ選択できます。また“9kHz”ステップは0.5~1.8MHzのみ選択できます。

“8.33kHz”のステップはAIRバンドのみ選択できます。

250MHz~300MHzと580MHz以上の周波数は、5kHzステップと15kHzステップの設定をすることができません。なお、工場出荷時の各周波数帯によるAUTOで設定されているステップ幅は、下表のようになります。

周波数帯は、下限を含み上限を含まず。

周波数帯	ステップ幅	周波数帯	ステップ幅
0.5~1.8MHz	9kHz	161.5~162.9MHz	25kHz
1.8~29MHz	5kHz	162.9~174MHz	10kHz
29~30MHz	10kHz	174~222MHz	50kHz
30~35.53MHz	10kHz	222~250.4MHz	100kHz
35.53~51MHz	5kHz	250.4~253MHz	12.5kHz
51~54MHz	20kHz	276~300MHz	12.5kHz
54~76MHz	5kHz	300~336MHz	100kHz
76~90MHz	100kHz	336~420MHz	12.5kHz
90~108MHz	50kHz	420~430MHz	12.5kHz
108~137MHz	25kHz	430~440MHz	20kHz
137~142MHz	10kHz	440~459.5MHz	12.5kHz
142~148MHz	20kHz	459.5~464.8MHz	25kHz
148~156MHz	10kHz	464.8~470MHz	12.5kHz
156~157.45MHz	25kHz	470~770MHz	50kHz
157.45~160.6MHz	10kHz	770~915MHz	12.5kHz
160.6~160.975MHz	25kHz	961~999MHz	100kHz
160.975~161.5MHz	5kHz	—	—

メモリーチャンネルへ個別に登録することができます。

83 STEREO

FMラジオの受信モード切り替え

設定項目: STEREO/MONO

工場出荷時: STEREO

解説: FMラジオをステレオ(STEREO)受信にするかあるいは、モノラル(MONO)受信にするか切り替えることができます。

通常はステレオ(STEREO)に設定してありますが、FM放送の電波が弱くステレオ受信が不可能な場合はモノラル受信に切り替えてください。

セットモードの動作一覧表(つづき)

84 SUB-RX

ラジオ放送同時受信の設定

設定項目:OFF/TRX 1S~TRX 10S/
HOLD/TX 1S~TX 10S

工場出荷時:OFF

解説:

OFF: "SUB-RX受信機能"がOFFになります。

TRX 1S(1秒)~TRX 10S(10秒):

"SUB-RX受信機能"でラジオ放送を受信中、サブで待ち受け受信を行い、"受信信号が無くなった後"あるいは"送信を終了後"にラジオ受信を再開する時間を設定します。例えば5秒に設定すると、受信(または送信)が終了してから5秒後にラジオ受信を再開します。

HOLD:

"SUB-RX受信機能"でラジオ放送を受信中、サブで待ち受け受信を行い、信号を受信するとその周波数を受信し続けます。

TX 1S(1秒)~TX 10S(10秒):

"SUB-RX受信機能"でラジオ放送を受信中、サブで待ち受け受信を行い相手と交信して送信が終了後、設定した時間にラジオ受信を再開します。例えば5秒に設定すると、送信が終了してから5秒後にラジオ受信を再開します。

85 TEMP

温度表示

解説:VX-3内部の温度を表示します。

温度上昇のない状況(待ち受け受信時など)では、外気温の目安とすることができます。

86 TN FRQ

トーン周波数の設定

設定項目:67~254.1Hz(50トーン)

工場出荷時:88.5Hz

解説:50トーンのトーン周波数から選択することができます。

メモリーチャンネルへ個別に登録することができます。

選択できるトーン周波数(Hz)									
67.0	82.5	100.0	123.0	151.4	171.3	189.9	210.7	250.3	
69.3	85.4	103.5	127.3	156.7	173.8	192.8	218.1	254.1	
71.9	88.5	107.2	131.8	159.8	177.3	196.6	225.7	-	
74.4	91.5	110.9	136.5	162.2	179.9	199.5	229.1	-	
77.0	94.8	114.8	141.3	165.5	183.5	203.5	233.6	-	
79.7	97.4	118.8	146.2	167.9	186.2	206.5	241.8	-	

87 TOT

タイムアウトタイマーの設定

設定項目:OFF/0.5M(30秒)~10M(10分)

工場出荷時:OFF

解説:タイムアウトタイマー(TOT:連続送信時間の制限)の時間を設定します。

88 TS MUT

トーンサーチ動作中の音声出力ミュートの設定

設定項目:ON/OFF

工場出荷時:ON

解説:

ON: トーン周波数が一致したときだけ音声を出させます。

OFF: トーンサーチ中は、トーン周波数に関係なく音声を出力させます。

89 TS SPD

トーンサーチ動作スピードの設定

設定項目:SLOW/FAST

工場出荷時:FAST

解説:トーン周波数をサーチするスピードを切り替えることができます。

FAST: トーン周波数のサーチ速度が速くなります。

SLOW: トーン周波数のサーチ速度が遅くなります。

90 VFO MD

VFOモード時の周波数選択範囲の設定

設定項目:ALL/BAND

工場出荷時:ALL

解説:VFOモード時の周波数選択範囲を設定します。

ALL: バンドエッジに達すると、次のバンドに切り替わります。

BAND: バンドエッジに達すると、現在のバンドの他端に移ります。

91 VFO.SKP

必要としないバンドの非表示設定

設定項目:OFF/ON

工場出荷時:OFF

解説:[BAND]を押したときに、必要としないバンドを非表示にすることができます。

設定方法は84ページを参照してください。

セットモードの動作一覧表(つづき)

92 VOL MD

VOLキーの設定

設定項目: NORMAL/AUT.BCK

工場出荷時: NORMAL

解説:

NORMAL:

 VOL を押しながら DIAL ツマミ をまわすと、音量を調節することができます。

AUT.BCK:

 VOL を押した後 DIAL ツマミ をまわすと、音量を調節することができます。調節後、約3秒間で自動的に音量を調節する前の状態に戻ります。

93 WAKEUP

ウェイクアップ機能時の信号確認時間の設定

設定項目: OFF/5SEC~60SEC/EAI

工場出荷時: OFF

解説: 自動的に信号の有無を確認する間隔(時間)を設定することができます。

OFF: ウェイクアップ機能の動作はオフになります。

5SEC~60SEC:

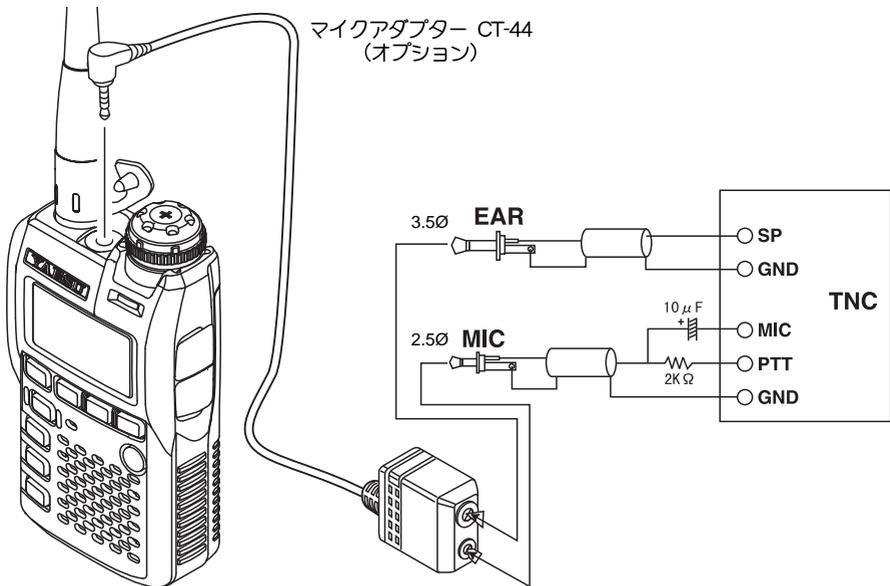
設定時間毎に信号の有無を確認します。例えば5SECに設定した場合は、5秒毎に信号の有無を確認します。

EAI: 5秒毎にEAI専用メモリーチャンネルの信号の有無を確認します。

パケット通信に使う

オプションのマイクアダプター(CT-44)を使用すると、お手持ちのTNC(ターミナルノードコントローラ)を接続してパケット通信を行うことができます。

MIC/SP端子に接続



接続後、VOLツマミをまわして、VX-3からTNCへの出力レベルを調節してください。

また、TNC側の出力レベル調節用ボリュームでTNCからVX-3への入力レベルを調節してください(VX-3側では入力レベルは調節できません)。

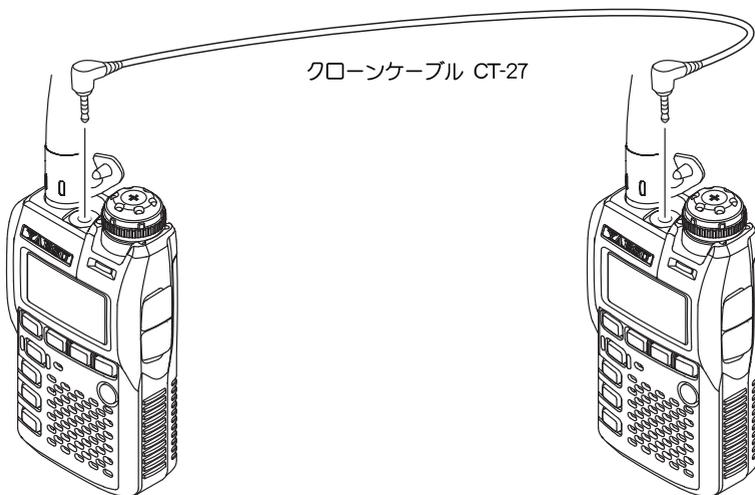
- 大量のデータを転送するときには送信時間が長くなり、本機の発熱が大きくなります。長時間送信し続けると、過熱防止回路が作動して送信出力が下がります。さらに送信を続けると、過熱による故障を防ぐために、送信が中止されて受信状態になります。過熱防止回路が作動して受信状態になったときには、電源をオフまたは受信状態のまま、温度が下がるまでお待ちください。
- パケット通信時には受信セーブ機能はオフに設定してください(セットモードの『72 SAVERX』)。
- パーソナルコンピューターで発生する雑音によって、受信が妨害される場合があります。正常に受信できない場合は、パーソナルコンピューターをVX-3から離し、フォトブラーやノイズフィルターを介して接続してください。
- TNCとパーソナルコンピューターの接続方法については、ご使用になるTNCの取扱説明書等をご覧ください。

クローン操作

メモリーされているデータや各種の設定などをもう1台のVX-3にコピーできます。

MIC/SP端子に接続

MIC/SP端子に接続

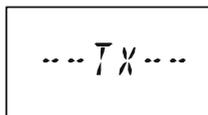


1. 2台のVX-3の電源をオフにし、オプションのクローンケーブルCT-27を使ってMIC/SP端子に接続します。
2. 2台のVX-3を、**[BAND]**を押しながら**[ON]**を押して電源をオンにします。クローンモードになります。

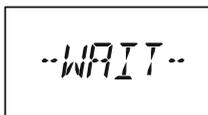


3. 受け側のVX-3の**[V/M]**を押し、続いて送り側のVX-3の**[BAND]**を押します。

データのコピーが始まると、受け側の表示が“..WAIT..”から“...TX...”に替わります。送り側がデータを送るとSメーターがデータ送出量のインジケーターと動作し、受け側もデータを受け取るとSメーターが振れます。



(送り側)



(受け側)

コピーが終了すると、受け側のVX-3が通常のモードに戻ります(送り側のVX-3は“...TX...”から“CLONE”に戻ります)。

4. 2台のVX-3の電源をオフにし、クローンケーブルを外します。

- データの転送中に“ERROR”が表示された場合はエラーです。
- クローンケーブルの接続を確認してもう一度やりなおしてください。
- 仕様の異なるVX-3シリーズ間でのクローンはできません。詳しくは当社カスタマーサポートまでご相談ください。

必要に応じて使う機能

付 録

プリセットされている放送局周波数一覧表

『スペシャルバンクを呼び出して世界各地の放送, AM/FMラジオ, TV放送を聴く』の項目で放送局を呼び出したときの一覧表です。

1. **[BW]**を押した後に**[☒]**を押します。
2. スペシャルバンクの表示になりますので、**[BAND]**を押して「**RADIO**」を選択します。
選択後プリセットされている放送局のリストチャンネルと放送局名を表示します。
3. **DIAL**ツマミをまわしてリストチャンネルを合わせると、各放送局を呼び出すことができます。

リストチャンネル	周波数 (MHz)	モード	表示	放送局名	国/地方	リストチャンネル	周波数 (MHz)	モード	表示	放送局名	国/地方
1	6.030	AM	VOA	Voice of America	アメリカ	30	11.625	AM	VATICN	Radio Vlaanderen International	バチカン
2	6.160	AM	VOA	Voice of America	アメリカ	31	11.830	AM	VATICN	Radio Vlaanderen International	バチカン
3	9.760	AM	VOA	Voice of America	アメリカ	32	15.235	AM	VATICN	Radio Vlaanderen International	バチカン
4	11.965	AM	VOA	Voice of America	アメリカ	33	5.955	AM	NDRLND	Radio Nederland	オランダ
5	9.555	AM	CANADA	Radio Canada International	カナダ	34	6.020	AM	NDRLND	Radio Nederland	オランダ
6	9.660	AM	CANADA	Radio Canada International	カナダ	35	9.895	AM	NDRLND	Radio Nederland	オランダ
7	11.715	AM	CANADA	Radio Canada International	カナダ	36	11.655	AM	NDRLND	Radio Nederland	オランダ
8	11.955	AM	CANADA	Radio Canada International	カナダ	37	5.985	AM	CZECH	Radio Denmark	デンマーク
9	6.195	AM	BBC	British Broadcasting Corporation	イギリス	38	7.165	AM	CZECH	Radio Denmark	デンマーク
10	9.410	AM	BBC	British Broadcasting Corporation	イギリス	39	9.455	AM	CZECH	Radio Denmark	デンマーク
11	12.095	AM	BBC	British Broadcasting Corporation	イギリス	40	11.860	AM	CZECH	Radio Denmark	デンマーク
12	15.310	AM	BBC	British Broadcasting Corporation	イギリス	41	9.780	AM	PORTGL	Radio Portugal	ポルトガル
13	6.090	AM	FRANCE	Radio France International	フランス	42	11.630	AM	PORTGL	Radio Portugal	ポルトガル
14	9.790	AM	FRANCE	Radio France International	フランス	43	15.550	AM	PORTGL	Radio Portugal	ポルトガル
15	11.670	AM	FRANCE	Radio France International	フランス	44	21.655	AM	PORTGL	Radio Portugal	ポルトガル
16	15.195	AM	FRANCE	Radio France International	フランス	45	9.650	AM	SPAIN	Radio Exterior de Espana	スペイン
17	6.000	AM	DW	Deutsche Welle	ドイツ	46	11.880	AM	SPAIN	Radio Exterior de Espana	スペイン
18	6.075	AM	DW	Deutsche Welle	ドイツ	47	11.910	AM	SPAIN	Radio Exterior de Espana	スペイン
19	9.650	AM	DW	Deutsche Welle	ドイツ	48	15.290	AM	SPAIN	Radio Exterior de Espana	スペイン
20	9.735	AM	DW	Deutsche Welle	ドイツ	49	6.055	AM	NIKKY	ラジオNIKKEY	日本
21	5.990	AM	ITALY	Italian Radio International	イタリア	50	7.485	AM	NORWAY	Radio Norway International	ノルウェー
22	9.575	AM	ITALY	Italian Radio International	イタリア	51	9.590	AM	NORWAY	Radio Norway International	ノルウェー
23	9.675	AM	ITALY	Italian Radio International	イタリア	52	9.985	AM	NORWAY	Radio Norway International	ノルウェー
24	17.780	AM	ITALY	Italian Radio International	イタリア	53	13.800	AM	NORWAY	Radio Norway International	ノルウェー
25	7.170	AM	TURKEY	Swiss Radio International	トルコ	54	6.065	AM	SWEDEN	Radio Sweden	スウェーデン
26	7.270	AM	TURKEY	Swiss Radio International	トルコ	55	9.490	AM	SWEDEN	Radio Sweden	スウェーデン
27	9.560	AM	TURKEY	Swiss Radio International	トルコ	56	13.625	AM	SWEDEN	Radio Sweden	スウェーデン
28	11.690	AM	TURKEY	Swiss Radio International	トルコ	57	17.505	AM	SWEDEN	Radio Sweden	スウェーデン
29	9.660	AM	VATICN	Radio Vlaanderen International	バチカン	58	6.120	AM	FINLND	Radio Finland	フィンランド

付 録

プリセットされている放送局周波数一覧表(つづき)

- AMラジオ放送のバンドを受信するときは、市販の外部アンテナの取り付けをおすすめします。
- 受信する時間帯や電波の状態が悪いときは、受信できない場合があります。
- 各放送局は下表以外にも受信できる周波数があります。詳しくは市販されている周波数帳などを参考にしてください。

本機で受信できるTV放送(音声)は、アナログテレビ放送の音声で、デジタル放送の音声を聴くことはできません。アナログテレビ放送は2011年7月24日に終了しましたので、テレビ音声を聴くことはできません。

リスト チャンネル	周波数 (MHz)	モード	表示	放送局名	国/地方	リスト チャンネル	周波数 (MHz)	モード	表示	放送局名	国/地方
59	9.630	AM	FINLND	Radio Finland	フィンランド	89	12.080	AM	ASTRLA	Radio Australia	オーストラリア
60	11.755	AM	FINLND	Radio Finland	フィンランド	90	0.567	AM	NHK-1	NHK第1札幌	北海道
61	9.795	AM	FINLND	Radio Finland	フィンランド	91	0.747	AM	NHK-2	NHK第2札幌	北海道
62	5.940	AM	RUSSIA	Voice of Russia	ロシア	92	1.287	AM	HBC	北海道放送	北海道
63	5.920	AM	RUSSIA	Voice of Russia	ロシア	93	1.440	AM	STV	STVラジオ	北海道
64	7.205	AM	RUSSIA	Voice of Russia	ロシア	94	80.400	WFM	AIR-G	FM北海道	北海道
65	12.030	AM	RUSSIA	Voice of Russia	ロシア	95	82.500	WFM	NR-WAV	FMノースウェーブ	北海道
66	9.435	AM	ISRAEL	Israel Broadcasting Authority	イスラエル	96	85.200	WFM	NHK-SP	NHK-FM札幌	北海道
67	11.585	AM	ISRAEL	Israel Broadcasting Authority	イスラエル	97	95.750	WFM	TV-1CH	北海道放送	北海道
68	15.615	AM	ISRAEL	Israel Broadcasting Authority	イスラエル	98	107.750	WFM	TV-3CH	NHK総合	北海道
69	17.545	AM	ISRAEL	Israel Broadcasting Authority	イスラエル	99	181.750	WFM	TV-5CH	STV	北海道
70	6.045	AM	INDIA	All India Radio (AIR)	インド	100	221.750	WFM	TV12CH	NHK教育	北海道
71	9.595	AM	INDIA	All India Radio (AIR)	インド	101	499.750	WFM	TV17CH	テレビ北海道	北海道
72	11.620	AM	INDIA	All India Radio (AIR)	インド	102	559.750	WFM	TV27CH	北海道文化放送	北海道
73	15.020	AM	INDIA	All India Radio (AIR)	インド	103	607.750	WFM	TV35CH	北海道テレビ放送	北海道
74	7.160	AM	CHINA	China Radio International (CRI)	中国	104	1.233	AM	RAB	青森放送	東北
75	7.190	AM	CHINA	China Radio International (CRI)	中国	105	80.000	WFM	AFB	FM青森	東北
76	9.785	AM	CHINA	China Radio International (CRI)	中国	106	0.684	AM	IBC	岩手放送	東北
77	11.685	AM	CHINA	China Radio International (CRI)	中国	107	76.100	WFM	FMI	FM岩手	東北
78	6.135	AM	KOREA	Radio Korea	韓国	108	0.936	AM	ABS	秋田放送	東北
79	7.275	AM	KOREA	Radio Korea	韓国	109	82.800	WFM	AFM	FM秋田	東北
80	9.570	AM	KOREA	Radio Korea	韓国	110	0.918	AM	YBC	山形放送	東北
81	13.670	AM	KOREA	Radio Korea	韓国	111	80.400	WFM	BOY-FM	FM山形	東北
82	6.165	AM	JAPAN	Radio Japan	日本	112	1.458	AM	RFC	ラジオ福島	東北
83	7.200	AM	JAPAN	Radio Japan	日本	113	81.800	WFM	FMF	ふくしまFM	東北
84	9.750	AM	JAPAN	Radio Japan	日本	114	0.891	AM	NHK-1	NHK第1仙台	東北
85	11.860	AM	JAPAN	Radio Japan	日本	115	1.089	AM	NHK-2	NHK第2仙台	東北
86	5.995	AM	ASTRLA	Radio Australia	オーストラリア	116	1.260	AM	TBC	東北放送	東北
87	9.580	AM	ASTRLA	Radio Australia	オーストラリア	117	77.100	WFM	DAT-FM	FM仙台	東北
88	9.660	AM	ASTRLA	Radio Australia	オーストラリア	118	82.500	WFM	NHK-SD	NHK-FM仙台	東北

プリセットされている放送局周波数一覧表(つづき)

リスト チャンネル	周波数 (MHz)	モード	表示	放送局名	国/地方	リスト チャンネル	周波数 (MHz)	モード	表示	放送局名	国/地方
119	95.750	WFM	TV-1CH	東北放送	東北	158	86.300	WFM	FM-GNM	FMぐんま	関東
120	107.750	WFM	TV-3CH	NHK総合	東北	159	95.750	WFM	TV-1CH	NHK総合テレビ	関東
121	181.750	WFM	TV-5CH	NHK教育	東北	160	107.750	WFM	TV-3CH	NHK教育テレビ	関東
122	221.750	WFM	TV12CH	仙台放送	東北	161	175.750	WFM	TV-4CH	日本テレビ	関東
123	589.750	WFM	TV32CH	東日本放送	東北	162	187.750	WFM	TV-6CH	TBS	関東
124	601.750	WFM	TV34CH	宮城テレビ放送	東北	163	197.750	WFM	TV-8CH	フジテレビ	関東
125	1.116	AM	BSN	新潟放送	信越	164	209.750	WFM	TV10CH	テレビ朝日	関東
126	77.500	WFM	FM-NIG	FM新潟	信越	165	221.750	WFM	TV12CH	テレビ東京	関東
127	1.098	AM	SBC	信越放送	信越	166	481.750	WFM	TV14CH	MX-TV	関東
128	79.700	WFM	FM-NGN	FM長野	信越	167	493.750	WFM	TV16CH	放送大学	関東
129	0.738	AM	KNB	北日本放送	北陸	168	625.750	WFM	TV38CH	テレビ埼玉	関東
130	82.700	WFM	FM-TYM	FMとやま	北陸	169	649.750	WFM	TV42CH	TVK	関東
131	1.107	AM	MRO	北陸放送	北陸	170	673.750	WFM	TV46CH	千葉テレビ	関東
132	80.500	WFM	FM-ISK	FM石川	北陸	171	685.750	WFM	TV48CH	群馬テレビ	関東
133	0.864	AM	FBC	福井放送	北陸	172	0.729	AM	NHK-1	NHK第1名古屋	東海
134	76.100	WFM	FM-FKI	FM福井	北陸	173	0.909	AM	NHK-2	NHK第2名古屋	東海
135	0.594	AM	NHK-1	NHK第1東京	関東	174	1.053	AM	CBC	CBCラジオ	東海
136	0.693	AM	NHK-2	NHK第2東京	関東	175	1.332	AM	TOKAI	東海ラジオ放送	東海
137	0.765	AM	YBS	山梨放送	関東	176	1.431	AM	GIFU	岐阜ラジオ	東海
138	0.810	AM	AFN	AFN東京	関東	177	77.800	WFM	ZIP-FM	FM名古屋	東海
139	0.954	AM	TBS	TBS	関東	178	78.900	WFM	FM-MIE	FM三重	東海
140	1.134	AM	BUNKA	文化放送	関東	179	79.500	WFM	RADIOI	愛知国際放送	東海
141	1.197	AM	IBS	茨城放送	関東	180	80.000	WFM	RAD-80	岐阜FM	東海
142	1.242	AM	NIPPON	ニッポン放送	関東	181	80.700	WFM	FMA	FM愛知	東海
143	1.422	AM	RF-NPN	RFラジオ日本	関東	182	82.500	WFM	NHK-NY	NHK-FM名古屋	東海
144	1.530	AM	CRT	栃木放送	関東	183	95.750	WFM	TV-1CH	東海テレビ	東海
145	76.100	WFM	INT-FM	Inter FM	関東	184	107.750	WFM	TV-3CH	NHK総合テレビ	東海
146	76.400	WFM	R-BERY	FM栃木	関東	185	181.750	WFM	TV-5CH	中部日本放送	東海
147	77.100	WFM	FM-UNV	放送大学	関東	186	203.750	WFM	TV-9CH	NHK教育テレビ	東海
148	78.000	WFM	BAY-FM	BAY FM	関東	187	215.750	WFM	TV11CH	名古屋テレビ	東海
149	78.600	WFM	FM-FUJ	FM富士	関東	188	547.750	WFM	TV25CH	テレビ愛知	東海
150	79.500	WFM	NACK-5	NACK 5	関東	189	607.750	WFM	TV35CH	中京テレビ	東海
151	80.000	WFM	TYO-FM	TOKYO FM	関東	190	1.404	AM	SBS	静岡放送	東海
152	80.700	WFM	NHK-CB	NHK-FM千葉	関東	191	76.100	WFM	FM-HAR	浜松FM放送	東海
153	81.300	WFM	J-WAVE	J-WAVE	関東	192	79.200	WFM	K-MIX	静岡FM放送	東海
154	81.900	WFM	NHK-YK	NHK-FM横浜	関東	193	0.558	AM	AM-KOB	ラジオ関西	近畿
155	82.500	WFM	NHK-TY	NHK-FM東京	関東	194	0.666	AM	NHK-1	NHK第1大阪	近畿
156	84.700	WFM	FM-YKH	FMヨコハマ	関東	195	0.828	AM	NHK-2	NHK第2大阪	近畿
157	85.100	WFM	NHK-UW	NHK-FMさいたま	関東	196	1.008	AM	ABC	朝日放送	近畿

プリセットされている放送局周波数一覧表(つづき)

リスト チャンネル	周波数 (MHz)	モード	表示	放送局名	国/地方	リスト チャンネル	周波数 (MHz)	モード	表示	放送局名	国/地方
197	1.143	AM	KBS	京都放送	近畿	236	79.200	WFM	FMY	FM山口	中国
198	1.179	AM	MBS	毎日放送	近畿	237	1.449	AM	RNC	西日本放送	四国
199	1.314	AM	OBC	大阪放送	近畿	238	78.600	WFM	FM-KGW	FM香川	四国
200	76.500	WFM	FM-CCL	関西インターメディア	近畿	239	1.116	AM	RNB	南海放送	四国
201	80.200	WFM	FM-802	FM802	近畿	240	79.700	WFM	FM-EHM	FM愛媛	四国
202	82.800	WFM	NHK-KT	NHK-FM京都	近畿	241	1.269	AM	JRT	四国放送	四国
203	85.100	WFM	FM-OSK	FM大阪	近畿	242	80.700	WFM	FM-TKS	FM徳島	四国
204	86.500	WFM	NHK-KB	NHK-FM神戸	近畿	243	0.900	AM	RKC	高知放送	四国
205	88.100	WFM	NHK-OS	NHK-FM大阪	近畿	244	81.600	WFM	FM-KCH	FM高知	四国
206	89.400	WFM	A-STN	FM京都	近畿	245	0.612	AM	NHK-1	NHK第1福岡	九州
207	89.900	WFM	KIS-FM	兵庫FMラジオ放送	近畿	246	1.017	AM	NHK-2	NHK第2福岡	九州
208	101.750	WFM	TV-2CH	NHK総合	近畿	247	1.278	AM	RKB	RKB毎日放送	九州
209	175.750	WFM	TV-4CH	毎日放送	近畿	248	1.413	AM	KBC	九州朝日放送	九州
210	187.750	WFM	TV-6CH	朝日放送	近畿	249	76.100	WFM	LOVEFM	九州国際FM	九州
211	197.750	WFM	TV-8CH	関西テレビ	近畿	250	78.700	WFM	CRS-FM	FM九州	九州
212	209.750	WFM	TV10CH	読売テレビ	近畿	251	80.700	WFM	FM-FOK	FM福岡	九州
213	221.750	WFM	TV12CH	NHK教育	近畿	252	84.800	WFM	NHK-FK	NHK-FM福岡	九州
214	511.750	WFM	TV19CH	テレビ大阪	近畿	253	95.750	WFM	TV-1CH	九州朝日放送	九州
215	613.750	WFM	TV36CH	サンテレビ	近畿	254	107.750	WFM	TV-3CH	NHK総合	九州
216	77.000	WFM	ERADIO	FM滋賀	近畿	255	175.750	WFM	TV-4CH	RKB毎日放送	九州
217	1.431	AM	WBS	和歌山放送	近畿	256	187.750	WFM	TV-6CH	NHK教育	九州
218	1.494	AM	RSK	山陽放送	中国	257	203.750	WFM	TV-9CH	テレビ西日本	九州
219	76.800	WFM	FM-OKY	FM岡山	中国	258	511.750	WFM	TV19CH	TXN九州	九州
220	0.702	AM	NHK-2	NHK第2広島	中国	259	619.750	WFM	TV37CH	福岡放送	九州
221	1.071	AM	NHK-1	NHK第1広島	中国	260	77.900	WFM	FMS	FM佐賀	九州
222	1.350	AM	RCC	中国放送	中国	261	1.233	AM	NBC	長崎放送	九州
223	78.200	WFM	HFM	広島FM放送	中国	262	79.500	WFM	SMLE	FM長崎	九州
224	88.300	WFM	NHK-HR	NHK-FM広島	中国	263	1.098	AM	OBS	大分放送	九州
225	107.750	WFM	TV-3CH	NHK総合	中国	264	88.000	WFM	FM-OIT	FM大分	九州
226	175.750	WFM	TV-4CH	中国放送	中国	265	0.936	AM	MRT	宮崎放送	九州
227	193.750	WFM	TV-7CH	NHK教育	中国	266	83.200	WFM	JOY-FM	FM宮崎	九州
228	221.750	WFM	TV12CH	広島テレビ	中国	267	1.197	AM	RKK	熊本放送	九州
229	583.750	WFM	TV31CH	テレビ新広島	中国	268	77.400	WFM	FMK	FM中九州	九州
230	607.750	WFM	TV35CH	広島ホームテレビ	中国	269	1.107	AM	MBC	南日本放送	九州
231	1.431	AM	BSS	山陰放送(鳥取)	中国	270	79.800	WFM	MYUFM	FM鹿児島	九州
232	78.800	WFM	V-AIR	FM山陰(鳥取)	中国	271	0.738	AM	RBC	琉球放送	沖縄
233	0.900	AM	BSS	山陰放送(島根)	中国	272	0.864	AM	ROK	ラジオ沖縄	沖縄
234	77.400	WFM	V-AIR	FM山陰(島根)	中国	273	87.300	WFM	FM-OKN	FM沖縄	沖縄
235	1.458	AM	KRY	山口放送	中国	-	-	-	-	-	-

TVチャンネル/周波数一覧表

『スペシャルバンクのTV専用メモリーでTV放送を聴く』の項目でTVチャンネルを呼び出したときの一覧表です。

本機で受信できるTV放送(音声)は、アナログテレビ放送の音声で、デジタル放送の音声を聴くことはできません。アナログテレビ放送は2011年7月24日に終了しましたので、テレビ音声を聴くことはできません。

1. **[BAND]**を押した後に**[CH]**を押します。
2. スペシャルバンクの表示になりますので、**[BAND]**を押して「TV CH」を選択します。
選択後、プリセットされているTVチャンネルと周波数を表示します。
3. DIALツマミをまわして、聴きたいTVチャンネルに合わせます。

チャンネル	周波数 (MHz)								
1	95.75	14	481.75	27	559.75	40	637.75	53	715.75
2	101.75	15	487.75	28	565.75	41	643.75	54	721.75
3	107.75	16	493.75	29	571.75	42	649.75	55	727.75
4	175.75	17	499.75	30	577.75	43	655.75	56	733.75
5	181.75	18	505.75	31	583.75	44	661.75	57	739.75
6	187.75	19	511.75	32	589.75	45	667.75	58	745.75
7	193.75	20	517.75	33	595.75	46	673.75	59	751.75
8	197.75	21	523.75	34	601.75	47	679.75	60	757.75
9	203.75	22	529.75	35	607.75	48	685.75	61	763.75
10	209.75	23	535.75	36	613.75	49	691.75	62	769.75
11	215.75	24	541.75	37	619.75	50	697.75	-	-
12	221.75	25	547.75	38	625.75	51	703.75	-	-
13	475.75	26	553.75	39	631.75	52	709.75	-	-

JR鉄道無線周波数一覧表

『スペシャルバンクを呼び出してJR鉄道無線を聴く』の項目でJR鉄道無線を呼び出したときの一覧表です。

デジタル通信に移行している地域では、受信することができません。

1. **[BAND]**を押した後に**[CH]**を押します。
2. スペシャルバンクの表示になりますので、**[BAND]**を押して「JR CH」を選択します。
選択後、プリセットされているJR鉄道無線の周波数を表示します。
3. DIALツマミをまわしてチャンネルを合わせると、JR鉄道無線の周波数を呼び出すことができます。

チャンネル番号	周波数 (MHz)						
J1	352.5375	J5	352.5625	J9	352.5875	J13	352.6125
J2	336.0375	J6	336.0625	J10	336.0875	J14	336.1125
J3	352.5500	J7	352.5750	J11	352.6000	J15	352.6250
J4	336.0500	J8	336.0750	J12	336.1000	J16	336.1250

周波数の使用区分

アマチュア業務に使用する電波の型式および周波数の使用区分

この使用区分は令和2年4月21日に総務省より施行されております。電波を発射するときは、下記の使用区分にしたがって運用してください。なお、使用区分は改訂される場合がありますので、最新情報はJARLニュース等でご確認ください。



注1：144.10MHzから144.20MHzまでの周波数は、外国のアマチュア局と月面反射通信(EME)にも使用できる。この場合の電波の占有周波数帯幅の許容値は3kHz以下のものに限る。
 注2：144.30MHzから144.50MHzまでの周波数は、国際宇宙ステーションとの交信に限って広帯域の電話・電信及び画像通信にも使用することができる。



狭帯域：占有周波数帯幅が3kHz以下のもの（A3Eを除く）。
 広帯域：占有周波数帯幅が3kHzを超えるもの。

アマチュア無線局免許申請書類の書きかた

無線局事項書及び工事設計書の書きかた

本機は技術基準適合機です。電池パックを取り外した本体背面に貼ってあるラベルに技術基準適合証明番号（“002-”から始まる番号）が記載されています。
 本機を改造せず、かつTNCなどの付属装置や付加装置などを接続しない場合は、管轄の総合通信局へ直接申請してください。このとき工事設計書の工事設計認証番号の欄に、本機の技術基準適合証明番号（“002-”から始まる番号）を記入してください。

- 免許申請書類は、総務省の「電波利用ホームページ」（下記URL）からダウンロードすることができます。
- <http://www.tele.soumu.go.jp/j/download/proc/index.htm>
- 免許申請に関しては、総務省のホームページなどで最新情報を確認してください。
- 「電波利用 電子申請・届出システム Lite」に関しては、総務省ホームページの「ご利用の手引き」（下記URL）を参照してください。
- <https://www.denpa.soumu.go.jp/public2/help/doc/index.html>
- ※ 「工事設計情報入力」画面の工事設計認証番号の“番号”欄に、本機の技術基準適合証明番号（“002-”から始まる番号）をハイフンを含めて入力してください。

無線局事項書及び工事設計書の記入例

11 無線設備の設置場所又は常置場所	住所	都道府県—市区町村コード ()		
12 移動範囲	<input type="checkbox"/> 移動する (陸上、海上及び上空) <input type="checkbox"/> 移動しない			
	希望する周波数帯	電波の型式		空中線電力
	<input checked="" type="checkbox"/> 144MHz	<input type="checkbox"/> 3HA	<input type="checkbox"/> 4HA	W
	<input type="checkbox"/> 3.5MHz	<input type="checkbox"/> 3HA	<input type="checkbox"/> 4HA	W
	<input type="checkbox"/> 3.8MHz	<input type="checkbox"/> 3HD	<input type="checkbox"/> 4HD	W
	<input type="checkbox"/> 7MHz	<input type="checkbox"/> 3HA	<input type="checkbox"/> 4HA	W
	<input type="checkbox"/> 10MHz	<input type="checkbox"/> 3HA	<input type="checkbox"/> 4HA	W
	<input type="checkbox"/> 14MHz	<input type="checkbox"/> 3VA	<input type="checkbox"/> 4VA	W
	<input type="checkbox"/> 18MHz	<input type="checkbox"/> 3VA	<input type="checkbox"/> 4VA	W
	<input type="checkbox"/> 21MHz	<input type="checkbox"/> 3VA	<input type="checkbox"/> 4VA	W
	<input type="checkbox"/> 24MHz	<input type="checkbox"/> 3HA	<input type="checkbox"/> 4HA	W
	<input type="checkbox"/> 28MHz	<input type="checkbox"/> 3VA	<input type="checkbox"/> 4VA	W
	<input type="checkbox"/> 15MHz	<input type="checkbox"/> 3VA	<input type="checkbox"/> 4VA	W
	<input checked="" type="checkbox"/> 144MHz	<input type="checkbox"/> 3VA	<input type="checkbox"/> 4VA	<input type="checkbox"/> 3VF <input type="checkbox"/> 4VF
	<input checked="" type="checkbox"/> 430MHz	<input type="checkbox"/> 3VA	<input type="checkbox"/> 4VA	<input type="checkbox"/> 3VF <input type="checkbox"/> 4VF
13 電波の型式並びに希望する周波数及び空中線電力				<input type="checkbox"/> 10W <input type="checkbox"/> 10W

144MHz, 430MHz に✓印をつけてください。

第3級アマチュア無線技士以上の方は3VFに✓印をつけてください。第4級アマチュア無線技士の方は4VFに✓印をつけてください。

空中線電力の10Wを記入してください。

本機は技術基準適合機ですので、技術基準適合証明番号を記入することにより、下記の“■”部分の記入を省略することができます。

変更の種類	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 除去 <input type="checkbox"/> 変更		
適合表示無線設備の番号	002-XXXXXX		
放射可能な電波の型式及び周波数の範囲	F3E, F2D, F2A: 144MHz帯, 430MHz帯		
変調方式コード	F3E, F2D, F2A: FM		
送信機	名称個数	電圧	
	RQA0003DNS × 1	6.0 V	
	144MHz:3W, 430MHz:2W		
送信空中線の型式			
周波数測定装置の有無	<input type="checkbox"/> 有 (誤差0.025%以内) <input type="checkbox"/> 無		
添付図面	<input type="checkbox"/> 送信機系統図		
その他の工事設計	<input checked="" type="checkbox"/> 電波法第3章に規定する条件に合致する。		

技術基準適合証明番号を記入した場合は、記入する必要はありません。

電池パックを取り外した本体背面にあるラベルの技術基準適合証明番号(“002-”から始まる番号)を記入してください。

第4級アマチュア無線技士の方は、F2Aは申請できません。

✓印をつけてください。

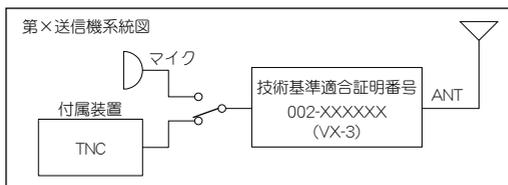
移動する局として申請する場合は省略することができます。

● データ通信をするための申請について

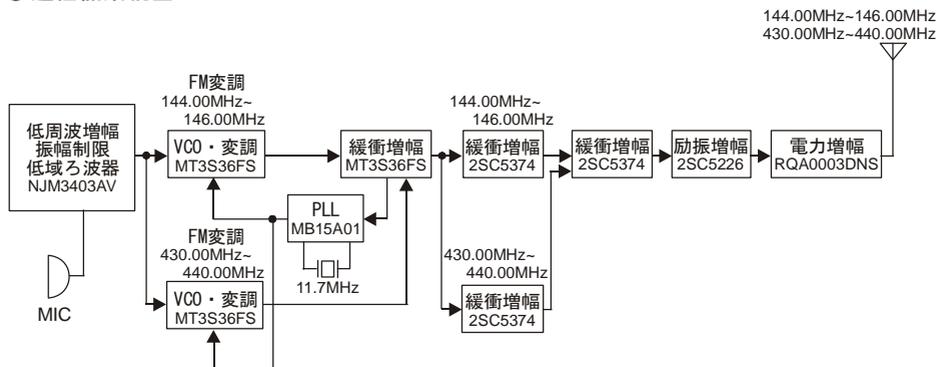
本機を改造せずに、TNCなどの付属装置を接続してデータ通信をする場合は、次のように申請してください。

- (1) 新たに使用する無線機に付属装置を接続する場合（開設，または取替，増設）は，送信機系統図と付属装置の緒元を添付して，JARDまたはTSS株式会社の保証を受けて申請してください。
- (2) 既に免許を受けている無線機に付属装置を接続する場合（変更）は，送信機系統図と付属装置の緒元を添付して，直接管轄の総合通信局に申請してください。

● マイク端子を使用する場合の簡略化した送信機系統図の例

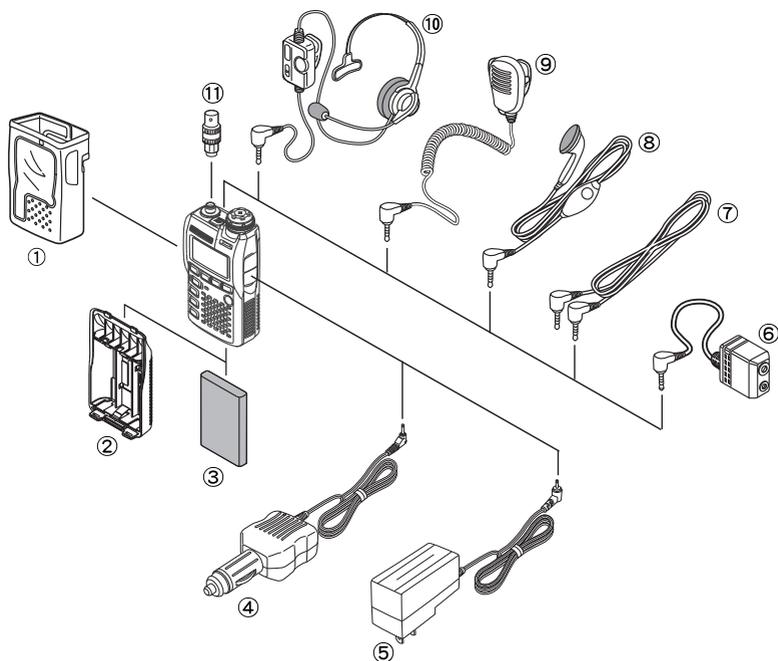


● 送信機系統図



オプション

■使用できるオプション



- ① ソフトケース (CSC-92)
- ② 乾電池ケース (FBA-37)
- ③ 電池パック (FNB-82LI)
- ④ シガープラグ付き外部電源アダプター (E-DC-21)
- ⑤ バッテリーチャージャー (SAD-15A)
- ⑥ マイクアダプター (CT-44)

- ⑦ クローンケーブル (CT-27)
- ⑧ イヤピースマイク (SSM-57A)
- ⑨ スピーカーマイク (SSM-17A)
- ⑩ VOXヘッドセット (SSM-63A)
- ⑪ アンテナ変換コネクター (CN-3)

付録 ※ 詳細はカタログをご覧ください。

故障かな？と思ったら 修理を依頼される前に、次の事項を確認してください。

■電源が入らない

- 電池パックが消耗していませんか？
お買い上げ直後または長期間使用していないときは、電池パックを充電してください。
- 電池パックは正しくセットしてありますか？
“電池パックを取り付ける”を参照し、確実に取り付けてください。
- 外部電源の接続は間違っていないですか？
外部電源を使用するときは、必ずシガープラグ付き外部電源アダプター“E-DC-21”を使用してください。
- 電池パックまたはE-DC-21の電圧は正常ですか？
電池パックの場合は残量があること、E-DC-21の出力電圧は約DC6Vであることを確認してください。

■音が出ない

- スケルチ（またはRFスケルチ）のレベルや設定が大きくなっていませんか？
モニタースイッチを押して、ザーという音が出ることを確認してください。
弱い信号を受信するときには、スケルチ（またはRFスケルチ）レベルを調整してください。
- VOLツマミを左方向にまわしすぎていませんか？
- トーンスケルチまたはDCSがオンになっていませんか？
トーンスケルチまたはDCSがオンのときには、設定したトーン周波数またはDCSコードと同じ信号が含まれた信号を受信するまで音は出ません。

■電波が出ない

- PTTスイッチは確実に押していますか？
- PTTロックがオンになっていませんか？
- ビジー-TX禁止 (BLO機能) がオンになっていませんか？
ビジー-TX禁止 (BLO機能) がオンのときには、信号を受信しているときにPTTスイッチを押しても電波は出ません。信号がなくなるのを待ってからPTTスイッチを押してください。
- 送信周波数はアマチュアバンドの144MHz帯と430MHz帯のFMになっていませんか？
AMラジオ放送帯/短波帯/50MHz帯/FMラジオ放送帯/Airバンド/TV放送帯/情報無線帯では送信できません。
- 電池パックまたは外部電源の電圧は正常ですか？
電池パックの残量を確認してください。
また、送信時に電圧降下を起こすような電源では、VX-3の性能を十分に発揮することはできません。

■キーやDIALツマミを操作できない

- DIALロックがオンになっていませんか？
DIALツマミを上へ引張ってロックを外してください。
- キーロックやDIALロックがオンになっていませんか？

以下の周波数関係で、内部発振器の高調波による内部ビート等の影響がありますが、故障ではありません。

受信周波数 (MHz) = 3.579545MHz × n 倍 (n は任意の整数)
受信周波数 (MHz) = 11.7MHz × n 倍 (n は任意の整数)

索引

A	AM アンテナの切り替え	49
	AM 放送を聴く	6, 35
	ANT	12, 48
	APO 機能	81
	ARTS	12, 67
	ARTS 機能	67
	ATT 機能	83
B	BAND キー	5, 12
	BAND を選ぶ	5
	BCLD 機能	83
	BUSY/TX インジケーター	12, 78
C	CW ID 機能	66
	CW トレーニング機能	87
	CW 学習機能	86
D	DCS サーチ	71
	DCS 機能	70
	DIAL ツマミ	4, 5, 12
	DIAL ロックを外す	4
	DIAL 以外にキーをロックする	14
	DTMF 機能	64
	DW	12, 62
E	EAI 機能	50
	EAR 端子 (ステレオイヤホン用)	12
	EMG	12, 54
	EXT DC 端子	3, 12
F	F (ファンクション) キー	12
	FM アンテナの切り替え	49
	FM 放送を聴く	6, 35
	FRG	18
H	HM キー	12, 24
J	JR 以外の空線信号を消す	33
	JR の空線信号を消す	33
	JR 鉄道無線を聴く	32
	JR 鉄道無線周波数一覧表	32, 112
M	MIC/SP 端子	12
	MODE キー	12, 15
	MONI	4, 12
	M-TUN	12, 25
P	PTT スイッチ	5, 12
R	RADIO キー	6, 12, 48
	RV キー	12, 16
S	SCAN	12, 40
	SET	7, 12, 88
	SP BNK	12, 30
	SPS S	12, 55, 56, 57
	SQ TYP	12, 33, 74, 61, 70
	SRG	21
	STEP	12, 15
	SUB-RX	12, 48
	SUB-FX 機能	48
	S メータースケルチ機能 (RF スケルチ機能)	68
T	TOT 機能	82
	TV チャンネル周波数一覧表	112
	TV 放送を聴く	6, 35
	TV 専用メモリーでTV 放送を聴く	31
	TX/BUSY インジケーターを OFF にする	78
	TX/BUSY インジケーターを ライトとして使用する	78

	TXPO キー	12, 14
V	V/M キー	5, 22
	VFO スキャン	40
	VOL キー	4, 12
W	WiRES で交信する	17
	WiRES ID メモリー	18
	W キー	12, 23
あ	アマチュア無線局免許申請書類の書きかた	113
	安全上の注意	8
	アンテナ端子 (SMA)	12
	アンテナを取り付ける	1
い	インターネットキー	12, 17
	インターネットキーの動作を マイキーに変更する	85
う	ウェイクアップ機能	47
え	エマージェンシーオートマチック ID	50
	エマージェンシー機能	54
お	オールリセット	15
	オプション	116
	オンタイマー機能	81
	温度表示機能	80
	音量の設定方法を変更する	79
	音量を調節する	4
か	外部電源アダプター “E-DC-21” を 接続する-オプション	3
	各部の名称と操作	12
	各部の名前と動き	12
	かんたん操作	1
	乾電池ケース “FBA-37” の 使いかた-オプション	3
き	キー操作早見表	表 3
	救急無線周波数表	38
	救急無線を聴く	38
く	空線スケルチ機能	33
	クローン操作	107
け	消したメモリーを復活する	25
こ	交信してみよう	4
	国際 VHF (マリン) 無線周波数表	34
	国際 VHF (マリン) 無線を聴く	34
	故障かな?と思ったら	117
	好みのベル音を鳴らす	73
し	市販のハンドストラップを取り付ける	1
	指定メモリー	43
	自動的に電源をオフする	81
	自動的に電源をオンする	81
	周波数の使用区分	113
	受信セーブ機能	82
	受信感度を下げる	83
	受信中に誤って送信しないようにする	83
	照明の点灯条件を変更する	78
	消防無線周波数表	38
	消防無線を聴く	38
	周波数帯を選ぶ	5
	周波数をあわせる	5
	準備しよう	1
	使用時間の目安と残量表示	2
す	スキップサーチメモリー	41

索引(つづき)

スキップメモリー	43	メモリー構成	22
スキャンストップ時の受信方法を設定する	41	メモリースキャン	42
スキャンを使う	40	メモリータグを使う	26
スケルチのレベルを調節する	14	メモリーチューン機能	25
ステレオイヤホン端子 (EAR 端子)	12	メモリーに名前をつける	26
スプリットメモリー	23	メモリーに書き込む	23
スペシャルバンク	30	メモリーバンクスキャン	44
スマートサーチ	56	メモリーバンクに名前をつける	29
せ 世界各地の放送を聴く	35	メモリーバンクリンクスキャン	45
セットモード	7	メモリーバンクを使う	28
セットモードの動作一覧表	92	メモリーを呼び出す	24
セットモードの動作一覧表非表示設定	92	メモリーを使う	22
セットモードリセット	92	メモリーを消す	25
セットモード項目別一覧表	90	も 目次	表2
セットモード番号順一覧表	88	モニタースイッチ	4, 12
そ 操作音がならないようにする	79	ら ラジオを聴いてみよう	6
操作音の音量を設定する	79	り リセット(オールリセット)	15
送信する	5	リセット(セットモードリセット)	92
送信セーブ機能	82	リチウムイオン電池について	2
送信出力を切り替える	14	れ レピーターで交信する	16
た 多彩なメモリー機能	22	連続送信時間を制限する	82
ち チャンネルカウンター	55	わ ワイヤレスマイクを聴く	37
て 定格	120	ワイヤレスマイク周波数表	37
ディスプレイの説明	13		
デュアルシーブ(DW)機能	62		
電源電圧表示機能	80		
電池/バック“FNB-82L1”を取り付ける	1		
電池/バック“FNB-82L1”を 充電する(約2.5時間)	2		
電波を放射する前に	11		
電源スイッチ	4, 12		
電源を入れる	4		
電池/バックについて	2		
と 盗聴器発見機能サーチ	57		
同梱品	表2		
特長	11		
特定小電力無線を聴く	36		
特定小電力無線周波数表	36		
トーンスケルチサーチ	71		
トーンスケルチ機能	70		
は パケット通信に使う	106		
パスワード機能	77		
ひ 必要に応じて使う機能	77		
ふ ファンクションキー	12		
プライオリティリポート	63		
付録	108		
プログラムブルメモリースキャン(PMS)	46		
へ ページャー機能	74		
ベル機能	72		
ほ 放送局周波数一覧表	108		
ホームチャンネルを呼び出す	24		
ま マイクゲイン	83		
マイバンド機能	84		
マニュアルでステップを切り替える	15		
マニュアルでモードを切り替える	15		
め メッセージ機能	58		
メモリーオンリーモード	85		

定 格

■一般定格

送受信可能周波数範囲 : 送信周波数範囲 144~146MHz, 430~440MHz
: 受信周波数範囲 504kHz~999.900MHz (一部周波数を除く)
送受信周波数ステップ : 5/10/12.5/15/20/25/50/100kHz (Airバンドに限り, 8.33kHzを選択することができます)
(AMラジオ放送帯に限り, 9kHzおよび10kHzを選択することができます)

電波型式 : F3E, F2D, F2A
通信方式 : 単方向式
周波数偏差 : ±5ppm以内 (-10°C~+50°C)
アンテナインピーダンス : 50Ω
電 源 : 定格 DC3.7V(電池/バックFNB-82L使用時), マイナス接地
DC6V(外部電源E-DC-21使用時), マイナス接地

消費電流 : 動作可能範囲(外部電源入力) DC3.7~7V, マイナス接地
: 受信定格出力時 約120mA
: 受信スケルチ時 約60mA
: 受信/バッテリーセーブ時(受信1:セーブ2) 約30mA
: AM/FMラジオ受信時 約50mA
: 電源オフ時 (APO) 約100μA
: 144MHz帯送信時 (1.5W):約1.3A, 430MHz帯送信時 (1W):約1.2A (DC 3.7V)
: 144MHz帯送信時 (3.0W):約1.6A, 430MHz帯送信時 (2W):約1.8A (DC 6.0V)

使用温度範囲 : -20°C~+60°C
ケース寸法 : 幅47×高さ81×奥行23mm(突起物を含まない)
本体重量 : 約130g (アンテナ, 電池/バックFNB-82Lを含む)

■送信部

送信出力 : 144MHz帯: 3W (6V入力時:外部電源E-DC-21)
1.5W (3.7V入力時:電池/バックFNB-82L, 4.5V入力時:単形アルカリ電池使用時(乾電池ケースFBA-37))
430MHz帯: 2W (6V入力時:外部電源E-DC-21)
1W (3.7V入力時:電池/バックFNB-82L, 4.5V入力時:単形アルカリ電池使用時(乾電池ケースFBA-37))

変調方式 : FM:リアクタンス変調
最大周波数偏移 : ±5kHz(IDCおよびスプラッタフィルター付き)
占有周波数帯域 : FM:16kHz以内
不要輻射強度 : 60dB以下 (HG-I), 50dB以下 (LOW)
マイクロホンインピーダンス: 約2kΩ(エレクトレットコンデンサ型)

■受信部

受信方式 : AM/NFM:ダブルコンバージョンスーパーヘテロダイン, WFM:トリプルコンバージョンスーパーヘテロダイン
AMラジオ/FMラジオ :シングルコンバージョンスーパーヘテロダイン
中間周波数 : AM/NFM時 第一IF周波数47.25MHz, 第二IF周波数450kHz
WFM時 第一IF周波数45.8MHz, 第二IF周波数10.7MHz, 第三IF周波数1MHz
AMラジオ/FMラジオ時 第一IF周波数130kHz
受信感度 : 0.5~1.8MHz (AMラジオ) 4μV @10dB SN
1.8~30MHz (AM) 3μV @10dB SN
30~54MHz (NFM) 0.35μV typ @12dB SINAD
54~76MHz (NFM) 1μV typ @12dB SINAD
76~108MHz (FMラジオ, TV(1ch~3ch)) 1.5μV typ @12dB SINAD
108~137MHz (AM) 1.5μV typ @10dB SN
137~140MHz (NFM) 0.2μV @12dB SINAD
140~150MHz (NFM) 0.16μV @12dB SINAD
150~174MHz (NFM) 0.2μV @12dB SINAD
174~225MHz (WFM) 1μV typ @12dB SINAD
300~350MHz (NFM) 0.5μV @12dB SINAD
350~400MHz (NFM) 0.2μV @12dB SINAD
400~470MHz (NFM) 0.18μV @12dB SINAD
470~540MHz (WFM) 1.5μV @12dB SINAD
540~800MHz (WFM) 3μV typ @12dB SINAD
800~999MHz (NFM) 1.5μV typ @12dB SINAD

通過帯域幅 : NFM, AM; 12kHz以上/-6dB WFM; 200kHz以上/-6dB
選択度 : NFM, AM; 35kHz以下/-60dB WFM; 300kHz以下/-20dB
低周波定格出力 : 50mW以上 (@3.7V), 100mW以上 (6V) (8Ω, THD10%)
低周波出力インピーダンス: 8Ω
副的に発する電波等の強度 : 4nW以下

定格値は常温・常圧時の値です。

キー操作早見表

キー & スイッチ	直接押す	1秒以上押す	[] 押し後各キーを押す	[] 押し後各キーを1秒以上押す
PTT	送信	←	一時ハイパワー送信	-
モニター	スケルチオフ	←	スケルチレベル設定	-
 (電源)	-	電源オン/オフ	-	-
DIAL	押しでDIALロック 上に引張ってDIALロック解除	-	1MHz単位で変化(DIALをまわす) メモリー100単位でステップ (DIALをまわす)	-
[]	モード(電波型式)切り替え	スペシャルサーチモード呼び出し*1	スケルチタイプ切り替え*2	-
[]	バンド切り替え(アップ) メモリーバンク切り替え (メモリーモード)	スキャン開始/ スキャンモード切り替え	バンド切り替え(ダウン) スキャン中はSKP指定	キーロック オン/オフ
[]	送信出力切り替え	セットモード移行	周波数ステップ切り替え	-
[]	VFO/メモリーモード切り替え	デュアルレシーブ開始	メモリーチューン	-
[]	ファンクションモード	メモリー書き込み スキップサーチメモリー書き込み	-	-
[]	ホームチャンネル呼び出し	エマージェンシー オン/オフ	リバース オン/オフ	-
[]	W.F.Eモード オン/オフ	ARTS機能	スペシャルバンク呼び出し*3	-
[]	ラジオモード* AM/FM/TV(10+3CH)	ラジオアンテナの設定*4	SUB-FX機能	-
[]	-	音量の調節*5 (押しながらDIALをまわす)	音量の調節*6 (DIALをまわす)	-

※1：スペシャルサーチモード... CH CNT (チャンネルカウンター), S SRCH (スマートサーチ), TAP (盗聴発見機能サーチ)の機能を選択することができます。

※2：スケルチタイプ... TONE(トーンエンコーダー), TSQL(トーンスケルチ), DCS, RV(リフトストーン), JR FREQ(空線スケルチ), PR FREQ(可変型空線スケルチ), PAGER(ページャー), MESSAGE(メッセージ)の選択することができます。

※3：スペシャルバンク... [BAND]キーを押すごとに、あらかじめプリセットされているスペシャルバンクメモリーを選択することができます。TV CH (TVチャンネル), JR CH (R鉄道無線), NTVHF (国際HF), RADIO (海外ラジオ放送局、国内ラジオ放送局、TVチャンネル), UHF-CB (特選小電力), WLMFAB (ワイヤレスイク-AB), WLMFC (ワイヤレスマイク-C) 119 FA (救急), 119 FD (消防)を選択可能です。

※4：ラジオアンテナの設定... AMラジオを受信中にBARANT (1アンテナ)またはBAREXT (1アンテナ+ホイップアンテナ)に選択可能。また、FMラジオを受信中にEARPHO (ヤホンアンテナ)またはEXTANT (ホイップアンテナ)に選択可能です。

※5：音量調節... VOL アイコンが点滅し、VOL インジケーターで音量を表示します。DIAL ツマミを右にまわすと音量が上がり、左にまわすと音量が下がります。

※6：音量調節... VOL アイコンが点滅し、VOL インジケーターで音量を表示します。右にまわすと音量が上がり、左にまわすと音量が下がります。[VOL]キーを押しながらDIAL ツマミをまわすとDIAL 操作を行うことができます。

YAESU

The radio

本製品または他の当社製品についてのお問い合わせは、お買い上げいただきました販売店または、当社カスタマーサポートにお願いいたします。

八重洲無線株式会社 カスタマーサポート

電話番号 0570-088013

受付時間 平日9:00～12:00、13:00～17:00

八重洲無線株式会社 〒140-0002 東京都品川区東品川2-5-8 天王洲パークサイドビル



E H O 2 8 M O 1 4

Printed in Japan 2207F-OS

©2022 八重洲無線株式会社 無断転載・複写を禁ず